

佐々町  
子ども・子育てに関するアンケート調査  
結果報告書

令和6年12月

佐々町



# 目次

第1章 調査の概要.....	1
1. 調査の目的 .....	3
2. 調査の実施要領 .....	3
3. 調査結果利用上の注意.....	3
第2章 調査結果考察 .....	5
第3章 調査結果.....	15
1. 家族の状況について .....	17
2. 就労状況について.....	23
3. 幼稚園や保育園等の利用状況について.....	31
4. 「こども誰でも通園制度（仮称）」について .....	36
5. 平日の教育・保育について .....	37
6. 土日・祝日の教育・保育について.....	41
7. 病気の際の対応について .....	44
8. 一時預かりについて .....	50
9. 町の子育て支援サービスの利用状況について .....	57
10. 小学校就学後の放課後の過ごし方について .....	62
11. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援について .....	79
12. 佐々町での子育てについて .....	83



---

---

# 第1章 調査の概要

---

---



## 1. 調査の目的

本調査は、令和7年度を開始年度とする「第3期佐々町子ども・子育て支援計画」策定に向け、子どもや子育て世帯等の生活実態や動向、既存データでは把握困難な潜在的なニーズ等を把握・分析し、計画の基礎資料とすることを目的としています。

## 2. 調査の実施要領

調査時期	令和6年10月28日（月）～11月15日（金）
調査対象者	佐々町在住の下記の保護者 ・家庭保育世帯 ・幼稚園、保育園 ・小学1～3年生
調査方法	・家庭：郵送による配布・回収及びインターネット調査 ・幼稚園、保育園、小学生：園及び学校配布・回収

対象者	配布数	有効回収数	有効回答率
家庭保育世帯保護者	97件	53件	54.6%
幼稚園・保育園保護者	547件	368件	67.3%
小学1～3年生 の保護者	465件	370件	79.6%

## 3. 調査結果利用上の注意

- ・各設問のnは、回答者数を表しています。
- ・回答率は百分比の小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
- ・2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、選択肢ごとの割合を合計すると100%を超える場合があります。
- ・回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、図表には「0.0」と表記しています。
- ・数表・図表は、スペースの都合上、文言等を省略している場合があります。



---

---

## 第2章 調査結果考察

---

---



## 家族の状況

居住地域については、家庭保育及び幼稚園・保育園では「神田」、小学生では「口石」が最も高くなっています。

回答者については、いずれも7割以上が「母親」と回答しており、「父親」は家庭保育では2割台となっていますが、幼稚園・保育園及び小学生では1割以下となっています。また、子育て（教育を含む）を主に行っているのは、いずれも6割前後が「父母ともに」、3割が「主に母親」と回答しており、子育てについては両親が一緒に行っている割合が高くなっていますが、依然母親への負担が大きいことがうかがえます。また、今回の回答者の7割以上が母親であることから、本調査は主に「母親」の視点からみた子どもの生活状況や子育てに関する意識として考察することが妥当だと考えられます。

子どもをみてもらえる親族・知人の有無について、いずれも「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が6割を超えており、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が3割台となっていることから、比較的、身近なところに親族がおり、必要に応じて子育てに協力してもらえる環境にあることがうかがえます。

一方、いずれも約1割が「日常的、緊急時、いずれもない」と回答していることから、頼る人がいない、身近な人からの子育て支援を受けられない保護者が支援を受けやすい体制を整えていくことも必要です。

現在の家計の状況については、いずれも「普通」が最も高くなっていますが、3割は『苦しい』と回答しており、特に家庭保育では「やや苦しい」が前回調査と比べて10ポイント以上高くなっています。また、理想の子どもの人数を実現できない最も高い理由として、どの保護者からも「子育てや教育にお金がかかる」があげられており、前回調査と比べても10ポイント以上高くなっています。佐々町の子育て環境や支援の満足度では、どの保護者も「町の子育て支援の取組」を上位にあげており、自由記述でも「商品券の配布や給食費の助成など、支援が手厚い」という意見が多くみられましたが、更なる子育て世帯への経済的負担感の軽減に向けた取組みが求められています。

## 就労状況

保護者の就労状況について、父親は8割以上、母親は家庭保育：5割台、幼稚園・保育園及び小学生：8割以上が子育てをしながら就労していることから、今後も育児と仕事の両立が求められる状況であると考えられます。

今後の就労希望について、母親では幼稚園・保育園及び小学生の7割が「これまで通りの就労」を希望すると回答しており、習い事や行事、園や学校からの急な呼び出しへの対応や扶養の範囲での就労等、現状の生活に合った就労の維持を希望する現状維持派の割合が高くなっています。また、家庭保育では「これまで通りの就労」希望が約4割となっていますが、3割は「パート・アルバイトへの転換」を希望していると回答しています。

フルタイム及びパート・アルバイトへの転換希望者の母親に、転換時期について尋ねたところ、家庭保育では「1年以内に就労状況を変えたい」、幼稚園・保育園及び小学生では「1年より先、一番下の子が〇歳になるまでに就労状況を変えたい」が最も高くなっており、就労希望時の子どもの年齢について、家庭保育では「1歳」、幼稚園・保育園及び小学生では「7歳以上」が最も高くなっています。

就労していない理由について、母親ではいずれも「子どもが小さい間は、働かずにいたい」が最も高くなっていますが、2割前後が「子育てしながら働くことのできる適当な仕事がない」と回答していることから、今後も働きながら安心して子育てができるように環境づくりや細やかなニーズに対応できる支援体制の整備等が必要です。また、育児不安の軽減のためには家庭内あるいは地域の育児を支えるサポートの充実が重要であり、ワーク・ライフ・バランスが実現できるように、多様な働き方の選択、固定的役割分担意識等の解消、働きやすい職場環境をつくることが重要です。

## 幼稚園や保育園等の利用状況

現在利用中の教育・保育事業については、5割が「保育所」、4割が「認定こども園」と回答しており、それ以外の事業の利用率は1割以下となっています。

また、現在利用中の施設の利用希望については、約9割が「現在のままでよい」と回答しており、現状維持派の割合が高くなっています。

平日に幼稚園や保育所等を利用している理由については、「保護者が現在就労しているため」が最も高く、8割を超えており、母親の就労率とほぼ同率となっています。

現在利用中の幼稚園・保育所等については、「佐々青い実幼児園」(39.4%)が最も高く、次いで「佐々神田保育園」(23.6%)、「佐々第2保育所」(13.9%)となっています。

現在利用中の幼稚園・保育所等の満足度については、どの項目も「満足している：満足1＋満足2」が5割を超えており、特に「施設の清潔さ」「保育士の子どもへの接し方」「総合評価」は7割を超えています。

## 平日の教育・保育について（家庭保育）

現在、保育園を利用していない方でお子さんが0～2歳の方に、国が検討している「こども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合の利用状況について尋ねたところ、利用希望者は7割を超えており、約5割は「午前・午後通して利用したい」と回答しています。

幼稚園や保育所等を利用していない理由については、5割が「子どもが小さいうちは、自分でみたくため」、2割が「利用したいが、幼稚園・保育所等に空きがないため」と回答しています。また、9割が平日に教育・保育事業を「定期的に利用したい」と回答しており、利用したい事業としては「幼稚園」「認可保育所」「認定こども園」が4割を超えています。

平日に定期的に教育・保育事業を利用したい理由については、7割が「子どもの教育や発達のため」、3割前後が「保護者や就労予定または求職中である」「保護者が現在就労している」と回答しています。

## 土日・祝日の教育・保育について

家庭保育では土日・祝日ともに「利用する必要はない」が最も高く、6割を超えています。約4割は土曜日は『利用したい』と回答しています。また、幼稚園・保育園では、日祝日は「利用する必要はない」が7割を超えているものの、土曜日の利用希望者が約7割となっています。いずれも前回調査と比べて土曜日は「利用する必要はない」が10ポイント以上高くなっていますが、依然日祝日に比べて土曜日の利用ニーズは高いことがうかがえます。

土日・祝日に幼稚園・保育所等を利用したい理由については、いずれも「(月に数回)仕事が入るため」(家庭：66.7%、幼保：74.7%)が最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(家庭：42.9%、幼保：32.0%)、「息抜きのため」(家庭：38.1%、幼保：22.1%)となっており、家庭保育では前回調査と比べて「(月に数回)仕事が入るため」が高く、「息抜きのため」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

## 病気の際の対応について

病気等で教育・保育サービスの利用ができなかった経験については、幼稚園・保育園及び小学生ともに7～8割が「あった」と回答しています。行った対処方法としては「母親が休んだ」が最も高くなっていますが、前回調査と比べて「父親が休んだ」が10ポイント以上高くなっていることから、父親の育児参加への意識が高まってきていることがうかがえます。

両親どちらかが休んで対応したと回答した保護者に、病児・病後児のための保育施設等の利用希望について尋ねたところ、幼稚園・保育園及び小学生ともに「利用したいとは思わない」が5割を超えており、利用希望は3割台となっており、7割は「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」を利用したいと回答しています。

病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思わない理由としては、幼稚園・保育園及び小学生ともに「親が仕事を休んで対応する」が最も高く、次いで幼稚園・保育園では「病児・病後児を他人に看ってもらうのは不安」(46.1%)、「利用料がかかる・高い」(34.4%)、小学生では「利用料がかかる」(17.9%)、「他人に看ってもらうのは不安」(14.9%)となっており、病児・病後児を他人にみってもらう不安感、利用料金が発生すること等から、両親どちらかが仕事を休んで対応している状況がうかがえます。

## 一時預かりについて

私用、親の通院、就労等の目的での一時預かりの現在の利用状況については、家庭保育及び幼稚園・保育園ともに8割が「利用していない」と回答しており、各サービスの利用率はいずれも1割以下となっています。

私用や冠婚葬祭、病気、就労等の目的での一時預かりの利用希望について、家庭保育では「私用、リフレッシュ目的で利用したい」が最も高く、5割を超えているものの、「経済的に困っている」世帯では「利用したいとは思わない」の割合が高くなっています。幼稚園・保育園では「利用したいとは思わない」が最も高くなっていますが、約4割は「私用、リフレッシュ目的で利用したい」と回答しています。また、前回調査と比べて、家庭保育及び幼稚園・保育園ともに「私用、リフレッシュ目的で利用したい」が10ポイント以上高くなっており、特にリフレッシュ目的での利用は罪悪感を持つ等利用しにくい傾向があると考えられるため、リフレッシュ目的での一時預かり利用における心理的なハードルを下げる工夫、利用者負担の軽減等が必要です。

保護者の用事等で家族以外に預ける必要性については、家庭保育及び幼稚園・保育園ともに「利用する必要はない」が「あった」を大きく上回っています。

幼稚園・保育園の保護者に長期休暇期間中の幼稚園・認定こども園の利用希望について尋ねたところ、6割は『利用したい』と回答しており、長期期間中の利用希望のニーズが高いことがうかがえます。また、利用希望の理由については、約9割が「仕事が入る」、2割前後が「家事等の用事をまとめて済ませる」「息抜きのため」と回答しています。

## 町の子育て支援サービスの利用状況

「ぶくぶくクラブ」の利用状況については、いずれも「知っていたが、これまで利用したことがない」が最も高く、「ぶくぶくクラブ」の利用経験者は3～4割となっています。また、今後の利用については、幼稚園・保育園では8割以上が「新たに利用するつもりはない」と回答していますが、家庭保育では3割が「増やしたい」と回答しており、前回調査と比べても「増やしたい」「これまで通りの頻度で利用する」が10ポイント以上高くなっていることから、家庭保育での利用希望意向が高くなっています。

「ありす」の利用状況については、いずれも6割が「知っていたが、これまで利用したことがない」と回答しており、「ありす」の利用経験者は1割前後となっています。また、幼稚園・保育園では約9割が「新たに利用するつもりはない」と回答していますが、家庭保育では約2割が「増やしたい」と回答しており、家庭保育での利用希望意向が高くなっています。

自由記述では「ぶくぶくクラブ」「ありす」の立地についての意見、「ぶくぶくクラブ」の週末の開所希望、「ありす」の前日予約の厳しさを訴える意見等もあり、「ありす」については、家庭保育では約3割、幼稚園・保育園では約2割が「知らなかった」と回答しています。町民のニーズを把握し、時代の流れに沿ったサービスの提供、加えて実施内容や利用対象者・利用方法等まで含めた細やかな情報の周知に力を入れ、認知からサービス利用に至るまでのきっかけづくりを行い、より多くの方が気軽に利用できるようにしていくことが必要です。

## 小学校就学後の放課後の過ごし方

### ◆就学前（5歳以上）

放課後過ごさせたい場所について、小学校低学年（1～3年生）の間は「放課後児童クラブ（学童保育）」、小学校高学年（4～6年生）の間は「自宅」が最も高くなっています。また、「配偶者がいない」世帯及び「経済的に困っている」世帯では、低学年のうち「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望が高くなっています。

土曜日の利用希望について、いずれも「利用する必要はない」が「利用したい」を上回っていますが、低学年では4割が「利用したい」と回答しています。

日祝日の利用希望について、いずれも「利用する必要はない」が8割を超えています。

夏休み・冬休みの長期休暇期間中の利用希望について、高学年では5割が「利用する必要はない」と回答していますが、低学年では7割が長期休暇中の利用を希望していることから、土曜日及び長期期間中の低学年の利用希望のニーズが高いことがうかがえます。

### ◆小学生

小学校低学年の放課後の過ごし場所について、4割が「自宅に家族といる」「放課後児童クラブ（学童保育）」、約3割が「習い事（クラブ活動、音楽教室など）」と回答しています。また、「配偶者がいない」世帯及び「経済的に困っている」世帯では、「放課後児童クラブ（学童保育）」の割合が高くなっています。

放課後過ごす場所として重視していることについては、9割が「子どもが安全・安心に過ごせること」、5割が「希望する時間に利用できること」、3割が「充実した施設・設備があること」と回答しており、安全性や希望時間での利用、充実した設備等が求められています。

放課後児童クラブ（学童保育）の利用実績については、平日及び夏休み・冬休みでは約5割が「現在利用している」と回答していますが、土曜日及び日祝日では「利用実績なし」が最も高く、特に日祝日では約9割が「利用実績なし」と回答しています。

今後の利用希望について、平日及び夏休み・冬休みでは約5割が「希望する」と回答していますが、土曜日及び日祝日では4～5割が「希望しない」と回答しており、現在の利用状況と今後の利用希望はほぼ同率となっています。また、利用したい時間帯については、土曜日の希望終了時刻は現状より遅い時間帯のニーズが高くなっています。

放課後児童クラブ（学童保育）の利用予定については、「利用予定」が「利用する予定はない」をやや上回っていますが、前回調査と比べて「利用予定」が27.7ポイント高くなっていることから、今後も共働き世帯の増加に伴い、放課後子どもが安心して過ごせる居場所を求める保護者の関心も高くなっていることから、利用予定者が増加傾向になることが考えられます。また、利用予定期間について、開始時期では「1年生」が最も高く、9割を超えています。終了時期では「3年生」「4年生」「6年生」がそれぞれ2割台と分散しています。

放課後児童クラブ（学童保育）に望むサービスについては、「放課後児童クラブ（学童保育）と家庭との連絡や連携」「習い事（英語や習字など）」が2割を超えています。自由記述では「放課後児童クラブ（学童保育）と家庭との連絡や連携」について、「LINEでの返信もすぐであり、利用しやすい」「今まで通りでいい」という好意的な意見も多くみられますが、現状に満足しつつも、子どもの様子やトラブルに関する情報提供も求められています。また、「習い事（英語や習字など）」については、特に「習字」「英語」「そろばん」「運動」の習い事の充実と送迎システムを望む声あげられています。

放課後児童クラブ（学童保育）を利用しない理由については、3割前後が「子どもが希望していないから」「子どもの祖父母や親戚の人がみているから」、2割が「現在就労していないから」と回答しています。

## 育児休業など職場の両立支援制度について

育児休業の取得について、母親では約5割～6割が「取得した（取得中である）」と回答していますが、父親ではいずれも「取得していない」が最も高く、特に幼稚園・保育園及び小学生では8割を超えています。

育児休業を取得していない理由について、父親ではいずれも「仕事が忙しかった」が最も高く、次いで、家庭保育では「収入減となり、経済的に苦しくなる」、幼稚園・保育園及び小学生では「配偶者が育児休業制度を利用した」となっています。

家庭保育世帯では、父親の育児休業の取得率が3割程度となっているものの、依然、母親の取得率の割合が高くなっているため、育児休業の取得条件の緩和や勤務軽減等の措置、男性が育児休業を取得しやすい雇用環境整備、職場の理解や協力体制を整えることが必要です。

## 佐々町での子育てについて

### ◆子育てに関する悩み・相談相手/子どもの成長で大切なこと

子育てをしていて感じる悩みについて、家庭保育及び幼稚園・保育園では4割が「子どもの教育・しつけ」、小学生では3割が「子どもの学力」と回答しています。また、家庭保育では「子どもとの過ごし方・遊び方」「子どもの健康」「子どもの発育」「自分の時間が持てない」「子育てに伴う経済的な負担」も3割を超えています。また、幼稚園・保育園及び小学生の「配偶者がいない」世帯では「配偶者がいる」世帯と比べて、「自分の時間が持てない」割合が高くなっています。

相談相手については、いずれも6割以上が「祖父母等の親族」「友人や知人」と回答しており、幼稚園・保育園では「幼稚園や保育園の先生」が4割を超えています。いずれも公的な相談場所等に相談している割合は低くなっています。

子どもが成長する上で大切だと思っていることについて、小学生では約9割が「友達との関係」、約8割が「家族とのふれあい」、約5割が「学校の勉強」と回答しています。

子育てに関する悩みは多岐にわたり、妊娠期から成人するまで長期的であり、月齢・年齢が進むにつれ、悩みの内容も変化していくため、保護者のニーズの把握と子どもの成長に合わせた情報の周知が必要です。相談することは難易度が高く、複数の要因が複雑に絡まっている可能性や相手に伝わるように言語化しなければという負担感等から、気軽に相談をすることが難しいと考える子育て世代も多いようです。幼稚園・保育園の「配偶者がいない」世帯では「配偶者がいる」世帯に比べて、「親同士の付き合い」に悩んでいる割合も高いことから、オンライン等で気軽に悩みを相談できるような相談体制を整えることで保護者の孤立化を防ぎ、育児不安を抱えた人の発見や児童虐待などの未然防止にもつながるのではないかと考えます。また、経済的に困窮している世帯では、子どもが成長するにつれて経済的負担を訴える声が多いことから、不安軽減のためには経済支援に加え、さまざまな支援等を積極的に周知していくことも必要です。

#### ◆現在・今後・理想の子どもの人数

理想とする子どもの人数の平均は、家庭保育では「2.5人」、幼稚園・保育園では「2.8人」、小学生では「2.9人」となっており、いずれも「理想」と比べて「現在」の子どもの人数が低くなっています。

理想とする子どもの人数を実現できない理由については、いずれも「子育てや教育にお金がかかる」が最も高く、次いで、家庭保育及び幼稚園・保育園では「仕事との両立に支障が生じる」、小学生では「年齢的（肉体的）に困難」となっています。

#### ◆佐々町の子育て環境や支援についての満足度

佐々町の子育ての環境や支援について、満足度が高い（満足1＋満足2）のは、いずれも「町の子育て支援の取組」「町立図書館」となっており、家庭保育では「町の相談窓口」、幼稚園・保育園及び小学生では「公園などの外の遊び場」も高くなっています。

また、いずれも「屋内の遊び場」「交通機関（バス、電車など）」、家庭保育及び幼稚園・保育園では「授乳室やおむつ交換台などの設備」、家庭保育では「近所づきあい（協力、相談）」、小学生では「安全性（事故や犯罪など）」の『不満足』が『満足』を上回っています。

今後も佐々町で子育てをしていきたいかについては、いずれも9割は『佐々町で子育てをしていきたい』と回答しており、子育て世帯は今後も佐々町で子育てをしていくことを望む割合が高くなっています。

佐々町の子育て環境や支援への満足度及び定住希望の割合も高くなっていますが、近年の気候変動に伴い、猛暑日の日数が年々増加傾向にあり、集中豪雨の発生等も生じていること、時代に流れに伴い、ゲーム機器等の普及により子どもの居場所が室内に変化していることから、特に「屋内の遊び場」については改善を求める意見（自由記述）が多く寄せられています。今回の調査を踏まえ、子ども達や子育てをする保護者等のニーズを把握し、子どもが健やかに育ち、安心して産み育てられる環境づくりをすることが必要です。



---

---

## 第3章 調査結果

---

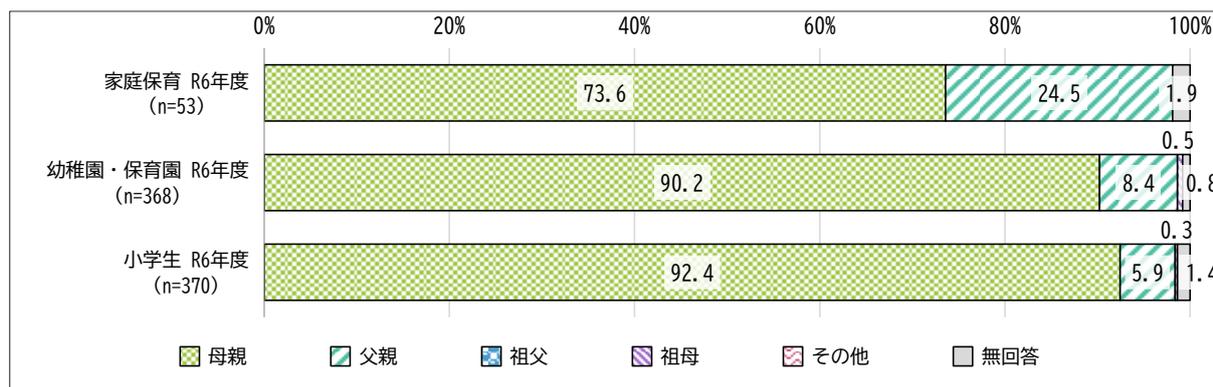
---



# 1. 家族の状況について

## (1) 回答いただく方はどなたですか。【問1】

○いずれも「母親」(家庭：73.6%、幼保：90.2%、小学生：92.4%)が最も高く、次いで「父親」(家庭：24.5%、幼保：8.4%、小学生：5.9%)となっており、幼稚園・保育園及び小学生では「母親」が9割を超えています。また、家庭保育では「父親」が2割を超えています。

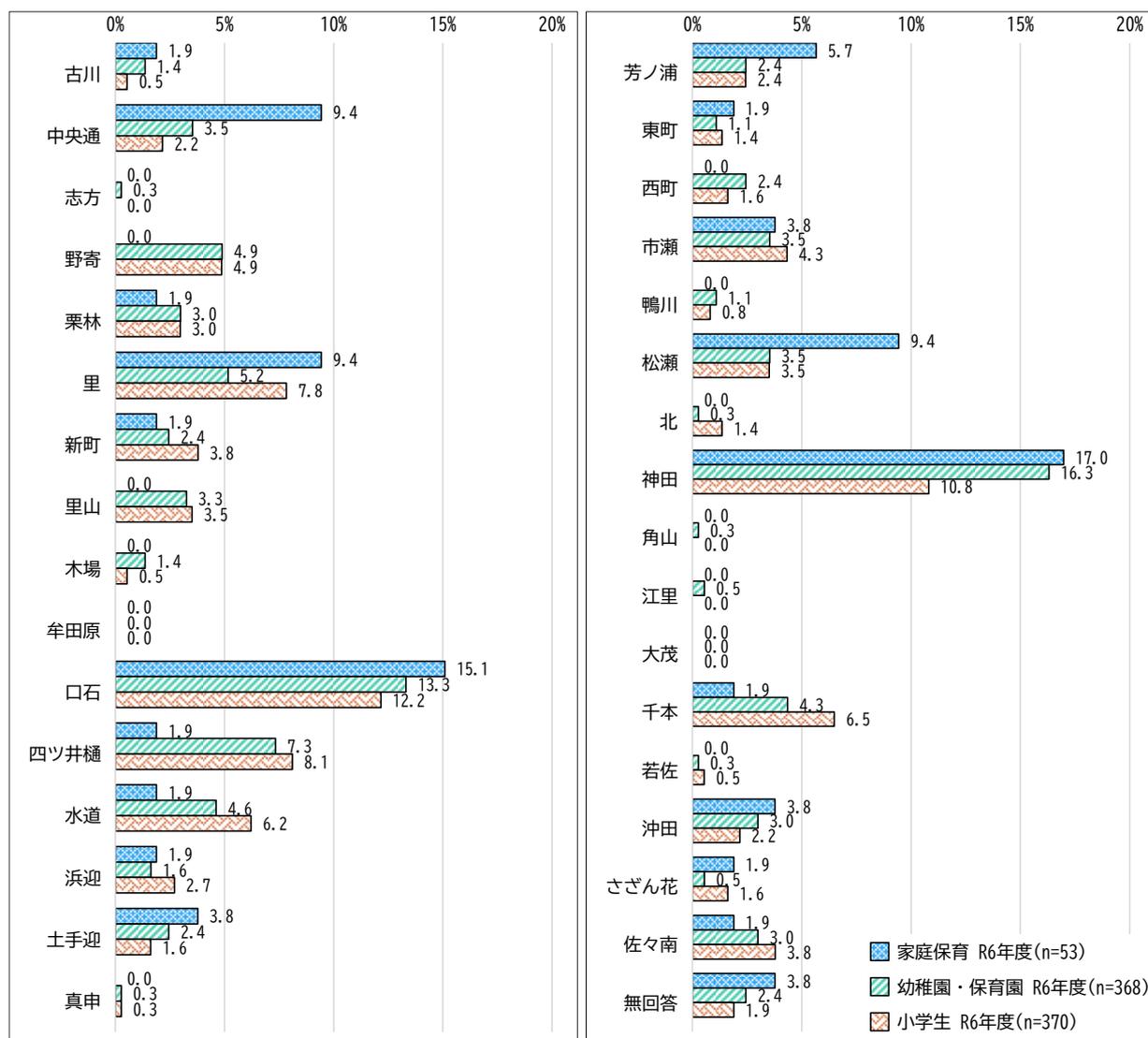


## (2) あなたは現在、どちらにお住まいですか。【問2】

○家庭保育では「神田」が17.0%と最も高く、次いで「口石」15.1%となっています。

○幼稚園・保育園では「神田」が16.3%と最も高く、次いで「口石」13.3%となっています。

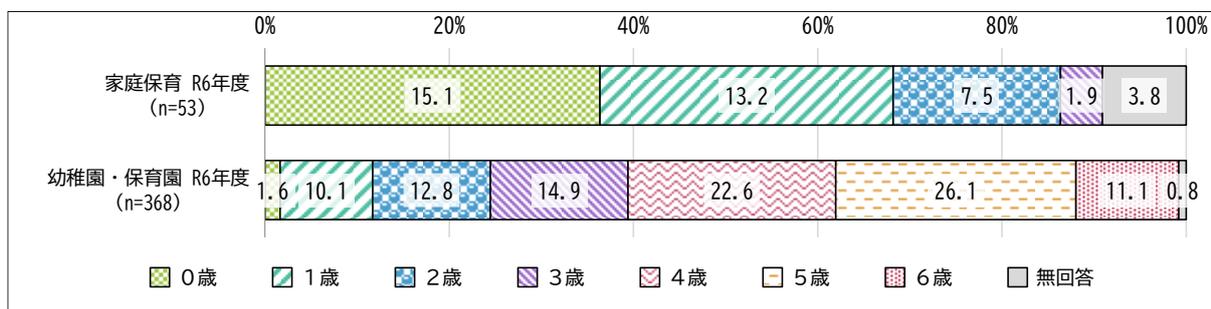
○小学生では「口石」が12.2%と最も高く、次いで「神田」10.8%となっています。



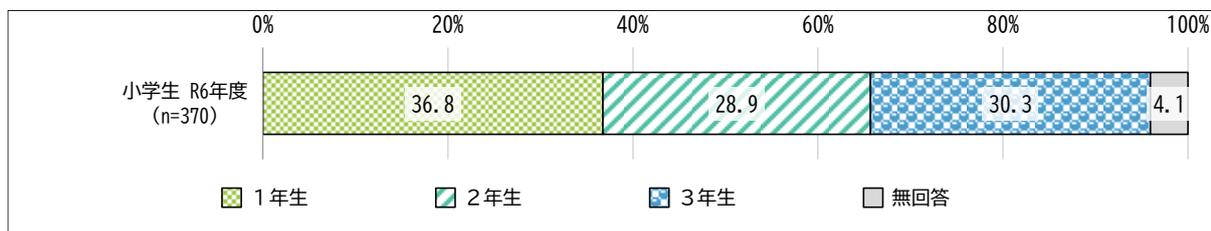
### (3) お子さんについてお答えください。【問3】

- 家庭保育では「0歳」が15.1%と最も高く、次いで「1歳」13.2%、「2歳」7.5%となっています。
- 幼稚園・保育園では「5歳」が26.1%と最も高く、次いで「4歳」22.6%、「3歳」14.9%となっています。
- 小学生では「1年生」が36.8%と最も高く、次いで「3年生」30.3%、「2年生」28.9%となっています。
- きょうだい数について、家庭保育では「0人」49.1%、幼稚園・保育園では「2人」35.3%、小学生では「3人」32.4%が最も高くなっています。

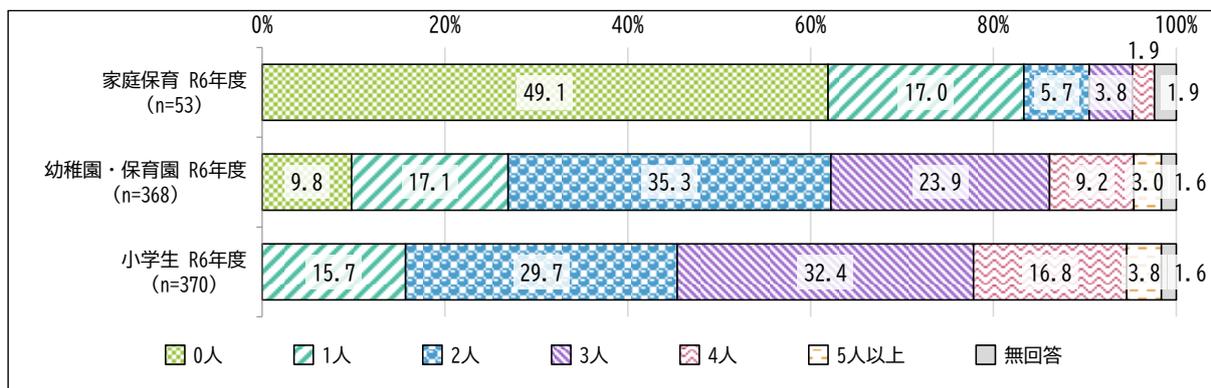
【年齢】



【学年】

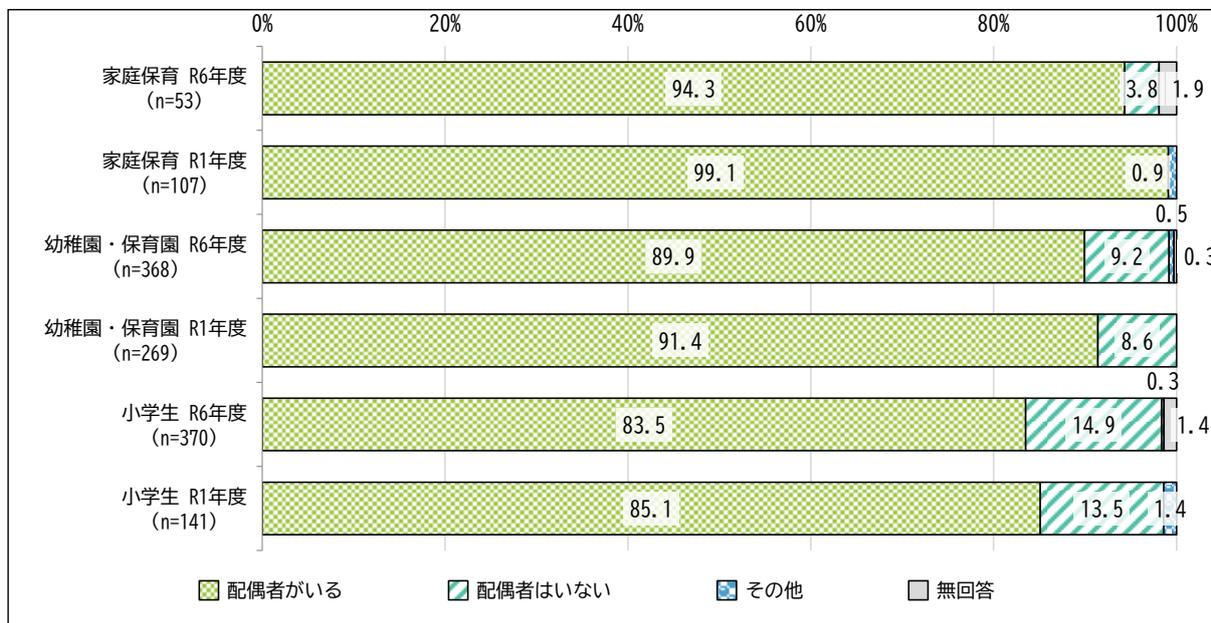


【きょうだい数】



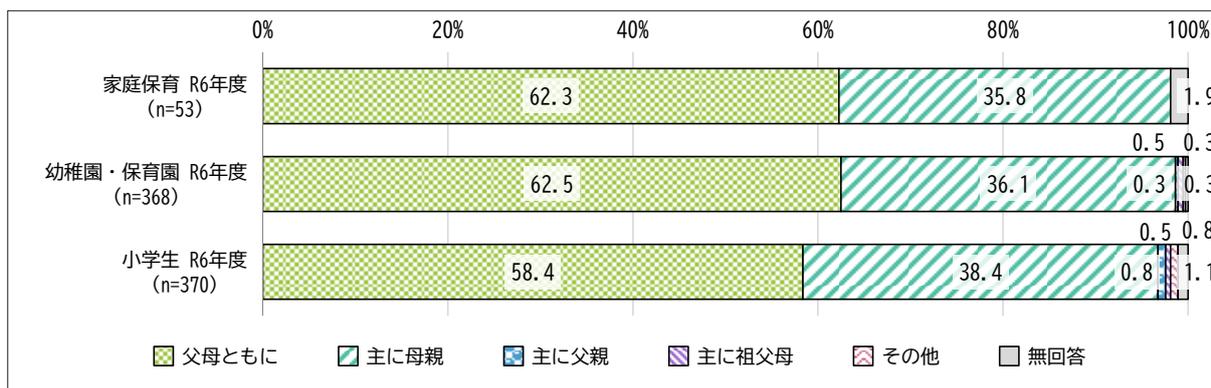
#### (4) お子さんの母または父の配偶関係についてお答えください。【問4】

○いずれも「配偶者がいる」(家庭：94.3%、幼保：89.9%、小学生：83.5%)、「配偶者がいない」(家庭：3.8%、幼保：9.2%、小学生：14.9%)となっており、8割以上は「配偶者がいる」と回答しています。



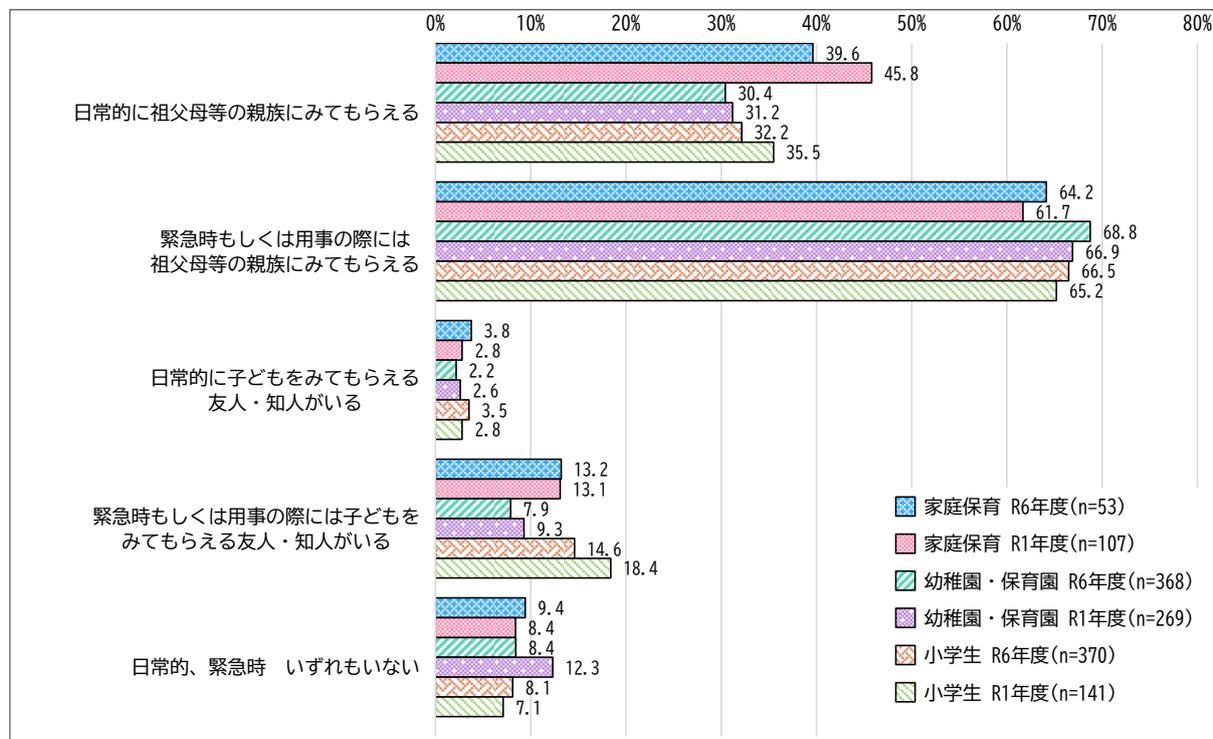
#### (5) お子さんの子育てを主に行っているのはどなたですか。【問5】

○いずれも「父母ともに」(家庭：62.3%、幼保：62.5%、小学生：58.4%)が最も高く、次いで「主に母親」(家庭：35.8%、幼保：36.1%、小学生：38.4%)となっています。



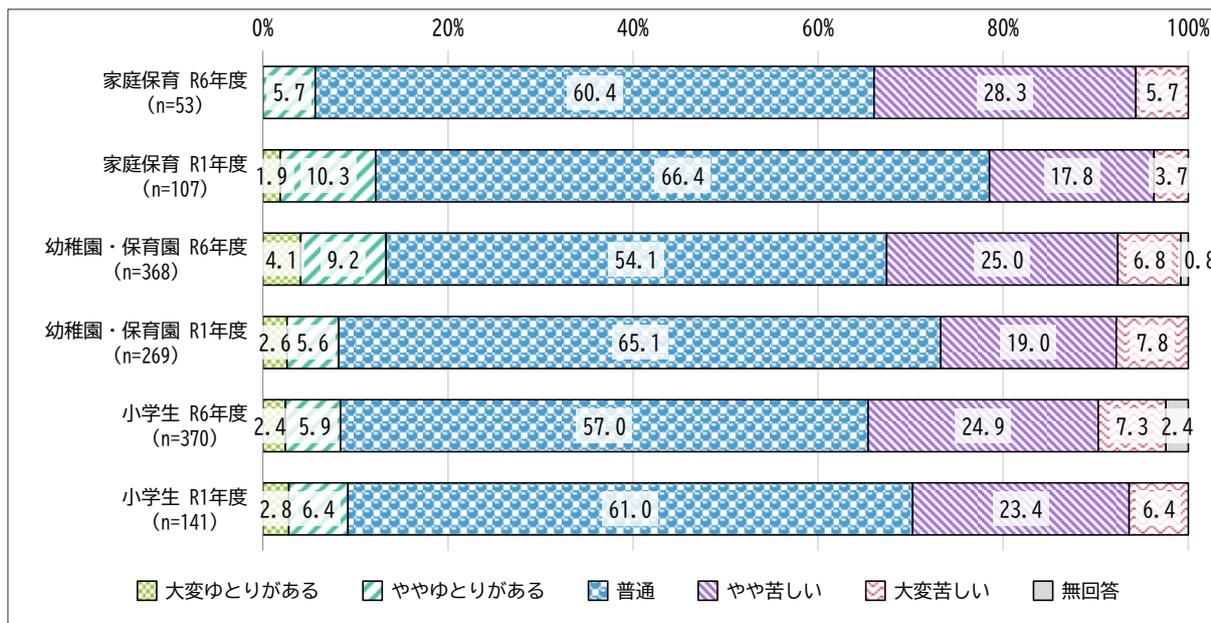
## (6) お子さんを日頃みてもらえる親族・知人はいますか。(複数回答)【問6】

○いずれも「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」(家庭:64.2%、幼保:68.8%、小学生:66.5%)が最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(家庭:39.6%、幼保:30.4%、小学生:32.2%)となっています。



## (7) 現在の暮らしの家計状況をどのように感じていますか。【問7】

- いずれも「普通」（家庭：60.4%、幼保：54.1%、小学生：57.0%）が最も高く、次いで「やや苦しい」（家庭：28.3%、幼保：25.0%、小学生：24.9%）となっています。
- 「ゆとりがある：大変ゆとりがある+ややゆとりがある」（家庭：5.7%、幼保：25.0%、小学生：24.9%）、「苦しい：やや苦しい+大変苦しい」（家庭：34.0%、幼保：31.8%、小学生：32.2%）となっており、3割は『苦しい』と回答しています。
- 前回調査との比較をみると、家庭保育では「やや苦しい」が高く、幼稚園・保育園では「普通」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

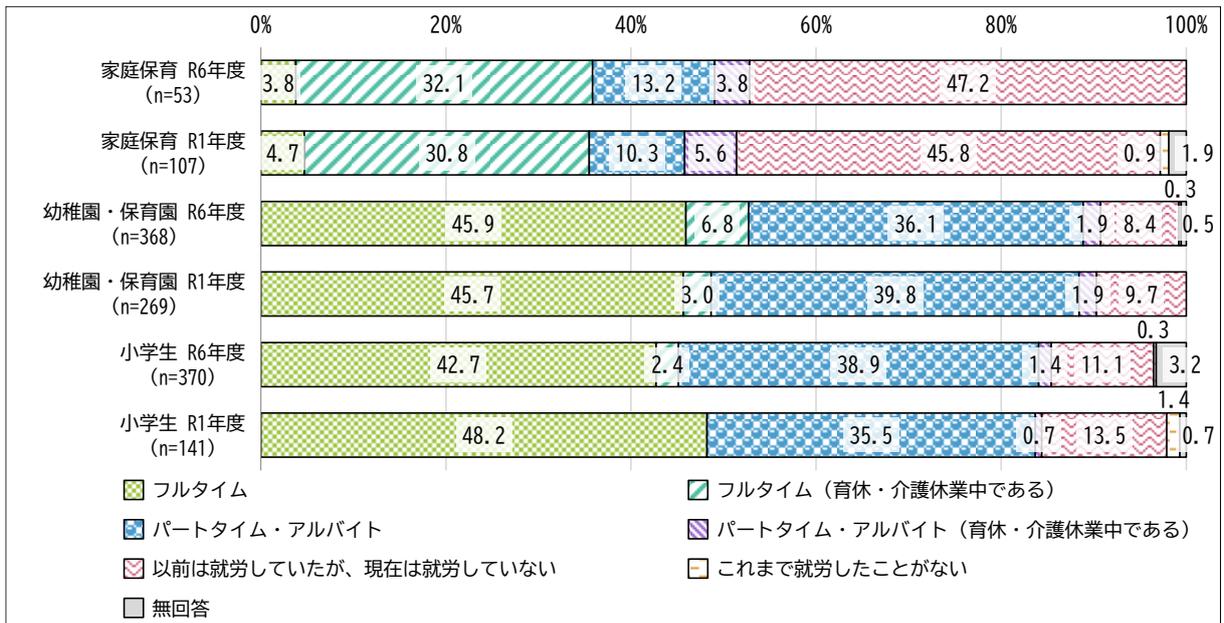


## 2. 就労状況について

### (1) 母親・父親それぞれの就労状況をお答えください。【問8】

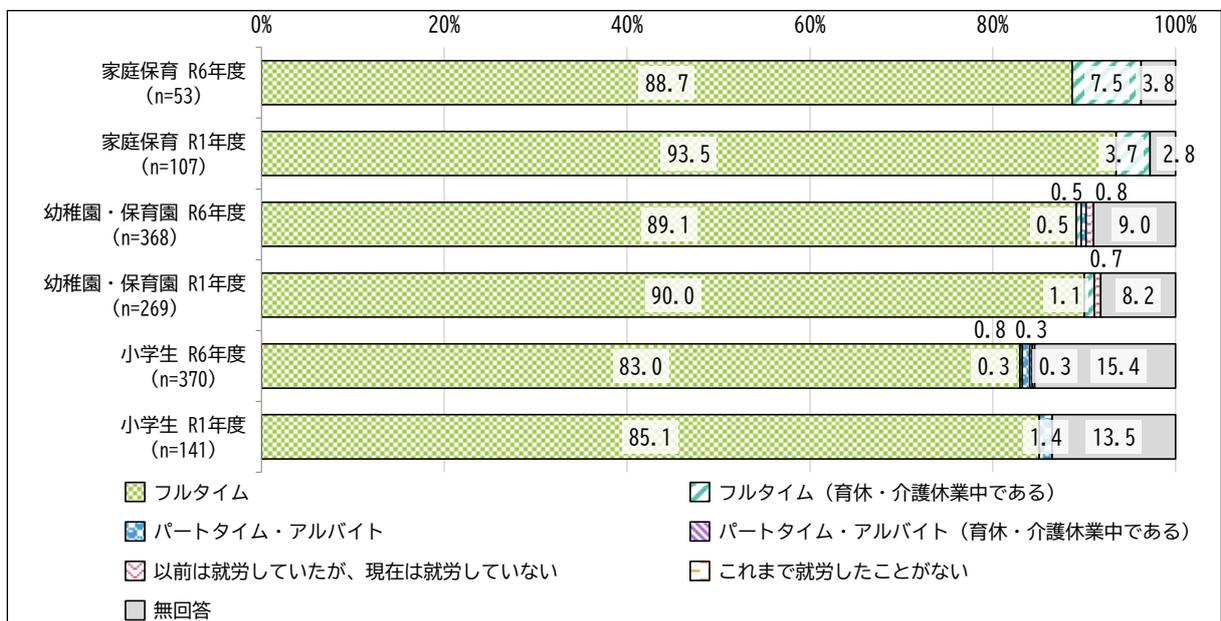
#### ◆母親

- 家庭保育では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が47.2%と最も高く、次いで「フルタイム（育休・介護休業中である）」32.1%となっています。
- 幼稚園・保育園及び小学生では「フルタイム」（幼保：45.9%、小学生：42.7%）が最も高く、次いで「パートタイム・アルバイト」（幼保：36.1%、小学生：38.9%）となっています。



#### ◆父親

- いずれも「フルタイム」（家庭：88.7%、幼保：89.1%、小学生：83.0%）が最も高く、8割を超えています。

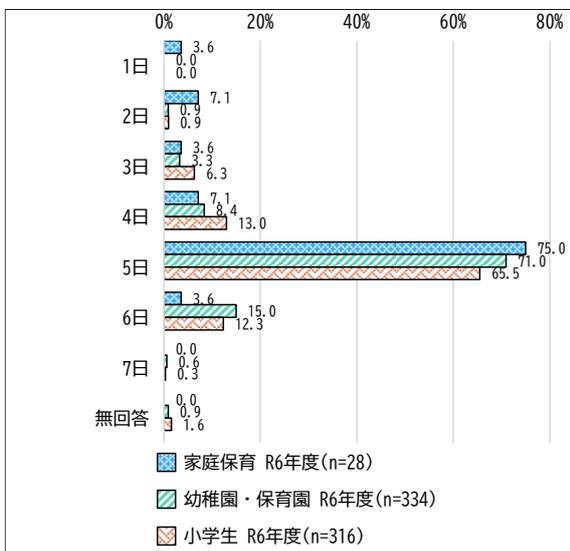


(2) 週あたりどのくらい働いていますか。【問9】

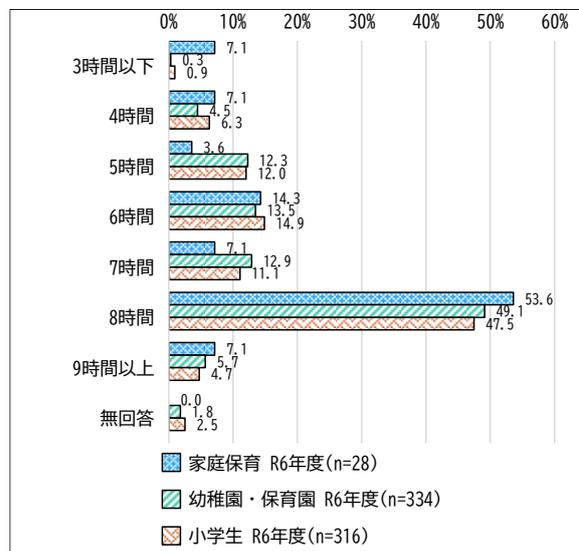
◆母親

- 週当たりの就労日数では、いずれも「5日」（家庭：75.0%、幼保：71.0%、小学生：65.5%）が最も高くなっています。
- 1日当たりの就労時間では、いずれも5割前後が「8時間」（家庭：53.6%、幼保：49.1%、小学生：47.5%）と回答しています。
- 家を出る時刻について、家庭保育では「7時台」、幼稚園・保育園及び小学生では「8時台」が最も高く4割を超えており、帰宅時刻ではいずれも4割前後が「18時台」と回答しています。

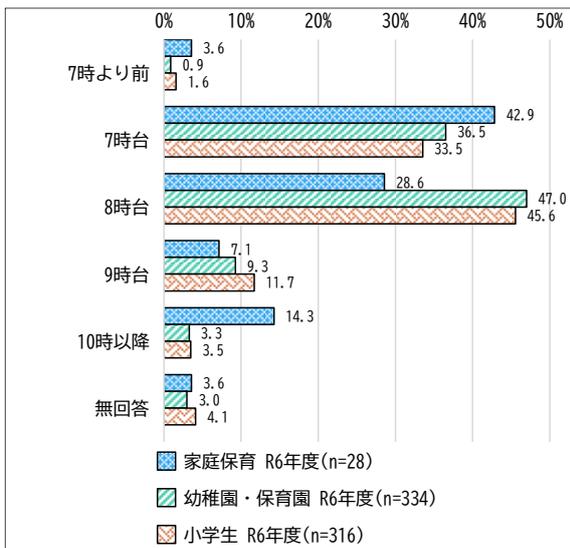
【週当たりの就労日数】



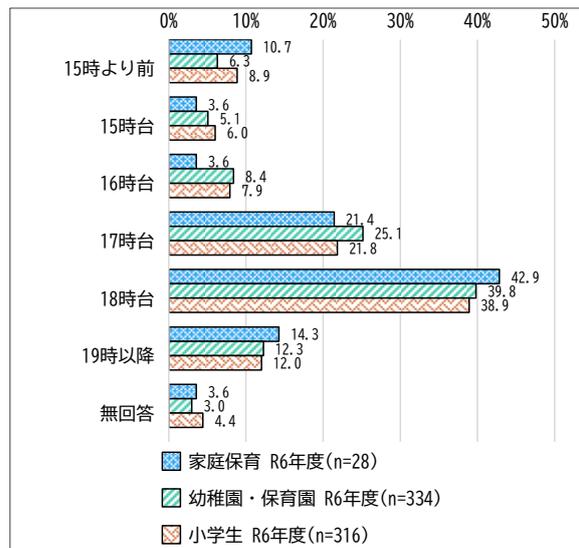
【1日当たりの就労時間】



【家を出る時刻】



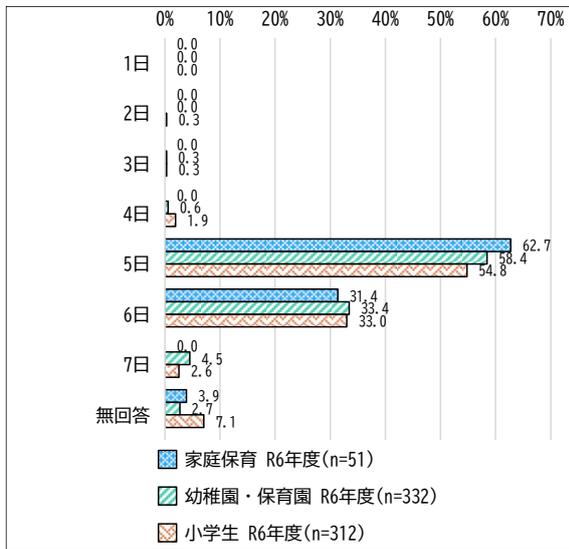
【帰宅時刻】



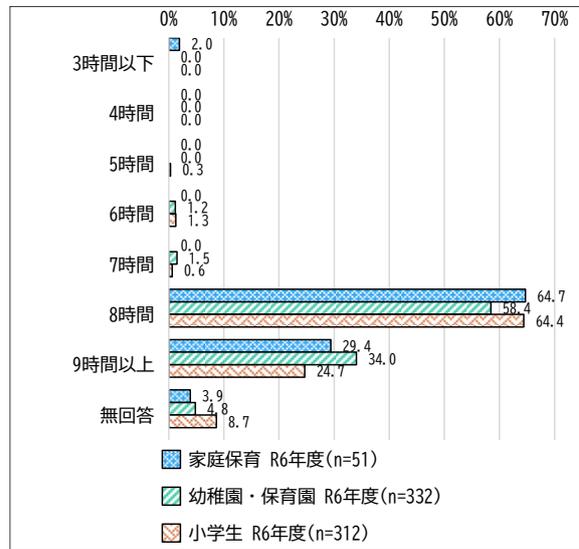
## ◆父親

- 週当たりの就労日数では、いずれも「5日」（家庭：62.7%、幼保：58.4%、小学生：54.8%）が最も高く、次いで「6日」（家庭：31.4%、幼保：33.4%、小学生：33.0%）となっています。
- 1日当たりの就労時間では、いずれも6割前後が「8時間」（家庭：64.7%、幼保：58.4%、小学生：64.4%）と回答しており、「9時間以上」（家庭：29.4%、幼保：34.0%、小学生：24.7%）も2～3割台となっています。
- 家を出る時刻については、いずれも約5割が「7時台」と回答しており、帰宅時刻では「19時以降」が4割台、「18時台」が3割前後となっています。

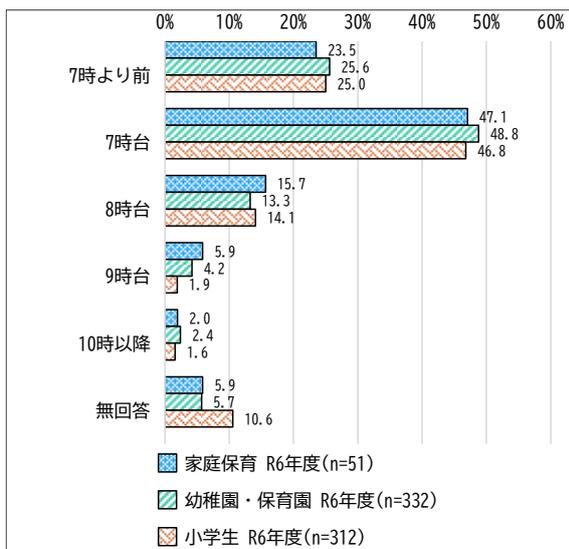
【週当たりの就労日数】



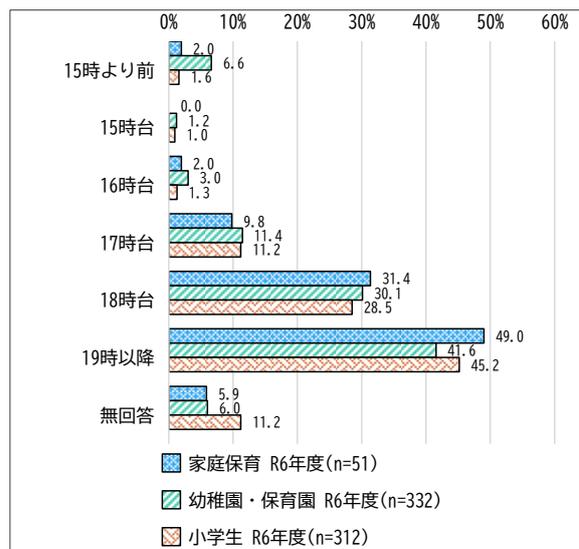
【1日当たりの就労時間】



【家を出る時刻】



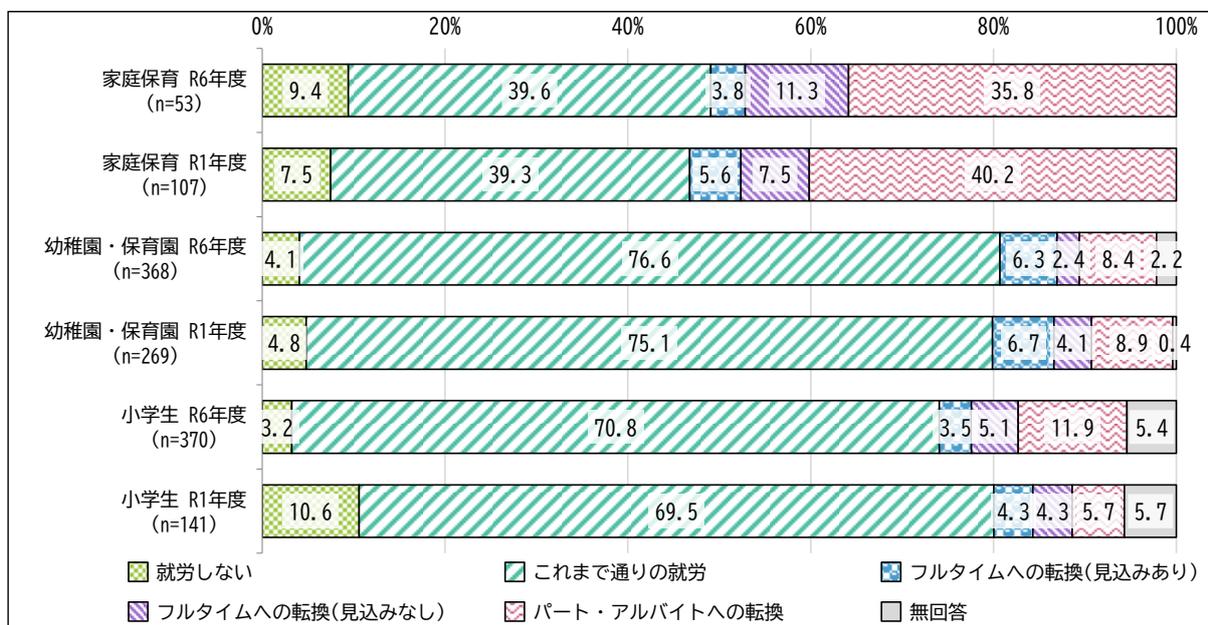
【帰宅時刻】



### (3) 今後、どのような就労状況を希望されますか。【問 10】

#### ◆母親

○今後の就労希望について、いずれも「これまで通りの就労」(家庭：39.6%、幼保：76.6%、小学生：70.8%)が最も高くなっています。また、家庭保育では3割が「パート・アルバイトへの転換」と回答しています。

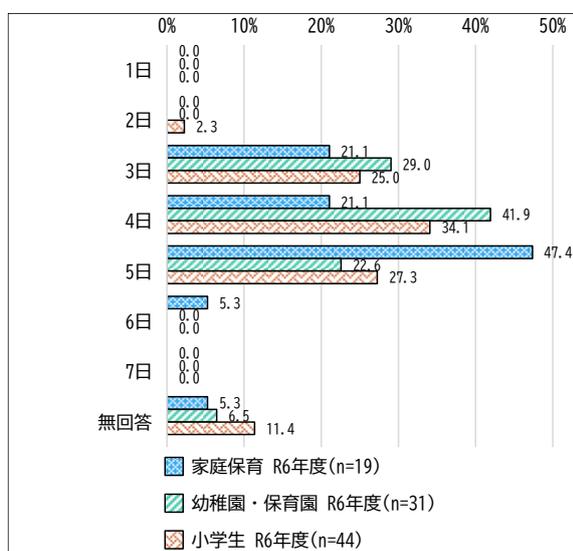


#### ◆パート・アルバイトへの転換時の希望勤務日数及び勤務時間

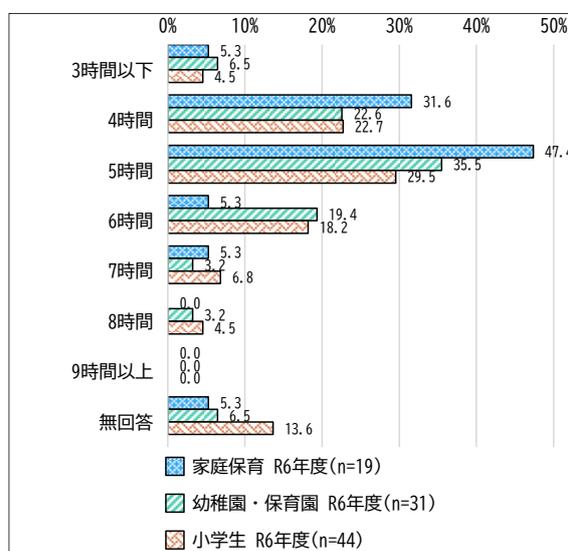
○希望する週あたり勤務日数について、家庭保育では「5日」47.4%、幼稚園・保育園及び小学生では「4日」(幼保：41.9%、小学生：34.1%)が最も高くなっています。

○希望する1日当たりの勤務時間について、いずれも「5時間」(家庭：47.4%、幼保：35.5%、小学生：29.5%)が最も高くなっています。

【希望する週あたり勤務日数】

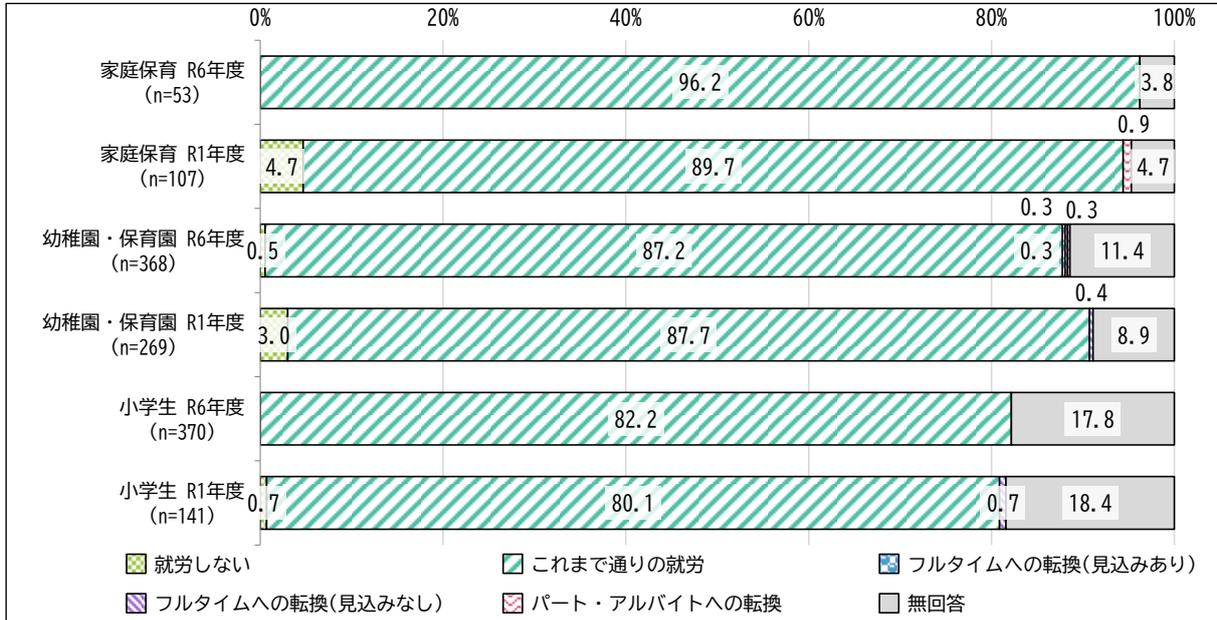


【希望する1日当たり勤務時間】



## ◆父親

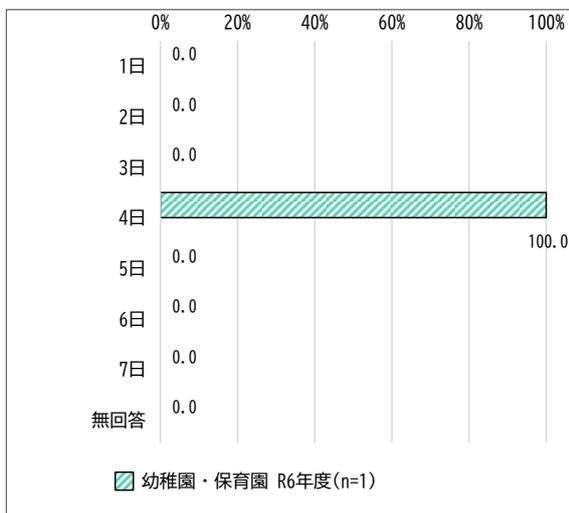
○今後の就労希望については、いずれも「これまで通りの就労」（家庭：96.2%、幼保：87.2%、小学生：82.2%）が最も高く、8割を超えています。



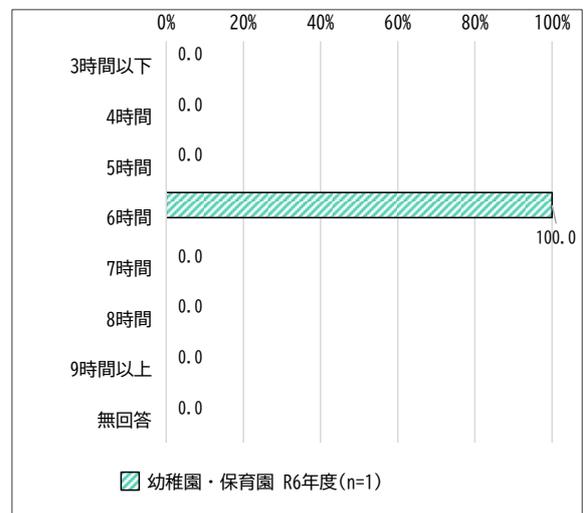
## ◆パート・アルバイトへの転換時の希望勤務日数及び勤務時間

○希望する週当たり勤務日数については、サンプル数が少ないため参考程度。

【希望する週当たり勤務日数】



【希望する1日当たり勤務時間】

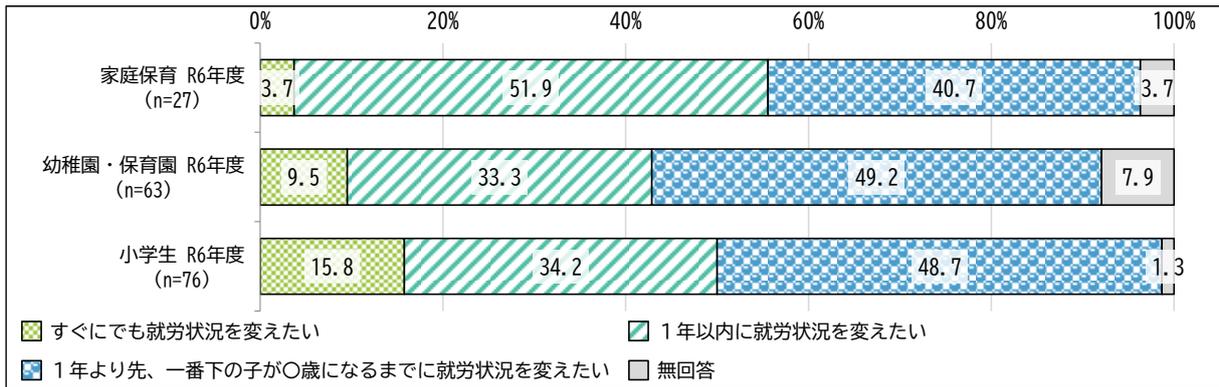


(4) いつごろの転換を希望しますか。【問11】

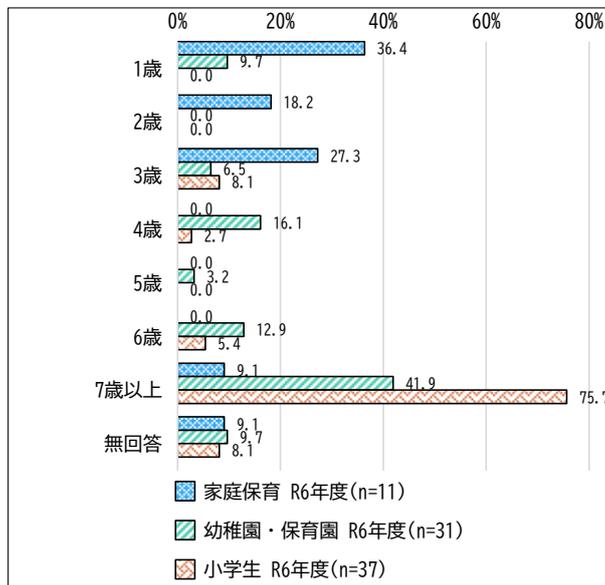
◆母親

○転換時期については、家庭保育では「1年以内に就労状況を変えたい」51.9%、幼稚園・保育園及び小学生では「1年より先、一番下の子が〇歳になるまでに就労状況を変えたい」（幼保：49.2%、小学生：48.7%）が最も高くなっています。

○就労希望時の子どもの年齢について、家庭保育では「1歳」36.4%、幼稚園・保育園及び小学生では「7歳以上」（幼保：41.9%、小学生：75.7%）が最も高くなっています。

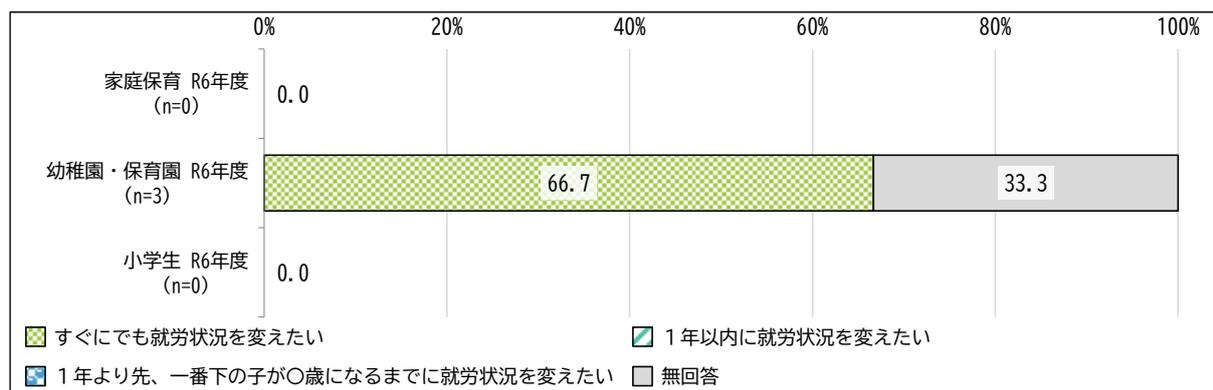


【就労希望時の子どもの年齢】



## ◆父親

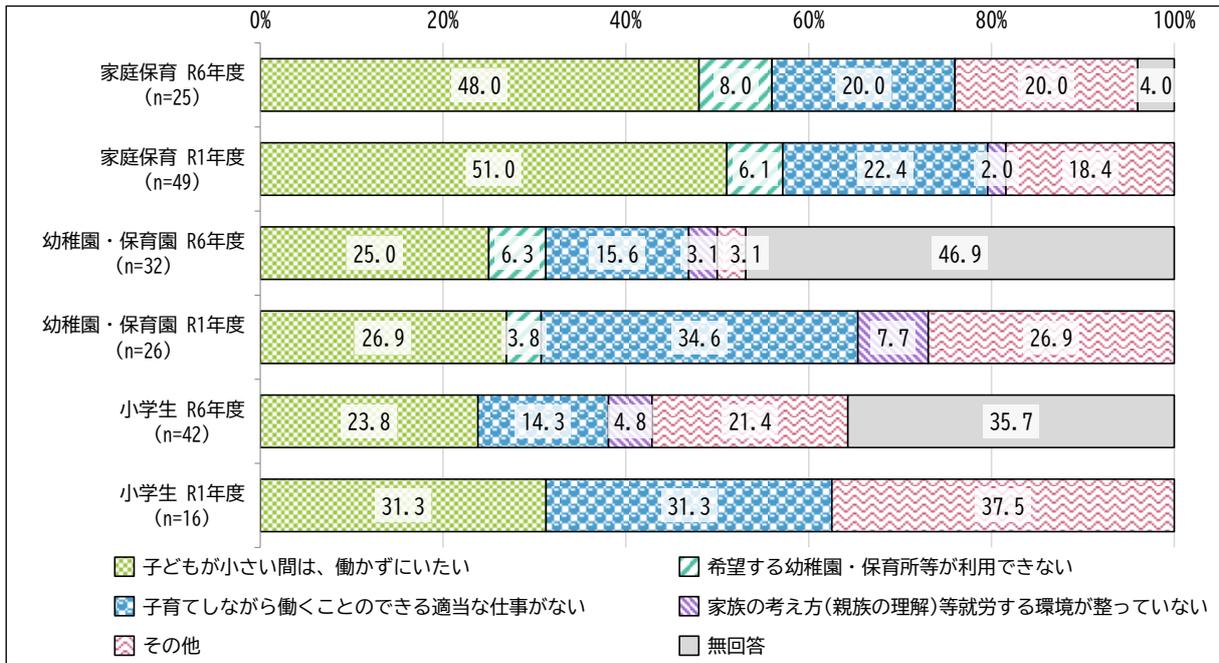
○父親についてはサンプル数が少ないため参考程度。



(5) 就労の希望はあっても、就労していない理由をお答えください。【問 12】

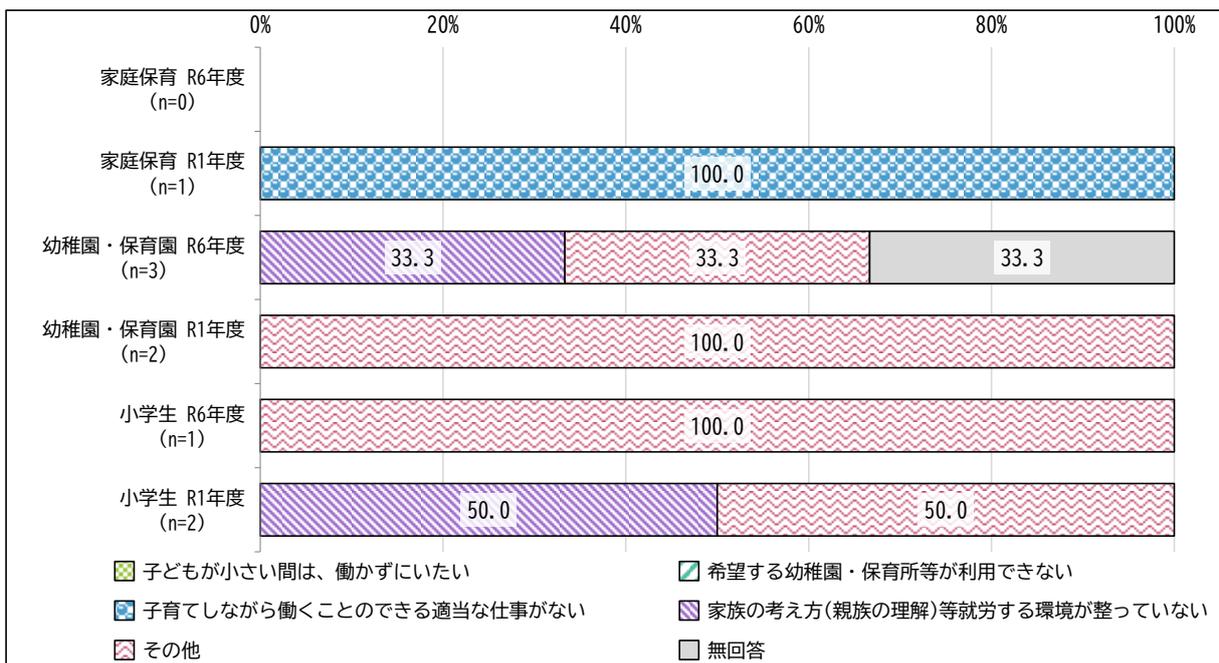
◆母親

- 就労していない理由については、いずれも「子どもが小さい間は、働かずにいたい」（家庭：48.0%、幼保：25.0%、小学生：23.8%）が最も高くなっています。
- 前回調査との比較をみると、幼稚園・保育園及び小学生では「子育てしながら働くことのできる適当な仕事がない」「その他」が15ポイント以上低くなっています。



◆父親

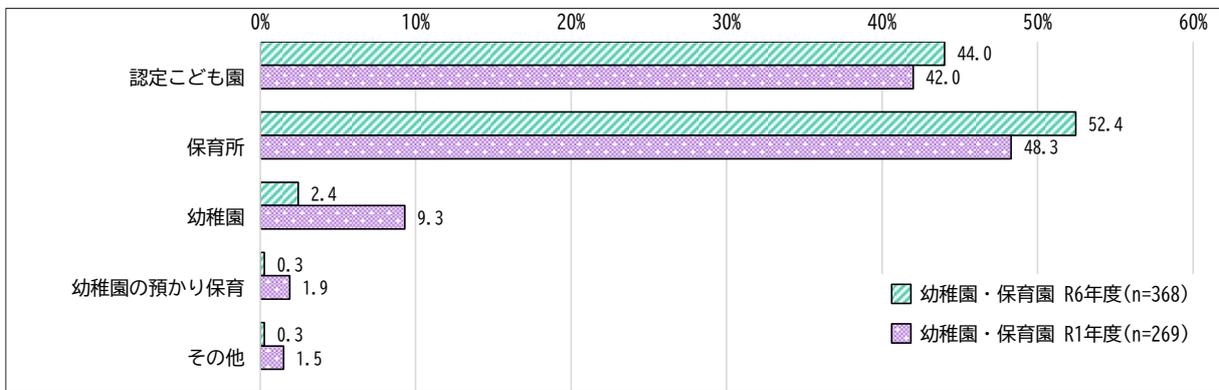
- 父親については、サンプル数が少ないため参考程度。



### 3. 幼稚園や保育園等の利用状況について

(1) お子さんが現在利用している施設すべてに回答し、利用日数と利用時間についてもお答えください。【幼保：問13】

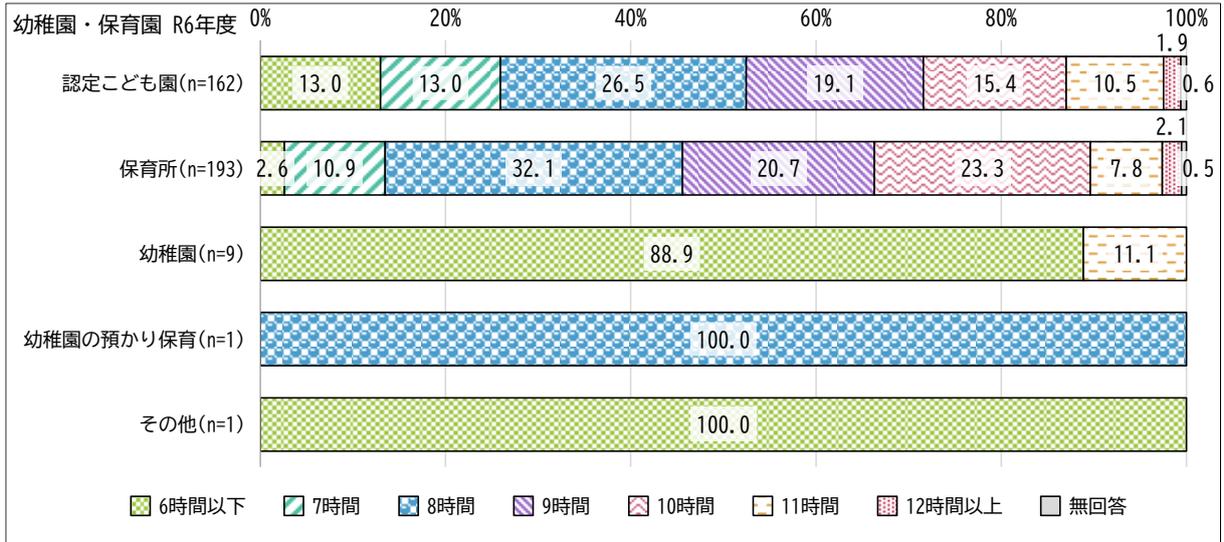
- 現在利用している施設については、「保育所」が52.4%と最も高く、次いで「認定こども園」44.0%となっています。
- 週当たりの利用日数について、「認定こども園」「保育所」では6割以上が「5日」、2～3割が「6日」と回答しています。
- 1日当たりの利用時間について、「認定こども園」「保育所」では3割前後が「8時間」と回答しています。
- 「認定こども園」「保育所」の利用開始時刻では4割が「8時台」、3割が「9時台」と回答しており、利用終了時刻では「17時台」「18時台」が3割台となっています。



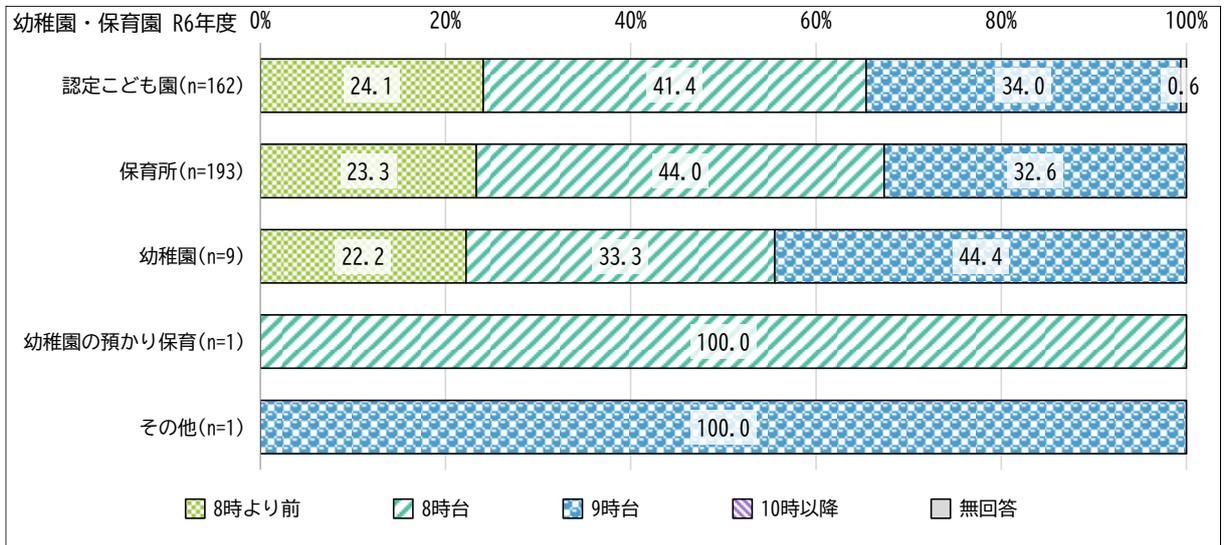
【週当たり利用日数】



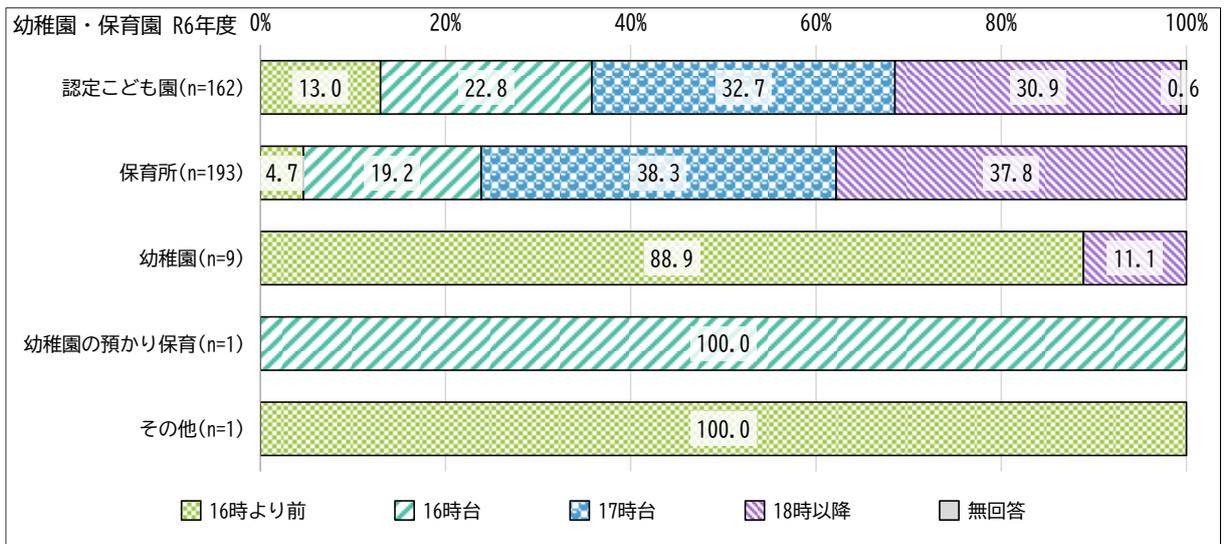
### 【1日当たり利用時間】



### 【利用開始時刻】



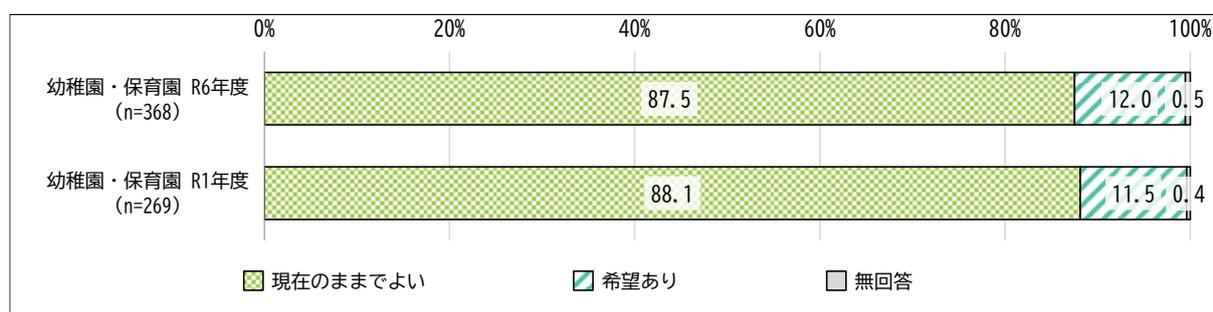
### 【利用終了時刻】



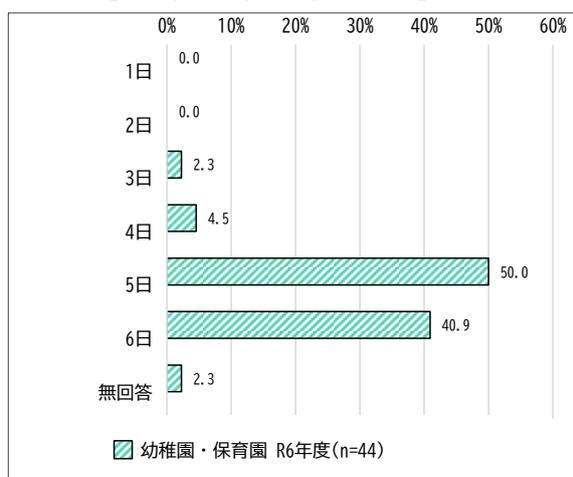
## (2) 現在利用している施設を希望としてはどのくらい利用したいですか。

【幼保：問14】

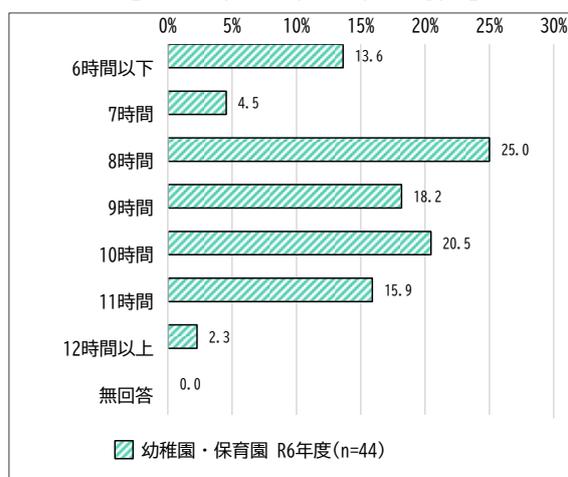
- 現在利用中の施設の利用希望については、「現在のままでよい」が87.5%と8割を超えており、「希望あり」は1割程度となっています。
- 週当たりの利用希望日数については、「5日」が50.0%と最も高く、次いで「6日」40.9%となっています。
- 1日当たりの利用希望時間については、「8時間」が25.0%と最も高く、次いで「10時間」20.5%、「9時間」18.2%となっています。
- 利用希望開始時刻では「9時台」43.2%が最も高く、利用希望終了時刻では「17時台」「18時以降」が3割を超えています。



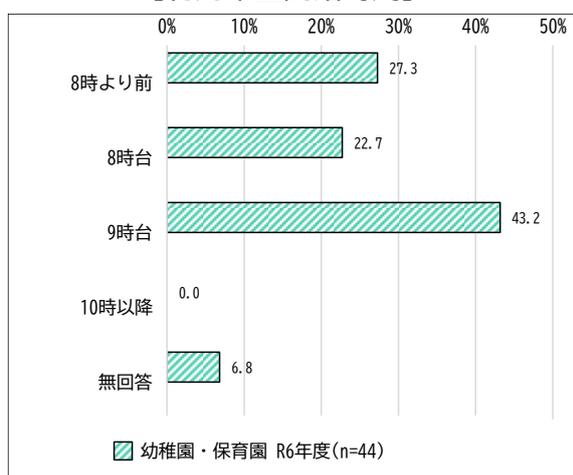
【週当たり利用希望日数】



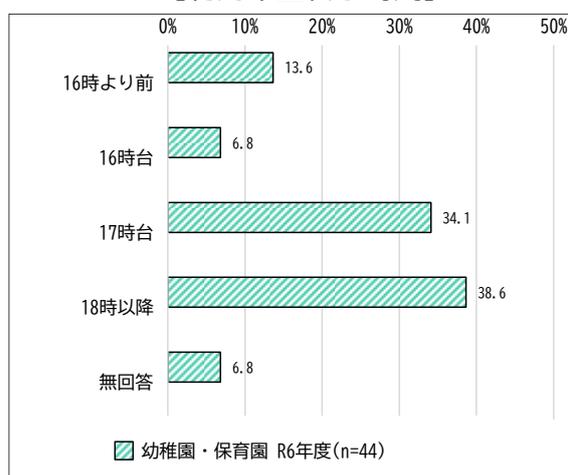
【1日当たり利用希望時間】



【利用希望開始時刻】

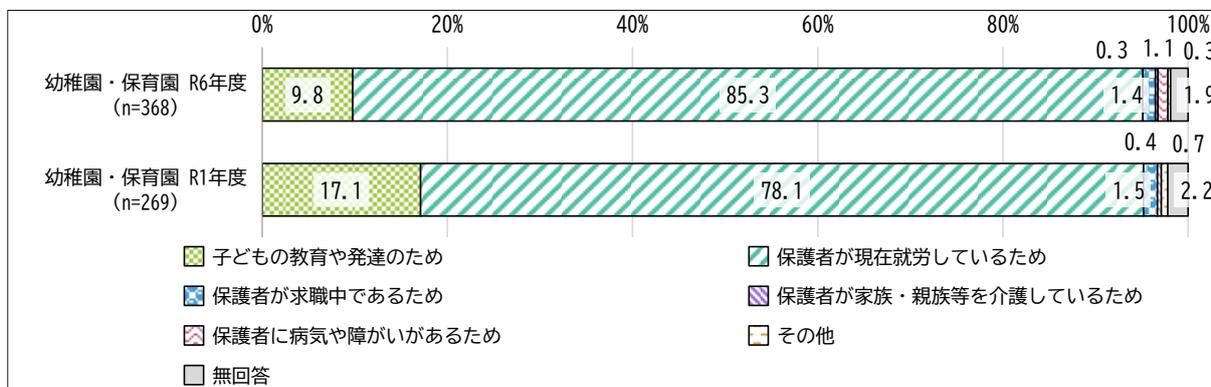


【利用希望終了時刻】



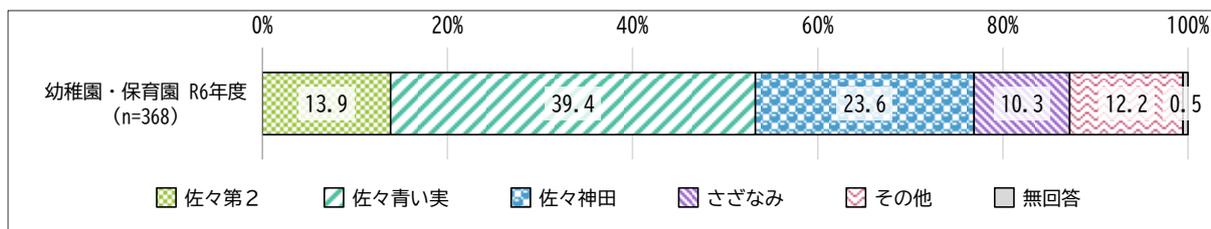
(3) 平日に定期的に幼稚園や保育所等を利用されている主な理由は何ですか。  
【幼保：問15】

○「保護者が現在就労しているため」が85.3%と最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」9.8%となっています。



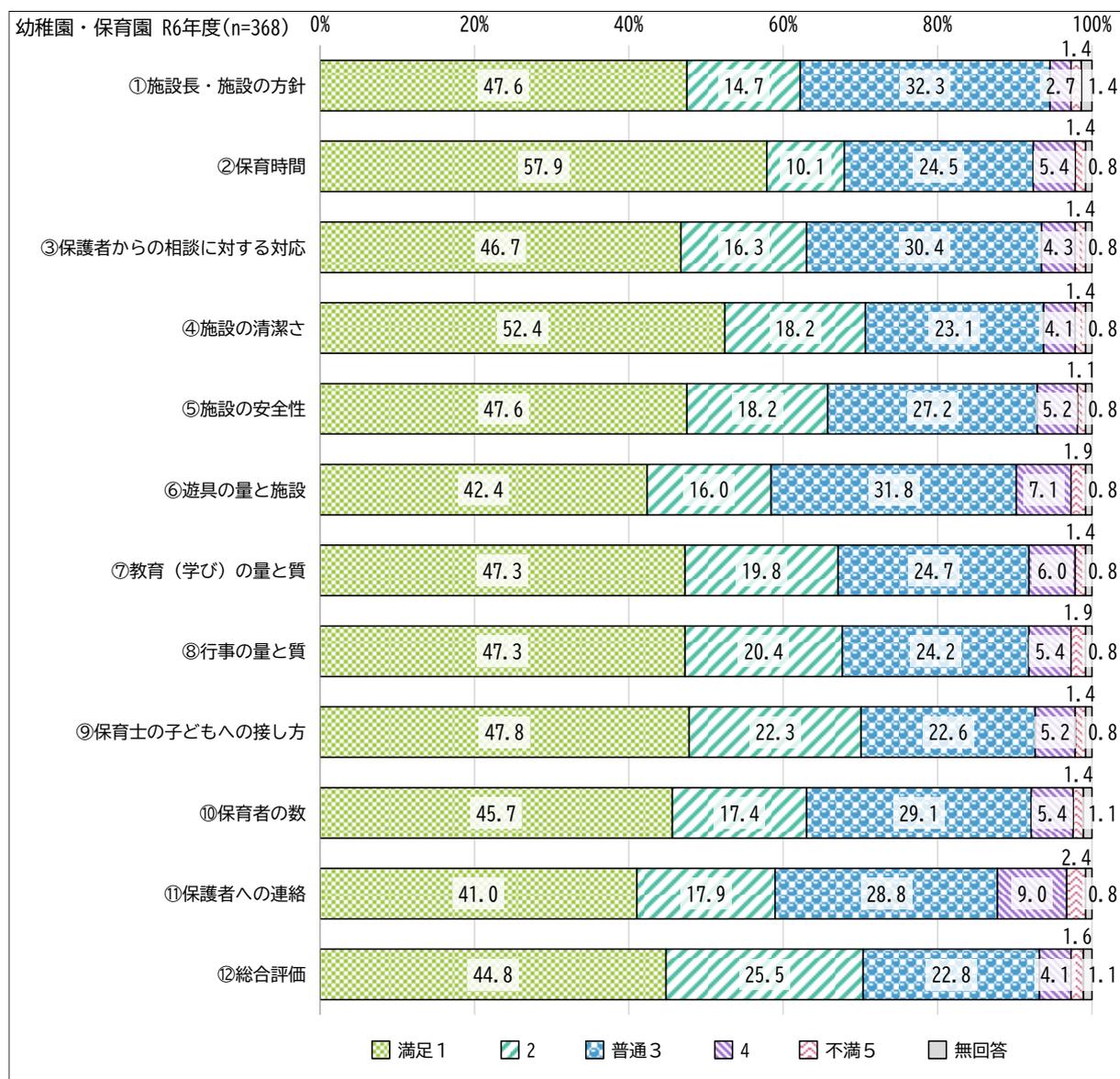
(4) 現在、定期的に利用されている幼稚園・保育所等をお答えください。  
【幼保：問16】

○「佐々青い実幼稚園」が39.4%と最も高く、次いで「佐々神田保育園」23.6%、「佐々第2保育所」13.9%となっています。



(5) 現在、定期的に利用されている幼稚園・保育所等の満足度を5段階でお答えください。【幼保：問17】

○どの項目も「満足している：満足1+満足2」が5割を超えており、特に「施設の清潔さ」「保育士の子どもへの接し方」「総合評価」は7割を超えています。



(6) 問17で、特に高く評価した項目及び特に低く評価した項目があれば、その理由をお答えください。【幼保：問18】

※詳細は、

別紙「佐々町 子ども・子育て及び子どもの生活状況アンケート調査 結果報告書（自由記述）」に掲載

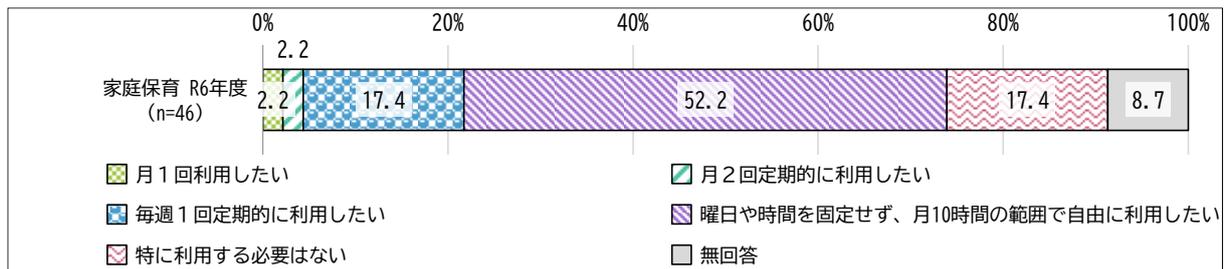
## 4. 「こども誰でも通園制度（仮称）」について

現在、保育園を定期的にご利用していない方で、お子さんが0～2歳の方のみ

(1) 国が検討している「こども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合、仮に月10時間まで定期的にご利用可能だとしたら、利用したいと思いますか。  
【家庭：問13】

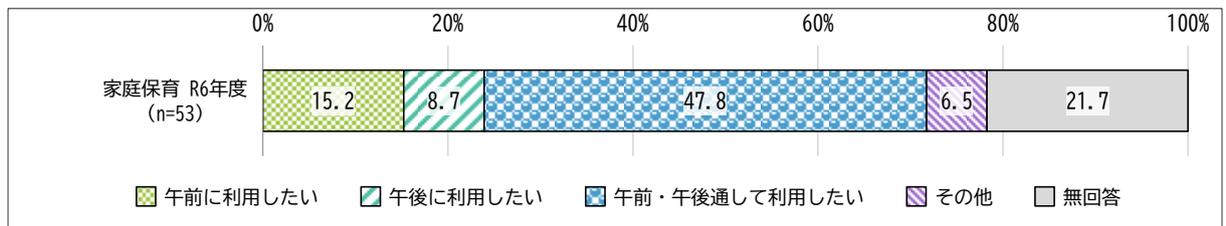
### ①利用希望

○ 「曜日や時間を固定せず、月10時間の範囲で自由に利用したい」が52.2%と最も高く、次いで「毎週1回定期的にご利用したい」「特に利用する必要はない」17.4%となっており、7割は「利用したい」と回答しています。



### ②利用したい時間帯

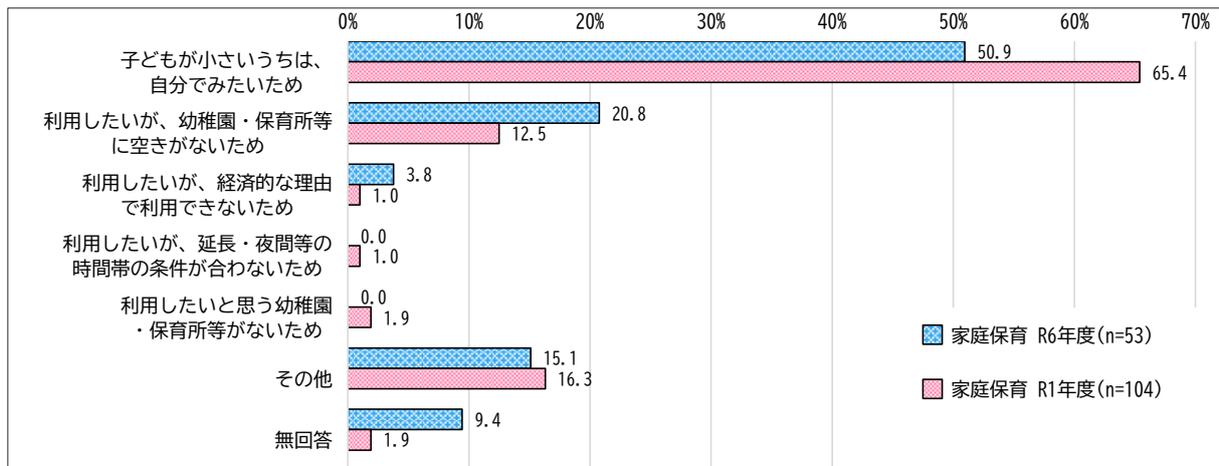
○ 「午前・午後通して利用したい」が47.8%と最も高く、次いで「午前に利用したい」15.2%、「午後に利用したい」8.7%となっています。



## 5. 平日の教育・保育について

(1) お子さんが現在、幼稚園や保育所等を利用していない理由を教えてください。  
【家庭：問14】

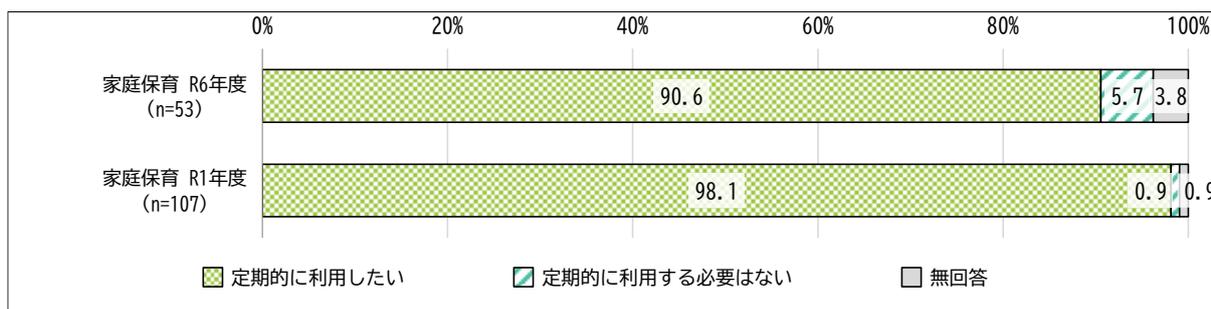
- 「子どもが小さいうちは、自分でみたいため」が50.9%と最も高く、次いで「利用したいが、幼稚園・保育所等に空きがないため」20.8%、「その他」15.1%となっています。
- 前回調査との比較をみると、「子どもが小さいうちは、自分でみたいため」が14.5ポイント低くなっています。



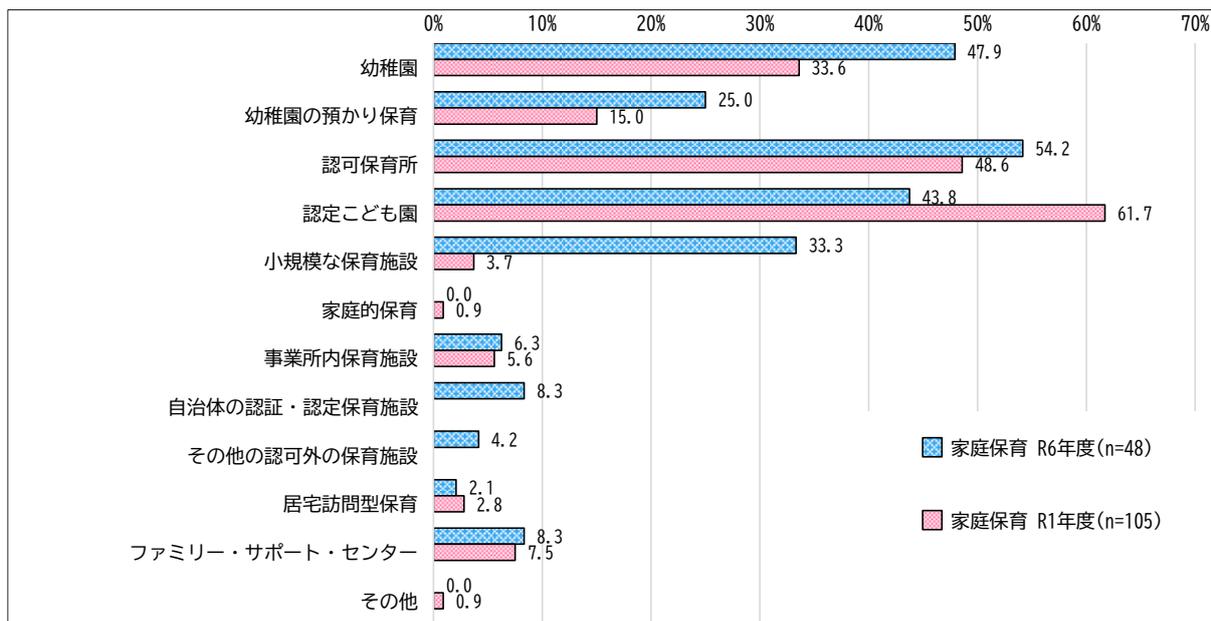
(2) 今後、お子さんの平日の教育・保育の事業として、定期的にご利用したい事業はありますか。(複数回答)【家庭：問15】

- 「定期的にご利用したい」が90.6%となっており、9割を超えています。
- ご利用したい教育・保育事業としては、「認可保育所」が54.2%と最も高く、次いで「幼稚園」47.9%、「認定こども園」43.8%となっています。
- 前回調査との比較をみると、「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」「小規模な保育施設」が高く、「認定こども園」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

【利用の有無】

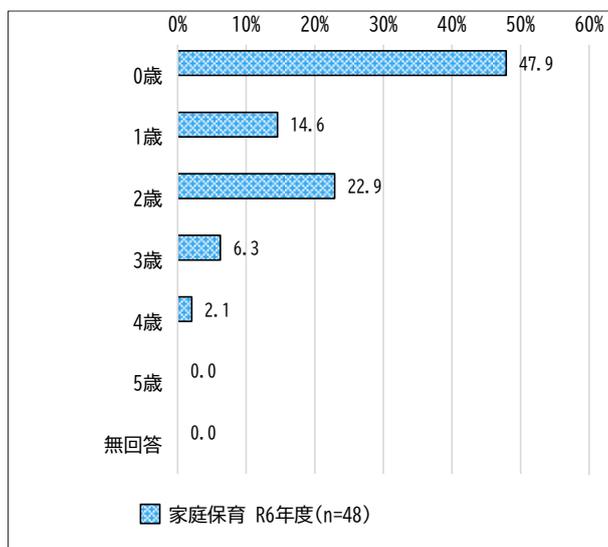


【ご利用したい教育・保育事業】



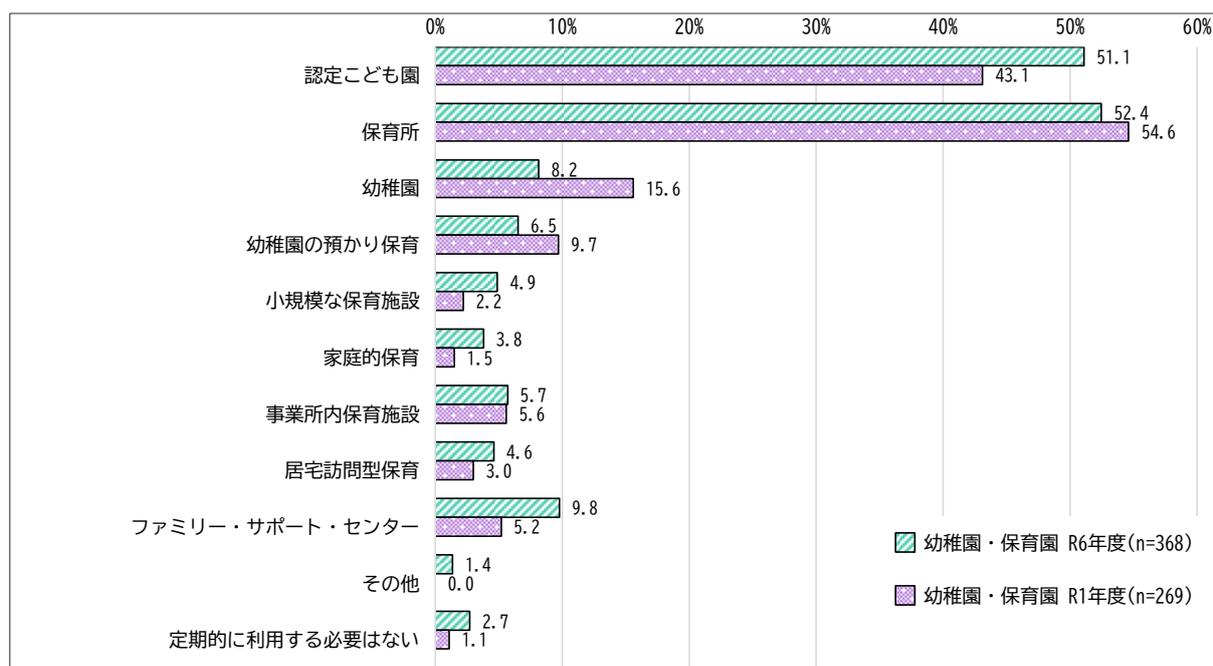
### (3) 定期的な教育・保育事業をいつごろから利用したいですか。【家庭：問 16】

○「0歳」が47.9%と最も高く、次いで「2歳」22.9%、「1歳」14.6%となっています。



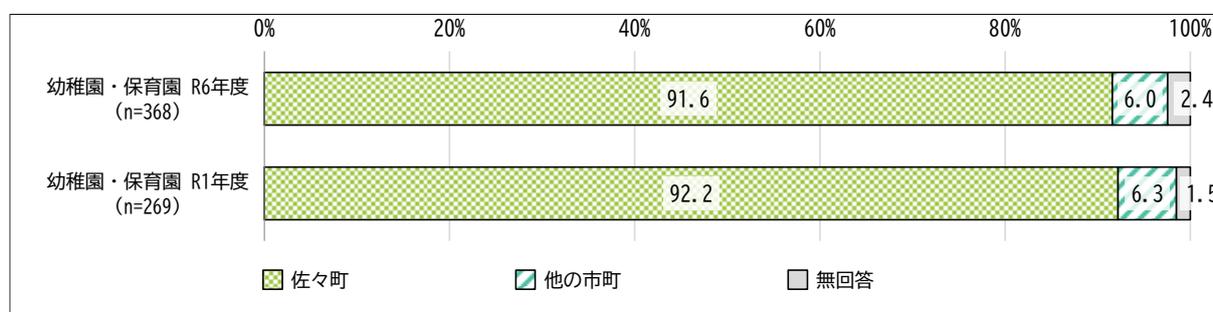
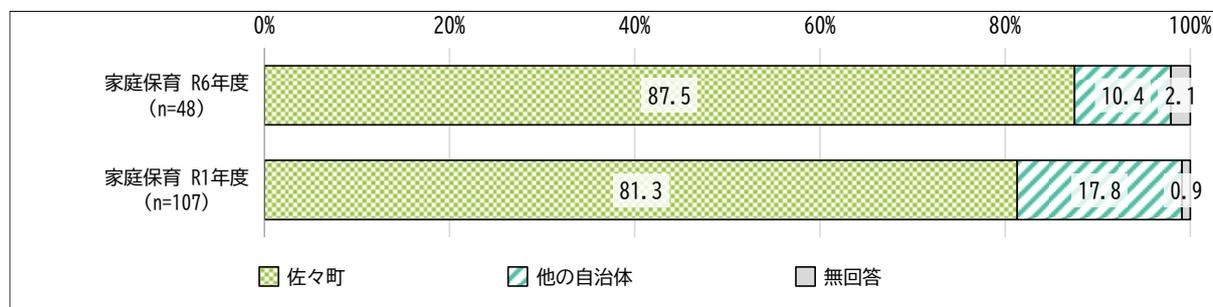
### (4) 現在、定期的にご利用している・していないに関わらず、お子さんの平日の教育・保育事業として定期的にご利用したいものをお答えください。(複数回答) 【幼保：問 20】

○「保育所」が52.4%と最も高く、次いで「認定こども園」51.1%となっており、それ以外の事業については利用希望が1割を切っています。



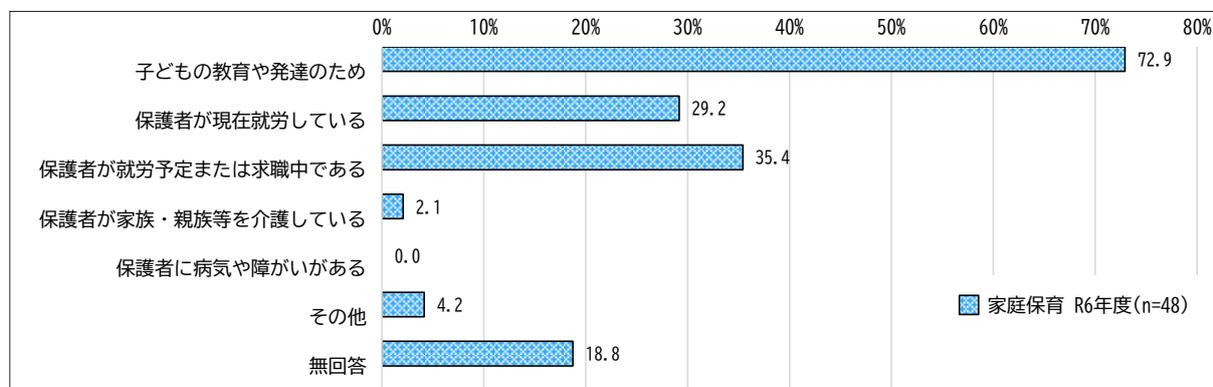
**(5) 教育・保育事業を利用したい場所についてお答えください。【家庭：問 17、幼保：問 21】**

○いずれも「佐々町」（家庭：87.5%、幼保：91.6%）が最も高くなっており、9割前後は佐々町での利用を希望していると回答しています。



**(6) 平日に定期的に教育・保育の事業を利用したい主な理由は何ですか。（複数回答）【家庭：問 18】**

○「子どもの教育や発達のため」が72.9%と最も高く、次いで「保護者が就労予定または求職中である」35.4%、「保護者が現在就労している」29.2%となっています。



## 6. 土日・祝日の教育・保育について

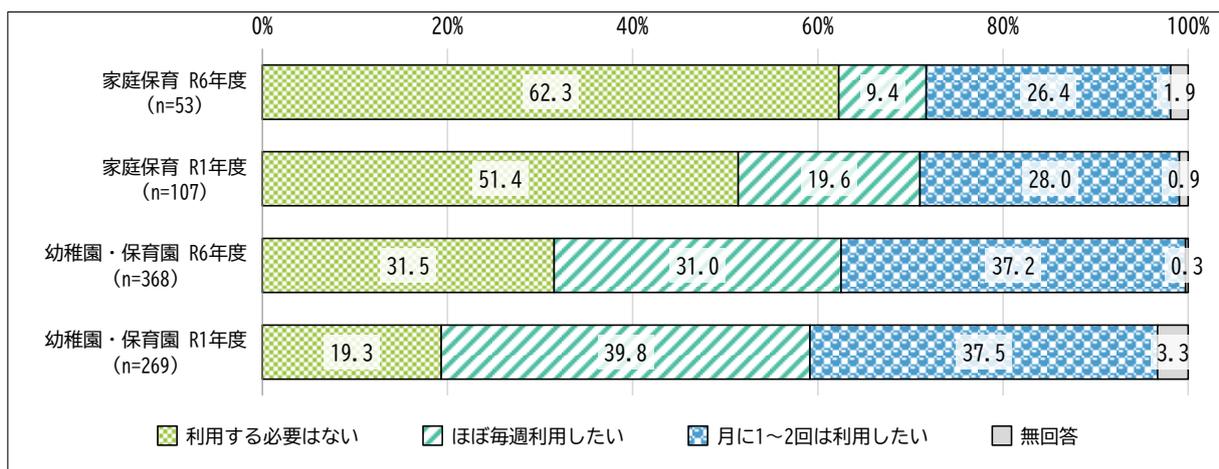
### (1) 土日・祝日に、定期的な教育・保育事業（幼稚園・保育所等含む）の利用希望はありますか。【家庭、幼保：問 22】

#### ①土曜日

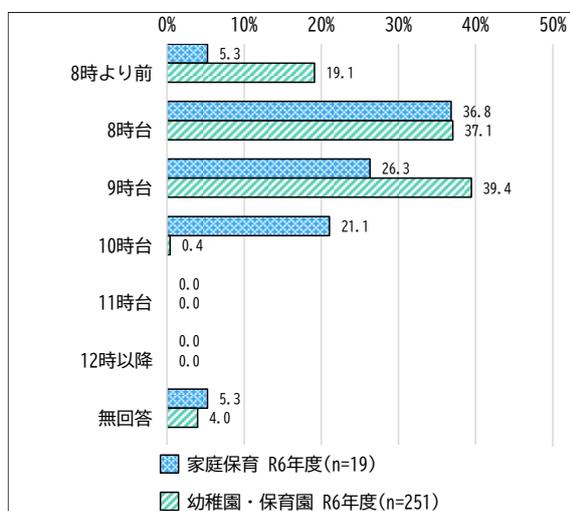
○土曜日の利用希望について、家庭保育では「利用する必要はない」62.3%、幼稚園・保育園では「月に1～2回は利用したい」37.2%が最も高くなっています。また、幼稚園・保育園では「ほぼ毎週利用したい」も3割台となっています。

○前回調査との比較をみると、家庭保育及び幼稚園・保育園では「利用する必要はない」が高く、家庭保育では「ほぼ毎週利用したい」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

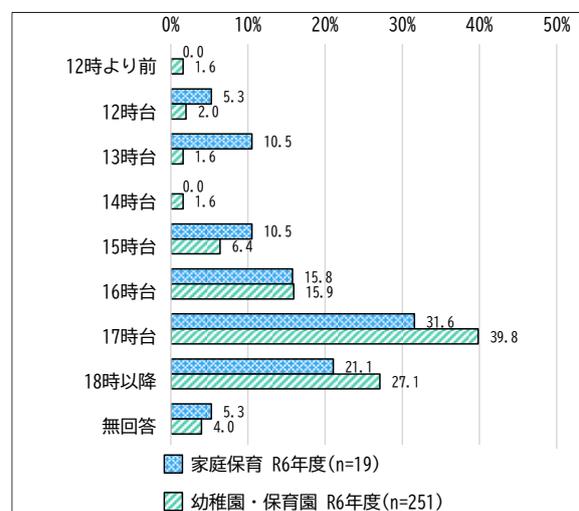
○土曜日の開始時刻について、家庭保育では「8時台」36.8%が最も高く、幼稚園・保育園では「8時台」「9時台」が3割を超えており、終了時刻ではいずれも「17時」が最も高くなっています。



【利用したい時間帯（開始時刻）】



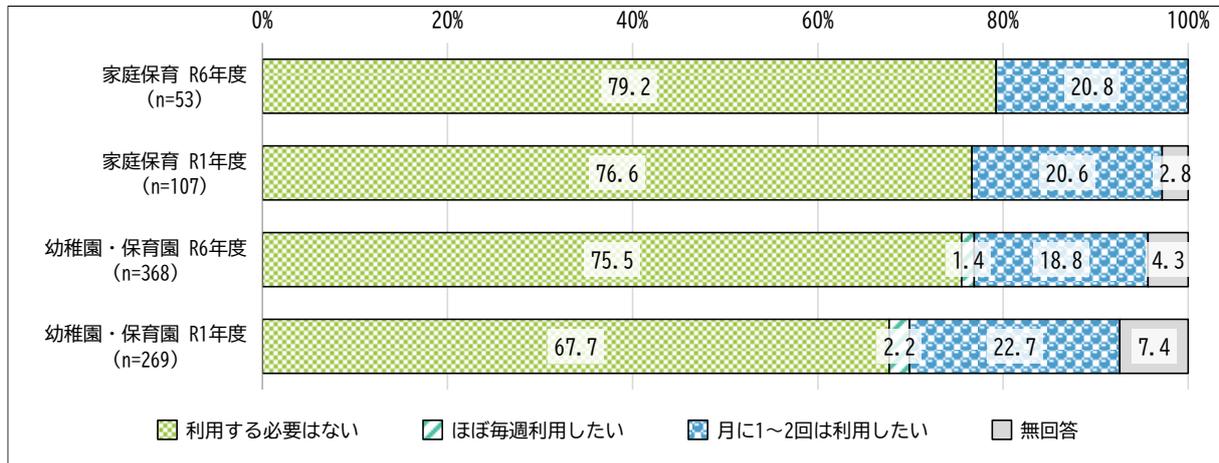
【利用したい時間帯（終了時刻）】



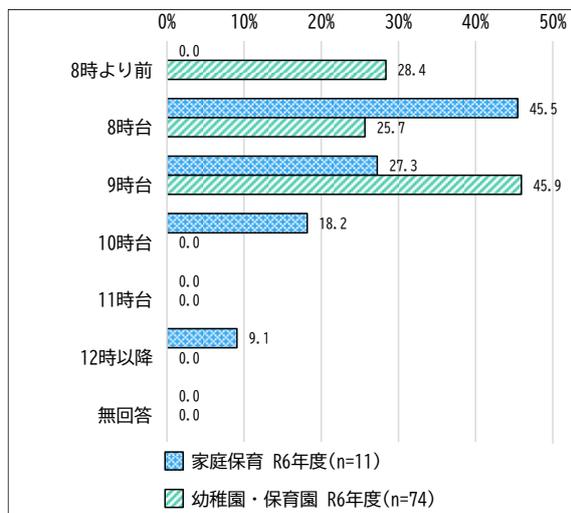
## ②日曜・祝日

○日曜・祝日の利用希望について、いずれも「利用する必要はない」（家庭：79.2%、幼保：75.5%）が最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」（家庭：20.8%、幼保：18.8%）となっています。

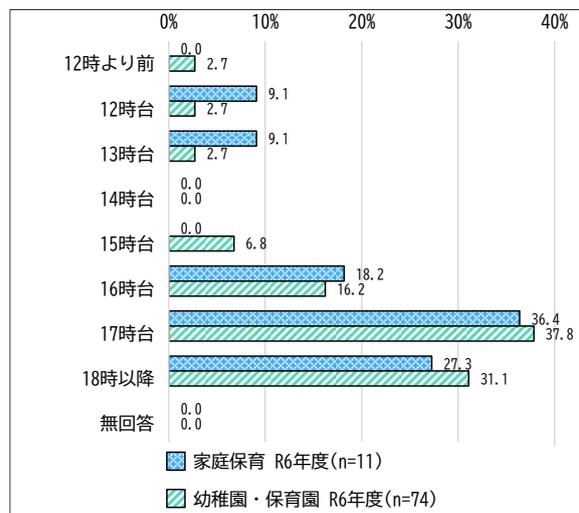
○日曜・祝日の開始時刻について、家庭保育では「8時台」、幼稚園・保育園では「9時台」が4割を超えており、終了時刻ではいずれも「17時台」が最も高くなっています。



【利用したい時間帯（開始時刻）】

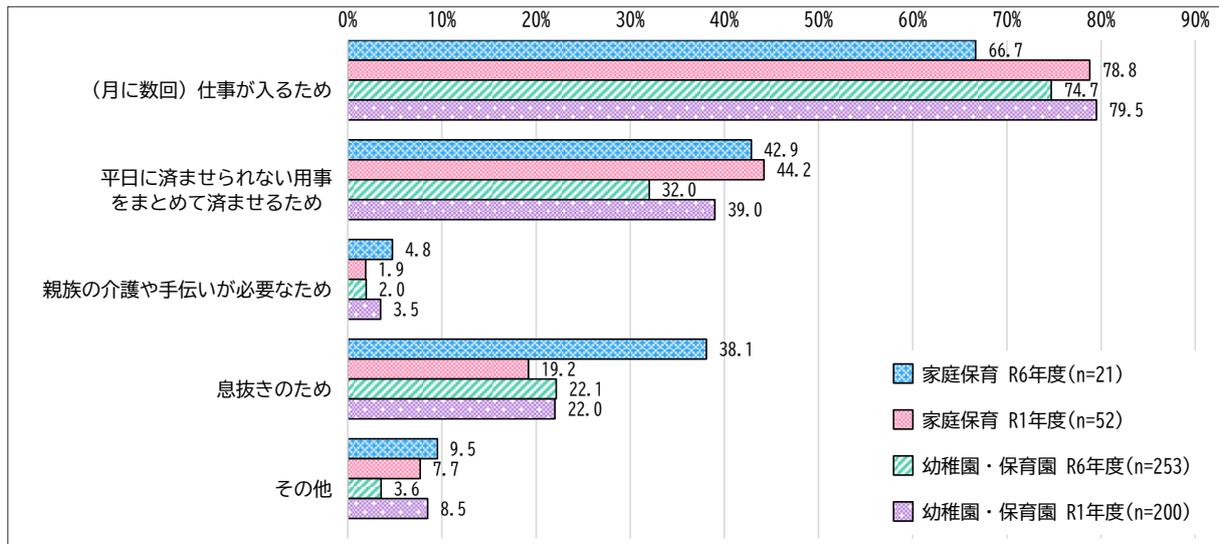


【利用したい時間帯（終了時刻）】



(2) 土日・祝日に幼稚園・保育所等を利用したい理由は何ですか。(複数回答)  
【家庭、幼保：問23】

- いずれも「(月に数回)仕事が入るため」(家庭：66.7%、幼保：74.7%)が最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(家庭：42.9%、幼保：32.0%)、「息抜きのため」(家庭：38.1%、幼保：22.1%)となっています。
- 前回調査との比較をみると、家庭保育では「(月に数回)仕事が入るため」が低く、「息抜きのため」が高くなっており、10ポイント以上差が生じています。

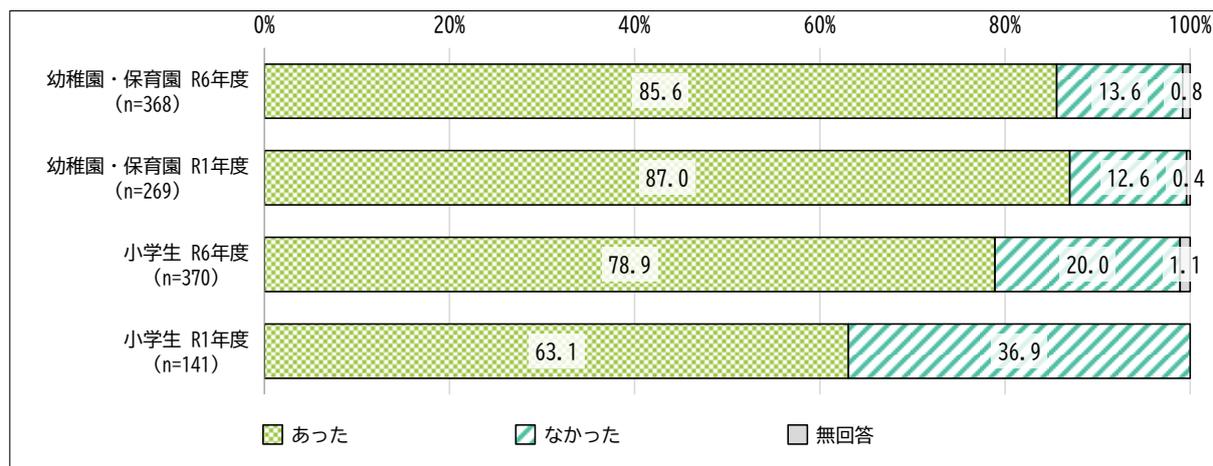


## 7. 病気の際の対応について

(1) この1年間にお子さんが病気やケガで幼稚園や保育所、学校等を利用できなかったことはありましたか。【幼保：問24、小学生：問19】

○いずれも「あった」（幼保：85.6%、小学生：78.9%）、「なかった」（幼保：13.6%、小学生：20.0%）となっています。

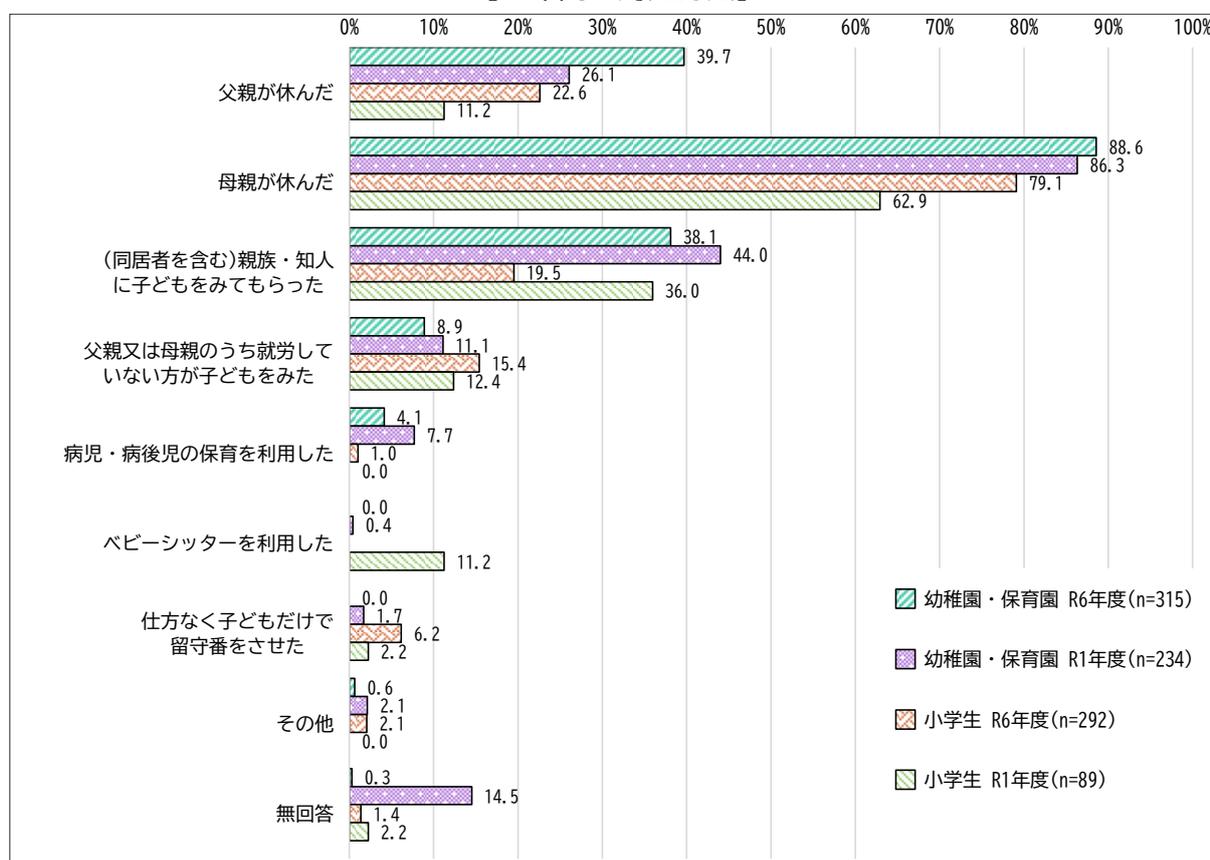
○前回調査との比較をみると、小学生では「あった」が高く、「なかった」が低くなっており、15ポイント以上差が生じています。



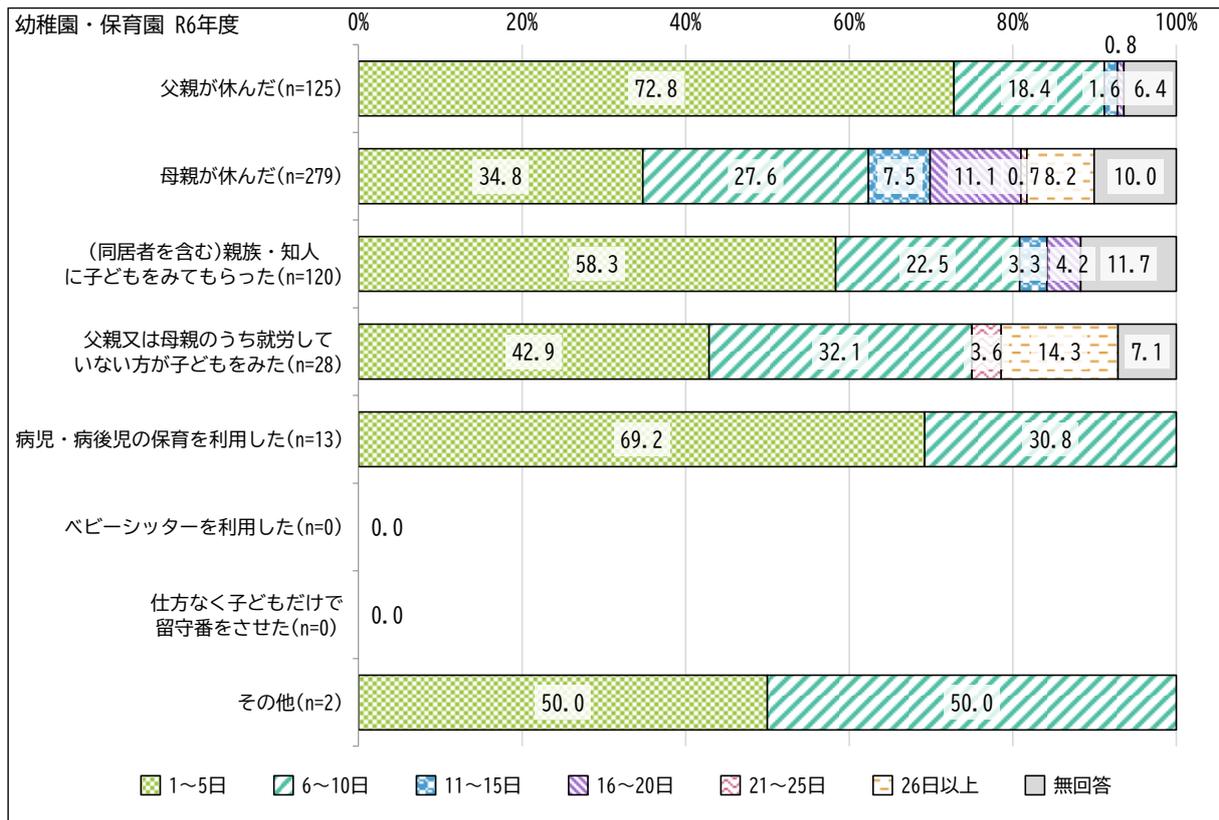
(2) 普段利用している幼稚園・保育所、学校等が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法をお答えください。【幼保：問25、小学生：問20】

- いずれも「母親が休んだ」(幼保：88.6%、小学生：79.1%)が最も高く、次いで「父親が休んだ」(幼保：39.7%、小学生：22.6%)、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」(幼保：38.1%、小学生：19.5%)となっています。
- 前回調査との比較をみると、幼稚園・保育園及び小学生では「父親が休んだ」が10ポイント以上高くなっています。また、小学生では「母親が休んだ」が高く、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」が低くなっており、15ポイント以上差が生じています。
- 1年間の対処日数をみると、いずれも「1～5日」が最も高くなっています。

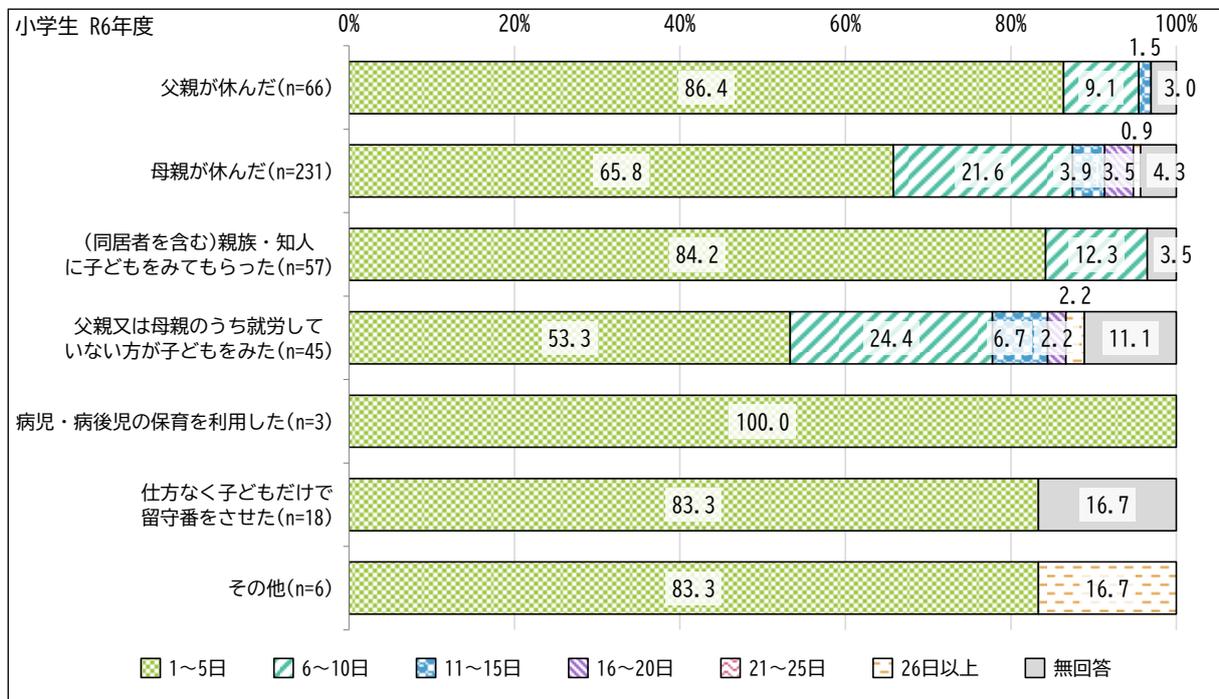
【1年間の対処方法】



### 【1年間の対処日数：幼稚園・保育園】

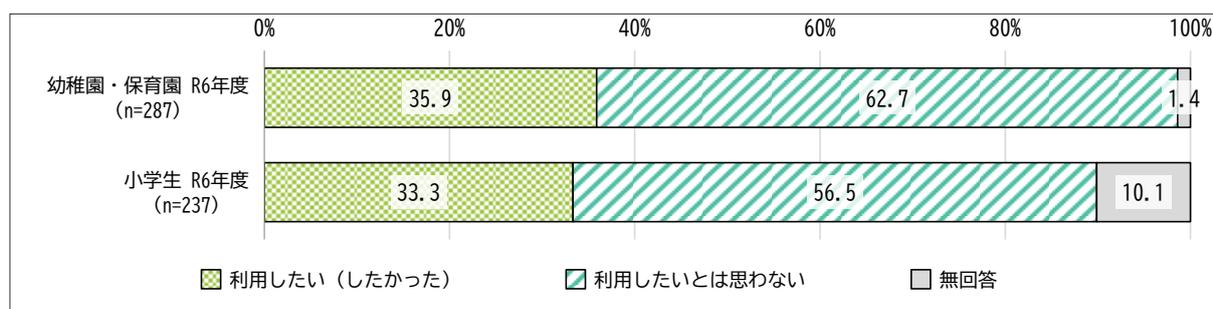


### 【1年間の対処日数：小学生】



(3) お子さんが病気の際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。【幼保：問 26、小学生：問 21】

○「利用したい（したかった）」（幼保：35.9%、小学生：33.3%）、「利用したいとは思わない」（幼保：62.7%、小学生：56.5%）となっており、病児・病後児のための保育施設等の利用希望はいずれも3割台となっています。

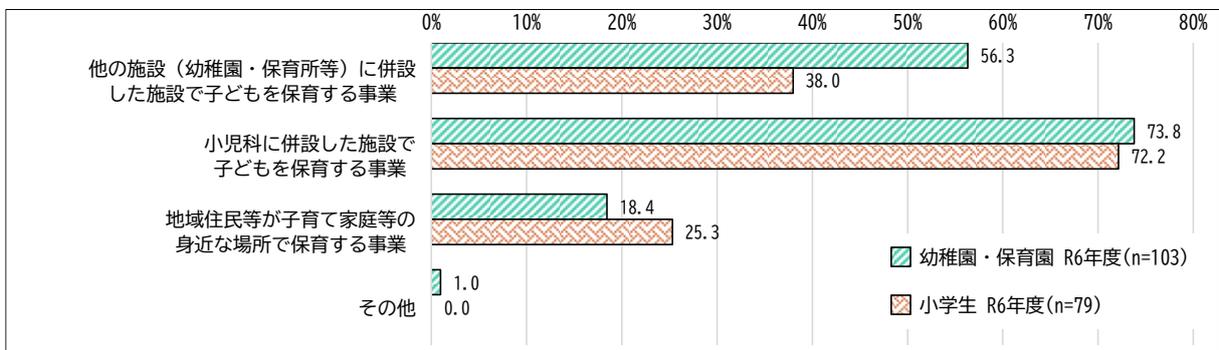


(4) それは、どのような施設・事業ですか。(複数回答)

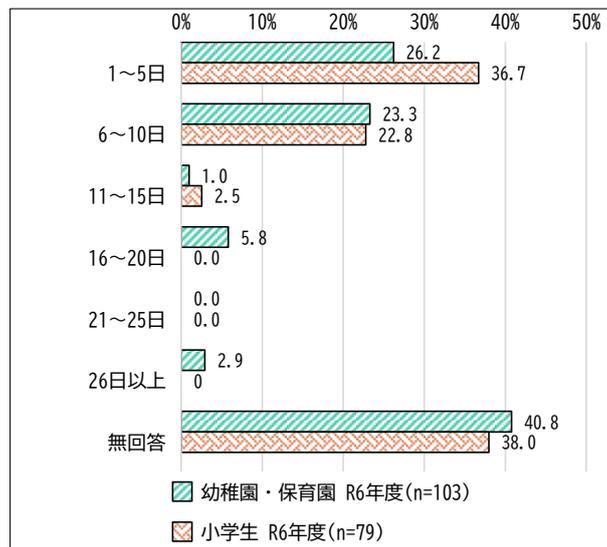
【幼保：問26-1、小学生：問21-1】

- いずれも「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」(幼保：73.8%、小学生：72.2%)が最も高く、次いで「他の施設(幼稚園・保育所等)に併設した施設で子どもを保育する事業」(幼保：56.3%、小学生：38.0%)、「地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業」(幼保：18.4%、小学生：25.3%)となっています。
- 利用したい年間日数については、いずれも「1～5日」「6～10日」が2割を超えています。

【希望する施設・事業の形態】



【病児・病後児保育施設等を利用したい年間日数】

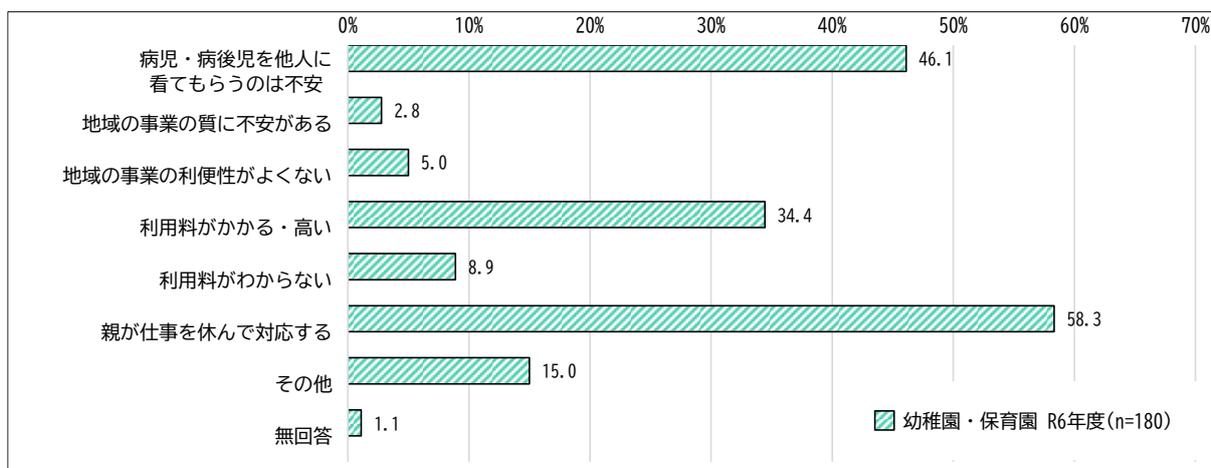


(5) 利用したいと思わない理由は何ですか。(複数回答)  
【幼保：問 26-2、小学生：問 21-2】

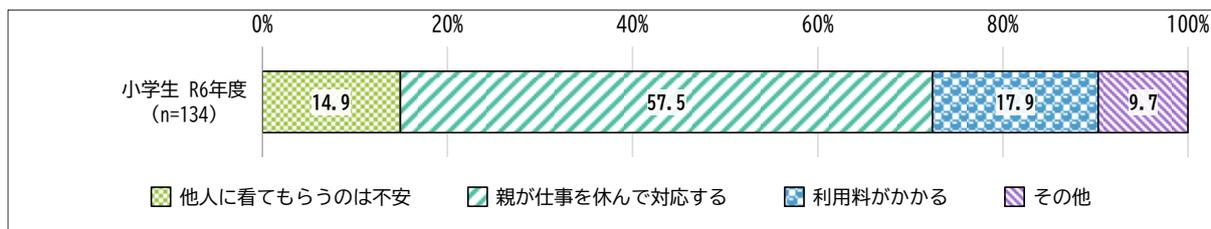
○幼稚園・保育園では「親が仕事を休んで対応する」が 58.3%と最も高く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」46.1%、「利用料がかかる・高い」34.4%となっています。

○小学生では「親が仕事を休んで対応する」が 57.5%と最も高く、次いで「利用料がかかる」17.9%、「他人に看てもらうのは不安」14.9%となっています。

【利用したいと思わない理由：幼稚園・保育園】



【利用したいと思わない理由：小学生】

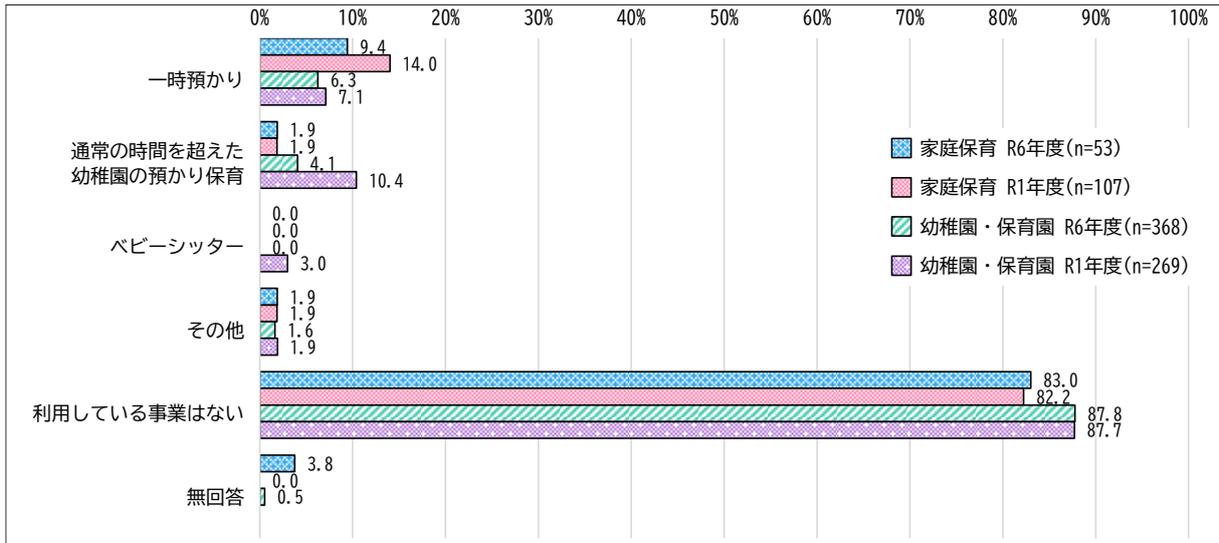


## 8. 一時預かりについて

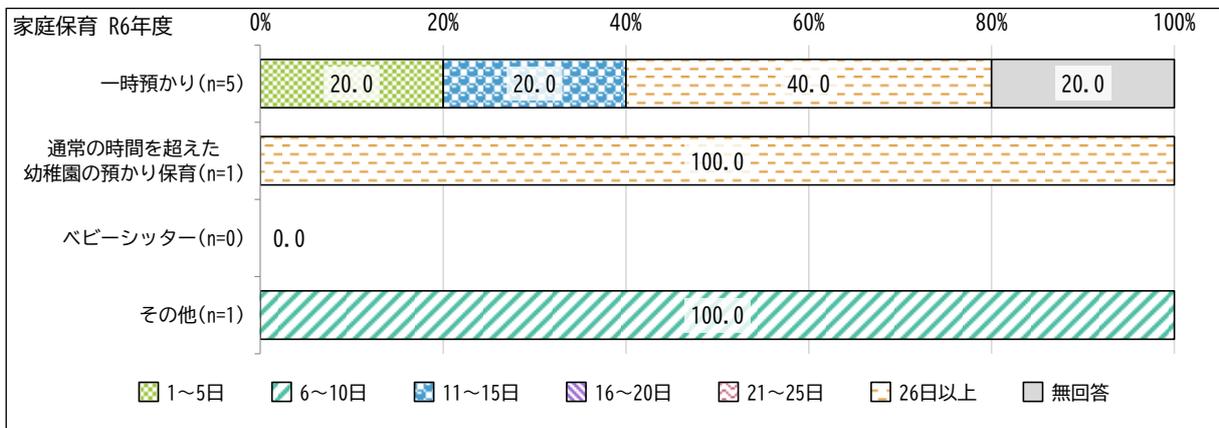
(1) 私用、親の通院、就労等の目的で一時的に利用している事業はありますか。およびその日数もお答えください。【家庭：問24、幼保：問27】

○いずれも「利用していない」(家庭：83.0%、幼保：87.8%)が最も高く、8割を超えており、各事業の利用率は1割を切っています。

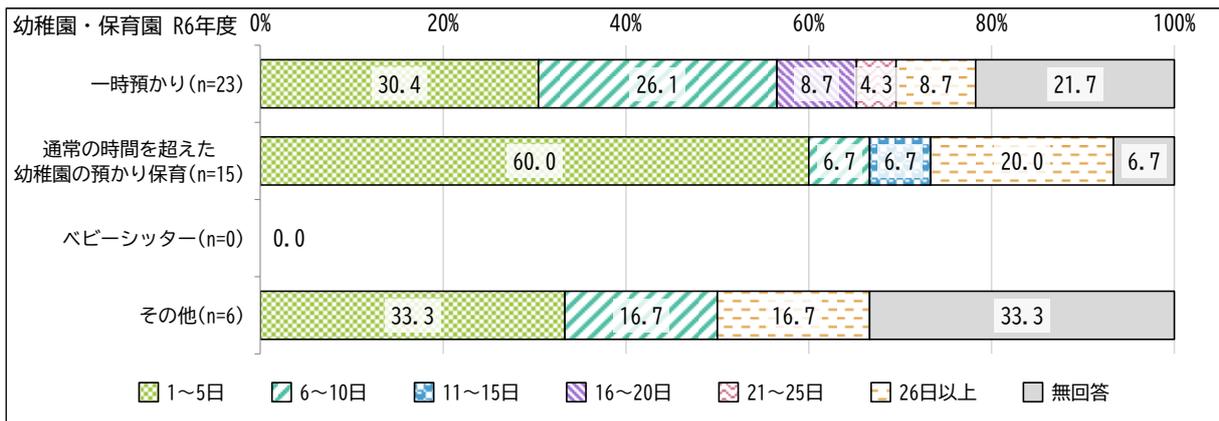
【1年間の対処方法】



【1年間の対処日数：家庭保育】



【1年間の対処日数：幼稚園・保育園】

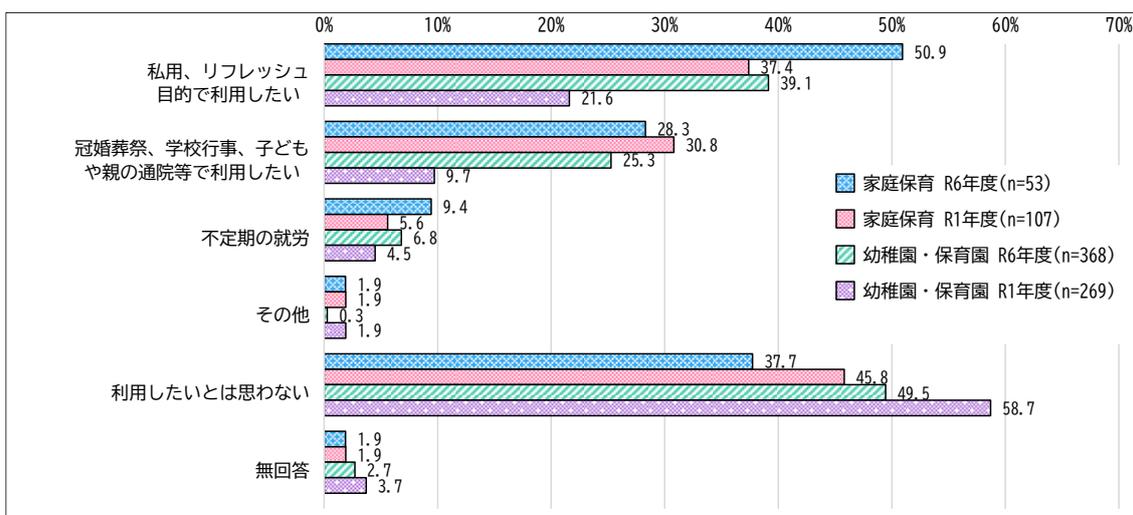


(2) 私用や冠婚葬祭、病気、就労などの目的で、一時預かり事業を利用したいと思いませんか。およその日数もお答えください。【家庭：問 25、幼保：問 28】

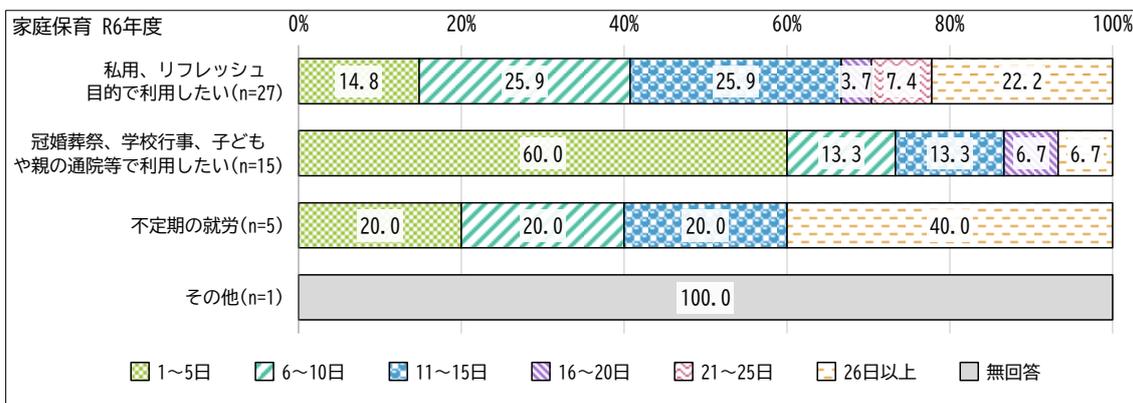
○家庭保育では「私用、リフレッシュ目的で利用したい」50.9%が最も高くなっています。また、幼稚園・保育園では「利用したいと思わない」が49.5%と最も高くなっていますが、約4割は「私用、リフレッシュ目的で利用したい」の利用希望があると回答しています。

○前回調査との比較をみると、家庭保育及び幼稚園・保育園では「私用、リフレッシュ目的で利用したい」、加えて、幼稚園・保育園では「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等で利用したい」が10ポイント以上高くなっています。

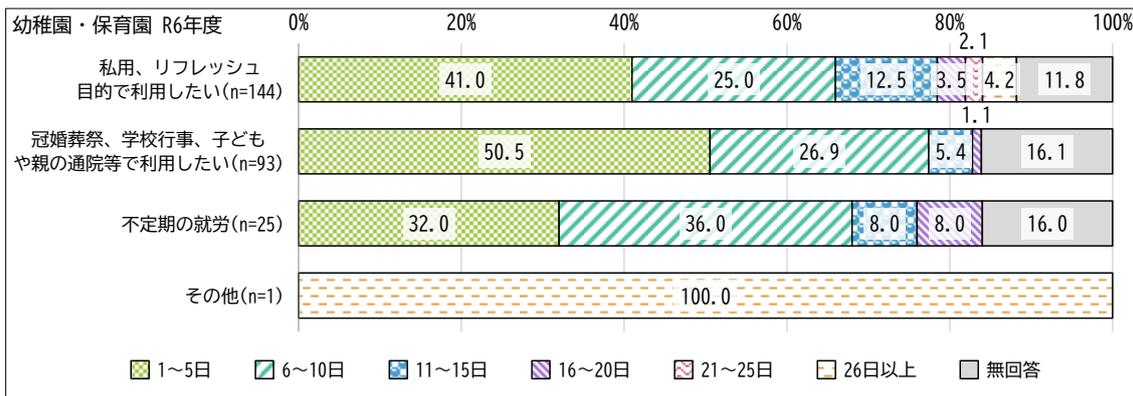
【1年間の対処方法】



【1年間の対処日数：家庭保育】



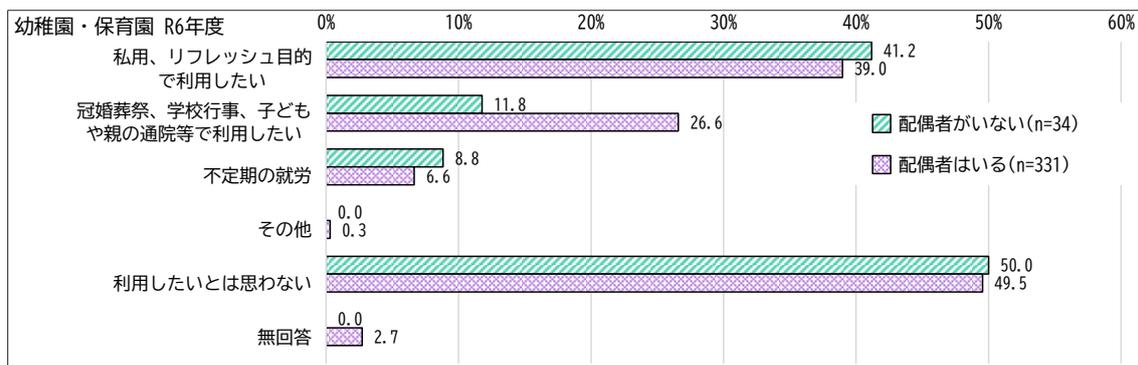
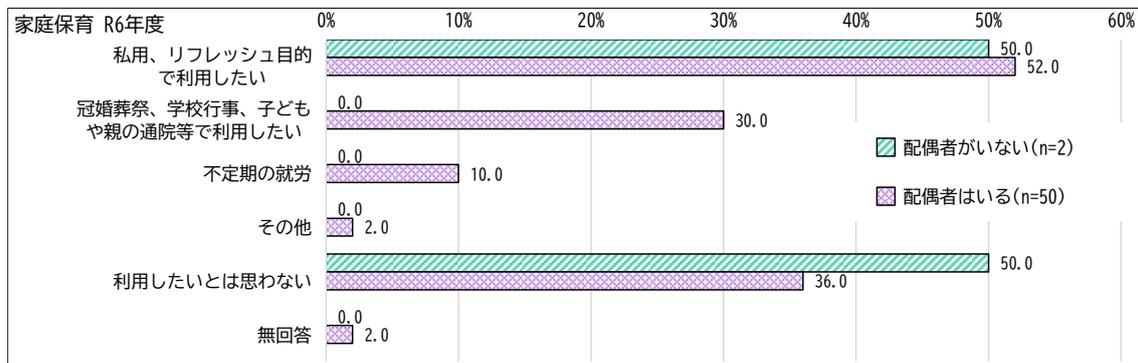
【1年間の対処日数：幼稚園・保育園】



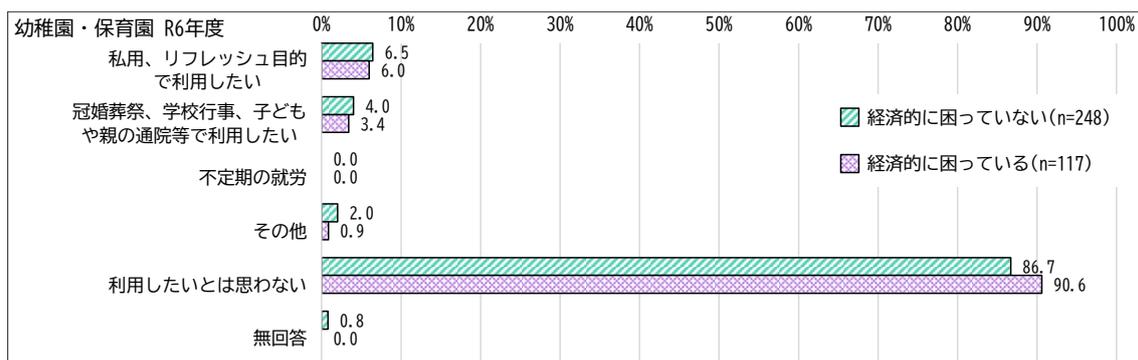
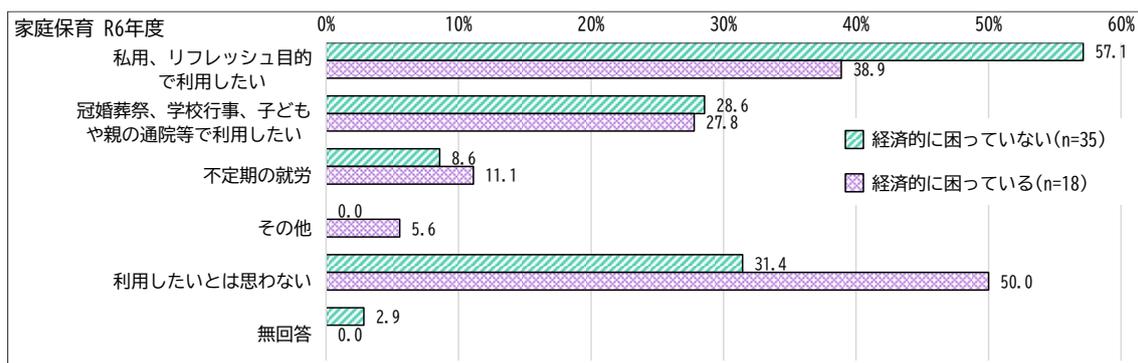
○配偶関係でみると、幼稚園・保育園では「配偶者がいない」は「配偶者はいる」と比べて「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等で利用したい」が14.8ポイント低くなっています。(家庭保育：サンプル数が少ないため参考程度。以下同様)

○経済状況でみると、家庭保育では「経済的に困っている」は「経済的に困っていない」と比べて「利用したいと思わない」が高く、「私用、リフレッシュ目的で利用したい」が低くなっており、15ポイント以上差が生じています。

### 【1年間の対処方法×配偶関係】



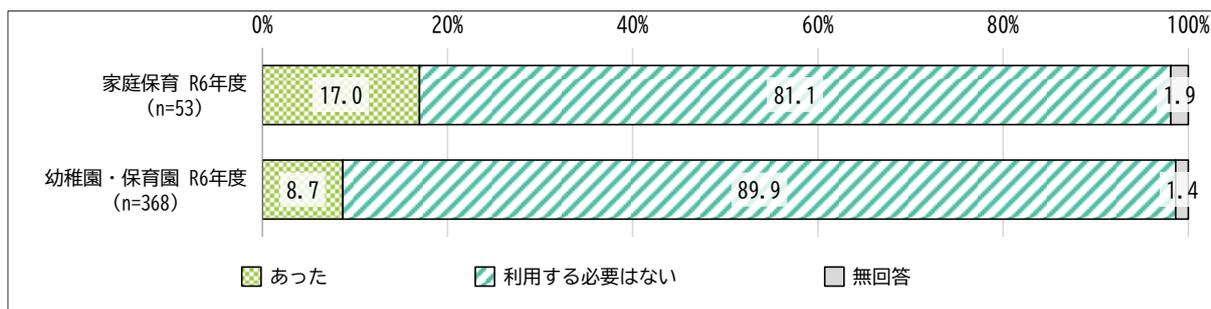
### 【1年間の対処方法×経済状況】



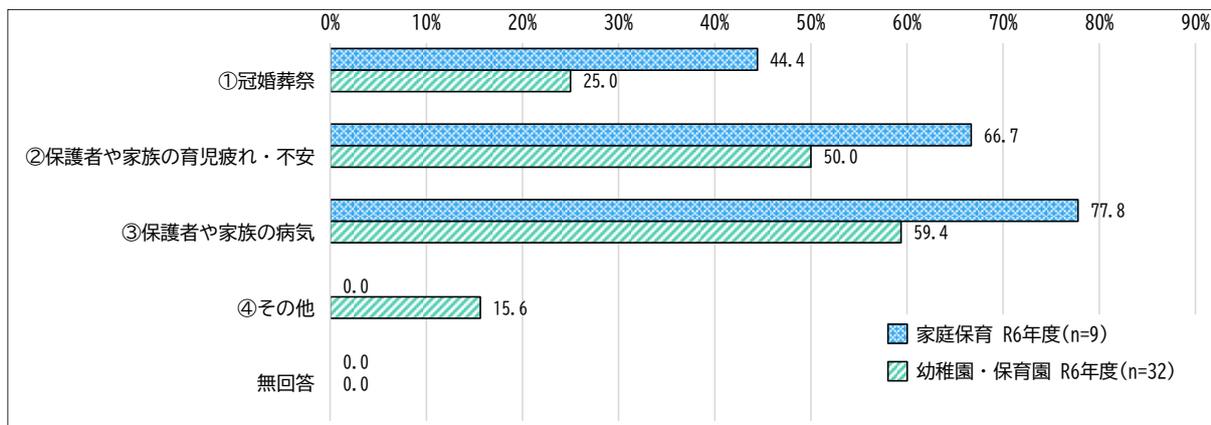
(3) 保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。【家庭：問26、幼保：問29】

- 保護者の用事等で家族以外に預ける必要性については、「あった」（家庭：17.0%、幼保：8.7%）、「利用する必要はない」（家庭：81.1%、幼保：89.9%）となっており、「利用する必要はない」が「あった」を大きく上回っています。
- 利用目的等については、サンプル数が少ないため参考程度。

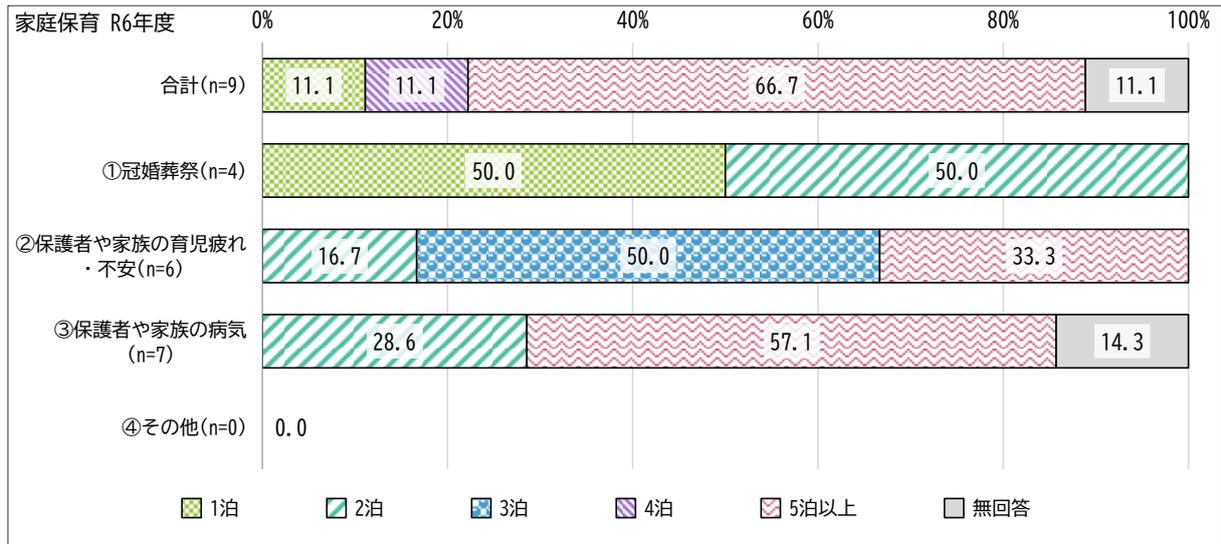
【利用希望の有無】



【利用目的】



### 【年間の利用希望日数：家庭保育】



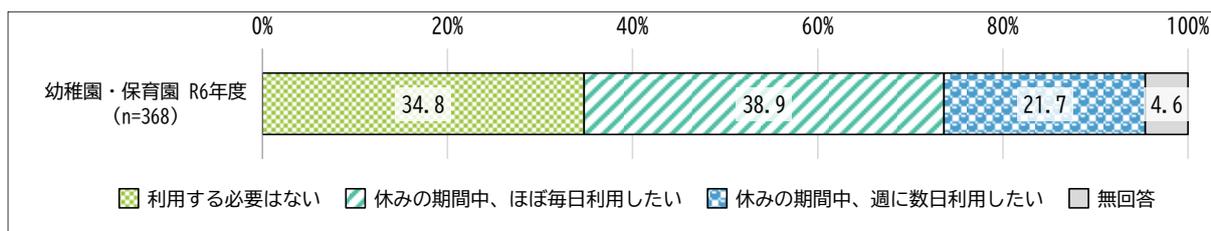
### 【年間の利用希望日数：幼稚園・保育園】



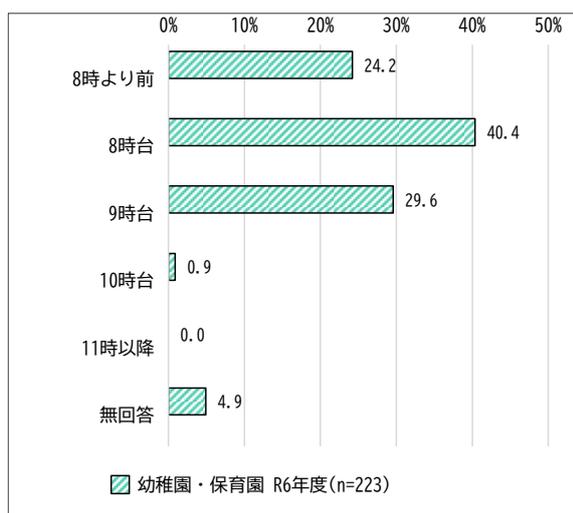
**(4) 夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の幼稚園・認定こども園の利用を希望しますか。【幼保：問30】**

○長期休暇期間中の幼稚園等の利用希望については、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が38.9%と最も高く、次いで「利用する必要はない」34.8%、「休みの期間中、週に数日利用したい」21.7%となっています。

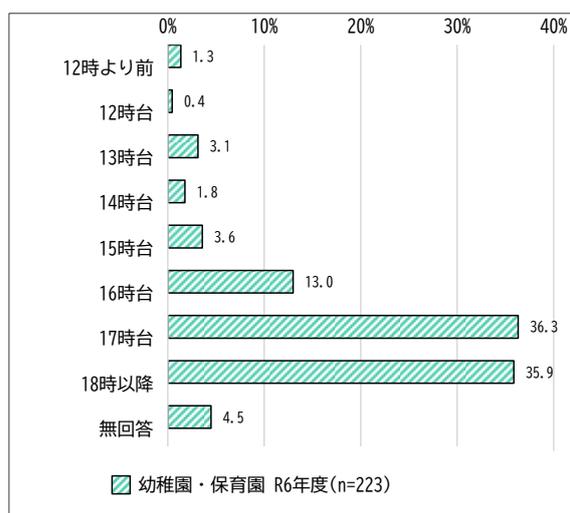
○利用希望の時間帯について、開始時刻では「8時台」が40.4%が最も高く、終了時刻では「17時台」「18時以降」が3割を超えています。



**【利用したい時間帯（開始時刻）】**

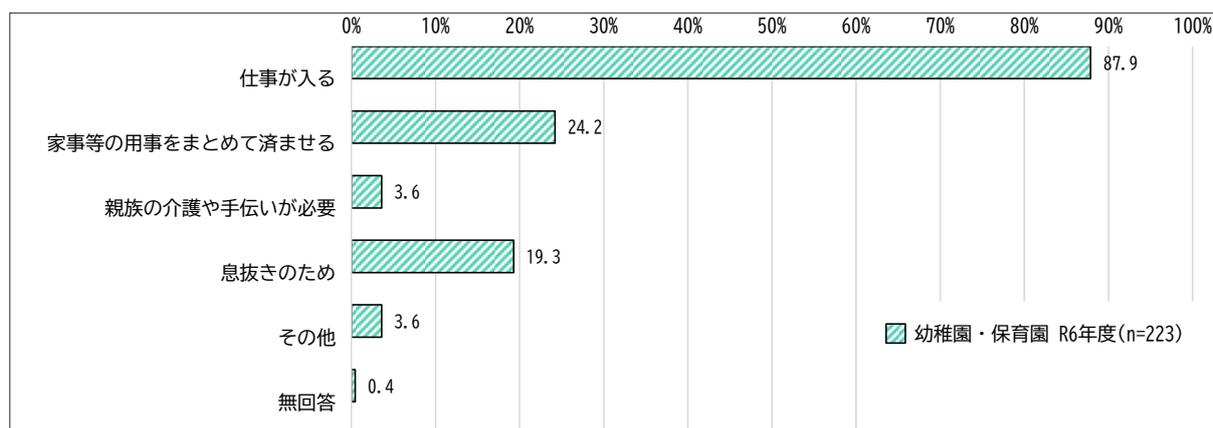


**【利用したい時間帯（終了時刻）】**



(5) 夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の幼稚園・認定こども園の利用を希望する理由は何ですか。(複数回答)【幼保：問31】

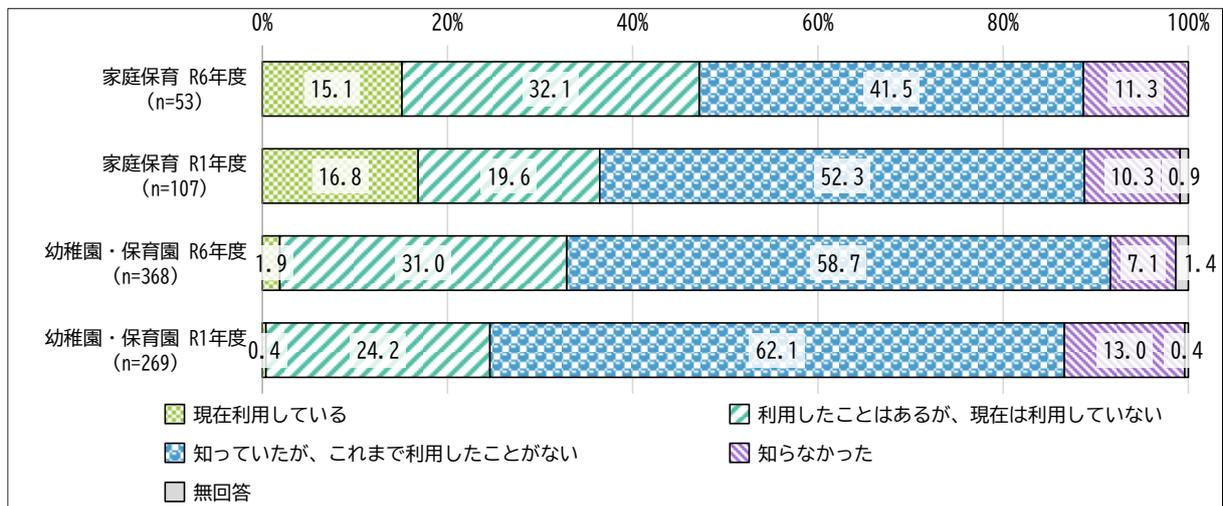
○長期休暇期間中の幼稚園等利用希望の理由については、「仕事が入る」が87.9%と最も高く、次いで「家事等の用事をまとめて済ませる」24.2%、「息抜きのため」19.3%となっています。



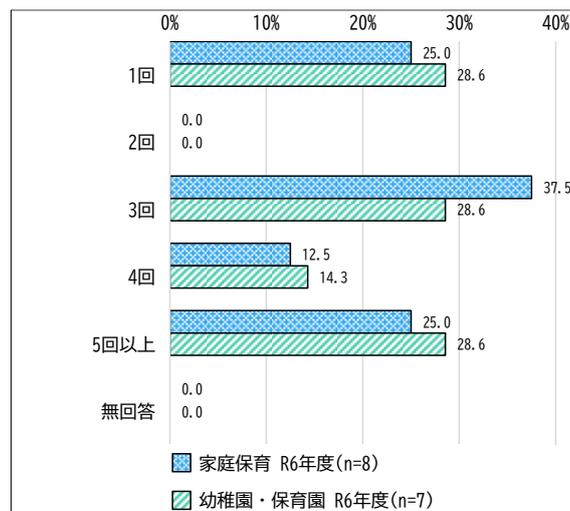
## 9. 町の子育て支援サービスの利用状況について

### (1) 地域子育て支援拠点事業「ぷくぷくクラブ」をどの程度利用されていますか。 【家庭：問 27、幼保：問 32】

- 「ぷくぷくクラブ」の利用状況については、いずれも「知っていたが、これまで利用したことがない」（家庭：41.5%、幼保：58.7%）が最も高く、次いで「利用したことはあるが、現在は利用していない」（家庭：32.1%、幼保：31.0%）となっており、3～4割が「ぷくぷくクラブ」を利用中及び利用経験者であると回答しています。
- 前回調査との比較をみると、家庭保育では「利用したことはあるが、現在は利用していない」が高く、「知っていたが、これまで利用したことがない」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。



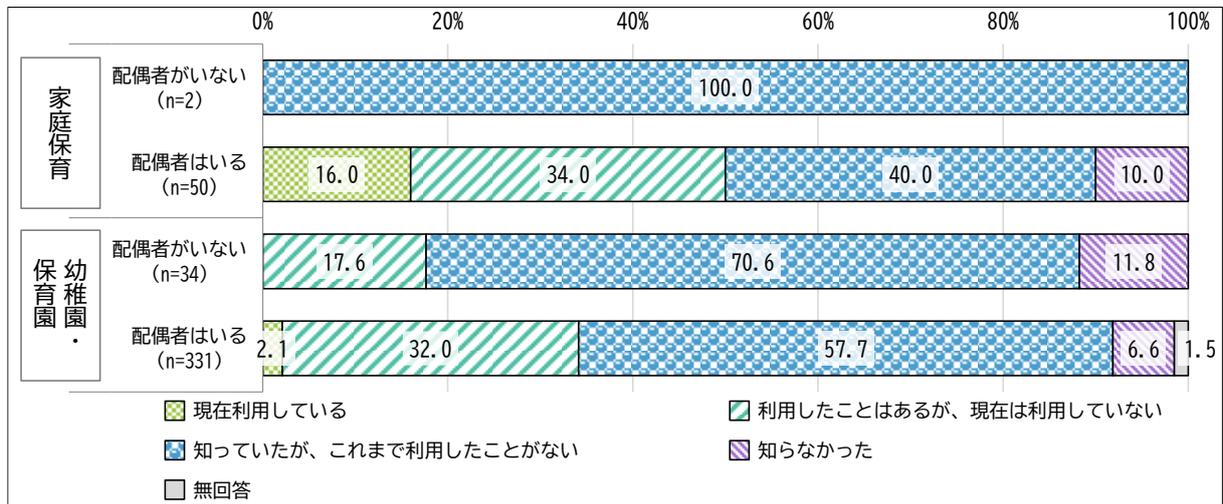
#### 【月当たり利用回数】



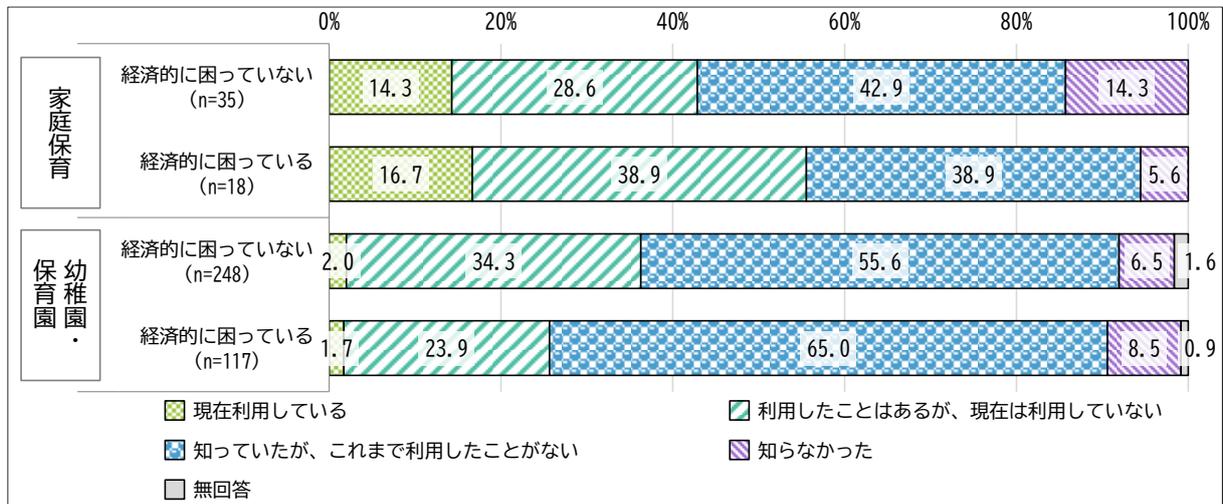
○配偶関係で見ると、幼稚園・保育園では「配偶者はいる」は「配偶者がいない」と比べて「利用したことはあるが、現在は利用していない」が高く、「知っていたが、これまで利用したことがない」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

○経済状況で見ると、「経済的に困っている」は「経済的に困っていない」と比べて「利用したことはあるが、現在は利用していない」の割合が、家庭保育では高く、幼稚園・保育園では低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

【「ぷくぷくクラブ」利用有無×配偶関係】



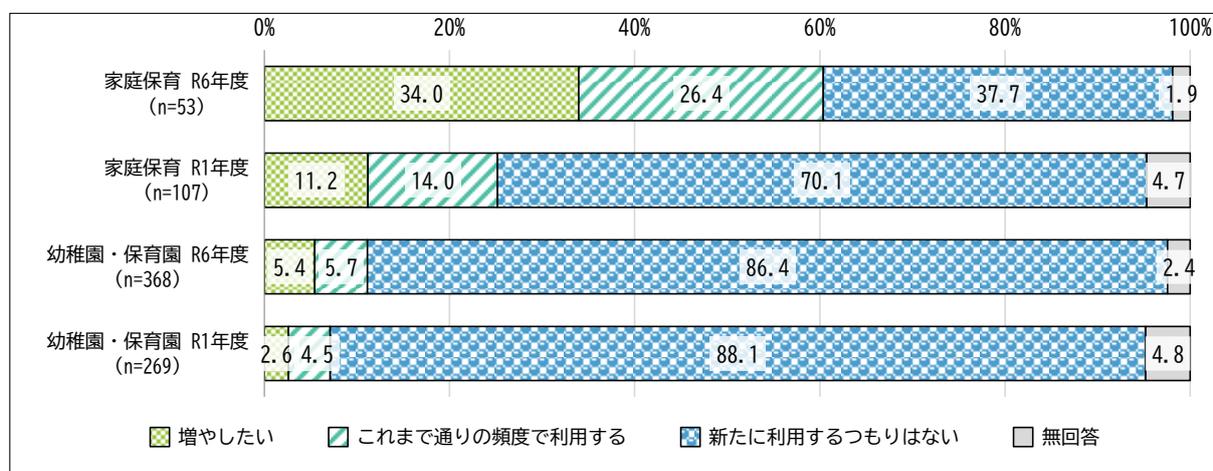
【「ぷくぷくクラブ」利用有無×経済状況】



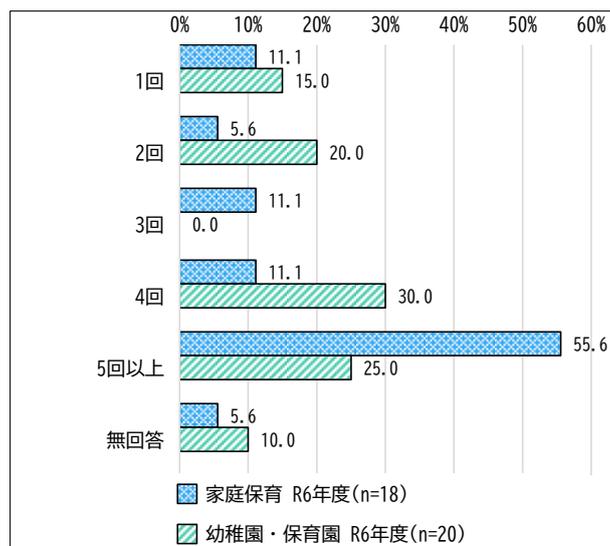
## (2) 今後「ぷくぷくクラブ」の利用を増やしたいですか。

【家庭：問 28、幼保：問 33】

- いずれも「新たに利用するつもりはない」（家庭：37.7%、幼保：86.4%）が最も高くなっています。また、幼稚園・保育園では8割以上が利用するつもりはないと回答していますが、家庭保育では3割が「増やしたい」と回答しており、家庭保育での利用希望意向が高くなっています。
- 前回調査との比較をみると、家庭保育では「増やしたい」「これまで通りの頻度で利用する」が高く、「新たに利用するつもりはない」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 今後利用を増やしたい月当たり回数について、家庭保育では「5回以上」55.6%、幼稚園・保育園では「4回」30.0%が最も高くなっています。



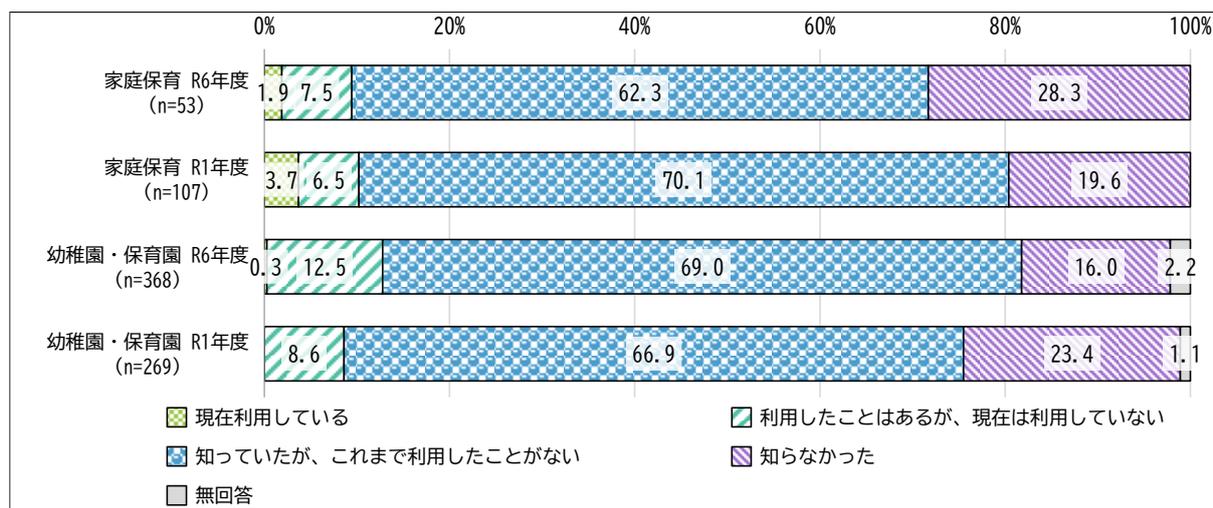
### 【今後利用を増やしたい月当たり回数】



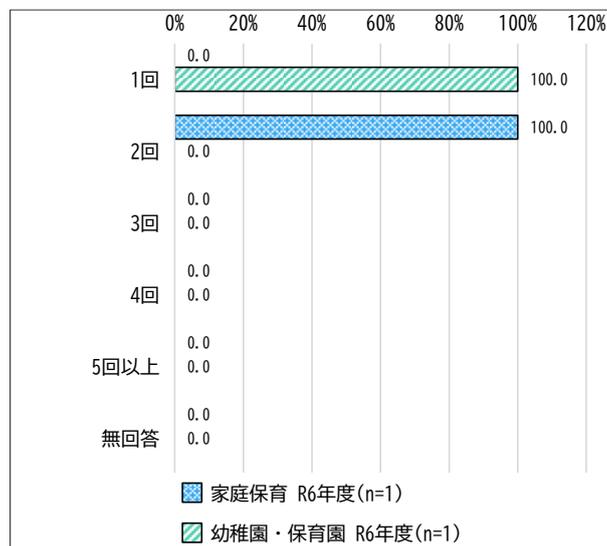
### (3) 一時預かり事業「ありす」をどの程度利用されていますか。

【家庭：問 29、幼保：問 34】

○「ありす」の利用状況については、いずれも「知っていたが、これまで利用したことがない」（家庭：62.3%、幼保：69.0%）が最も高く、次いで「知らなかった」（家庭：28.3%、幼保：16.0%）となっており、「ありす」を利用中及び利用経験者は1割前後となっています。



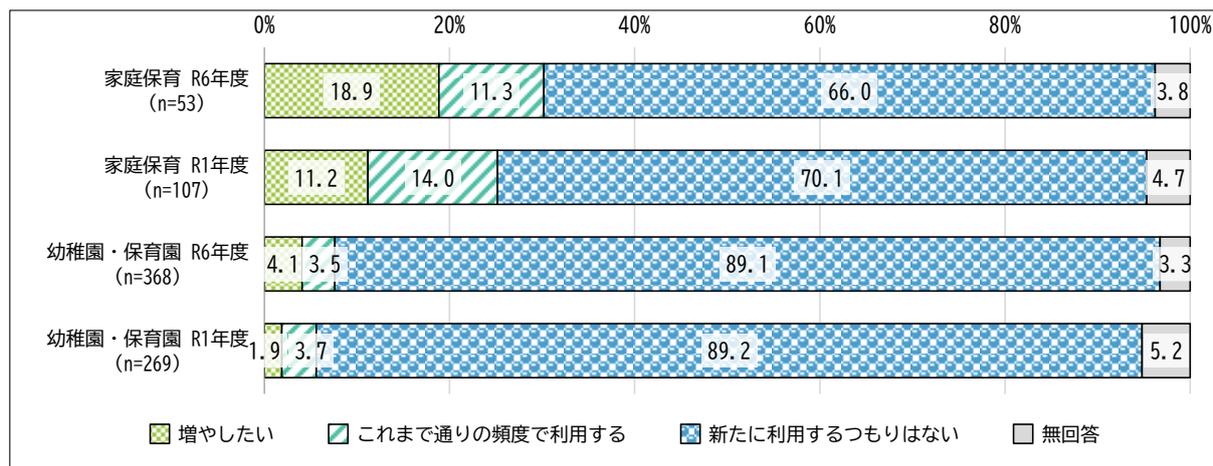
#### 【月当たり利用回数】



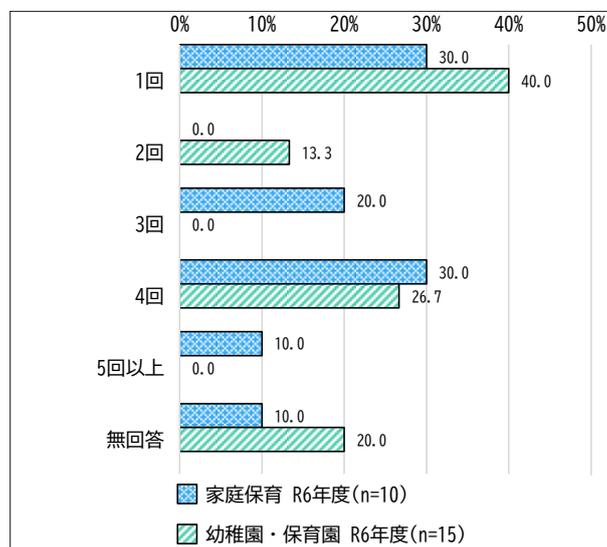
#### (4) 今後「ありす」の利用を増やしたいですか。【家庭：問 30、幼保：問 35】

○いずれも「新たに利用するつもりはない」（家庭：66.0%、幼保：89.1%）が最も高くなっています。また、幼稚園・保育園では約9割が利用するつもりはないと回答していますが、家庭保育では約2割が「増やしたい」と回答しており、家庭保育での利用希望意向が高くなっています。

○今後利用を増やしたい月当たり回数について、家庭保育では「1回」「4回」30.0%、幼稚園・保育園では「1回」40.0%が最も高くなっています。



#### 【今後利用を増やしたい月当たり回数】



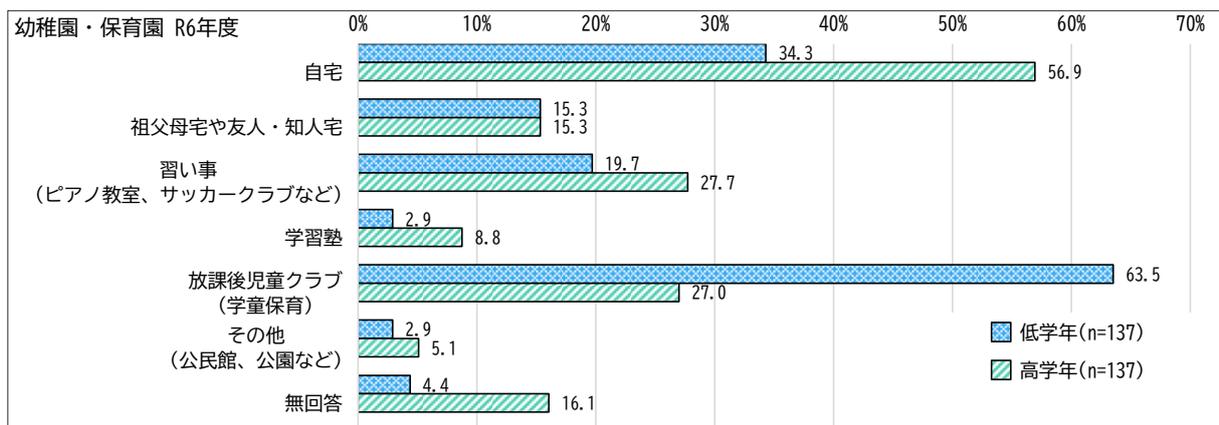
## 10. 小学校就学後の放課後の過ごし方について

(お子さんが5歳以上の方のみ)

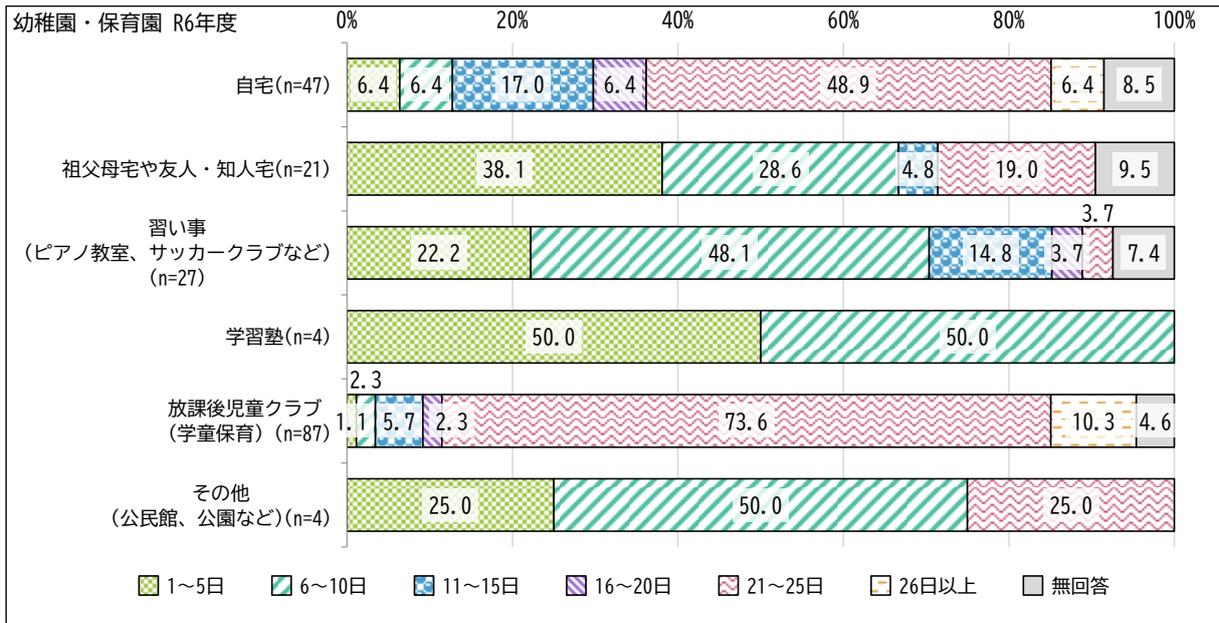
(1) お子さんが小学校低学年、高学年になったときに、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

【家庭：問31、幼保：問36】※家庭保育：5歳以上対象者なし

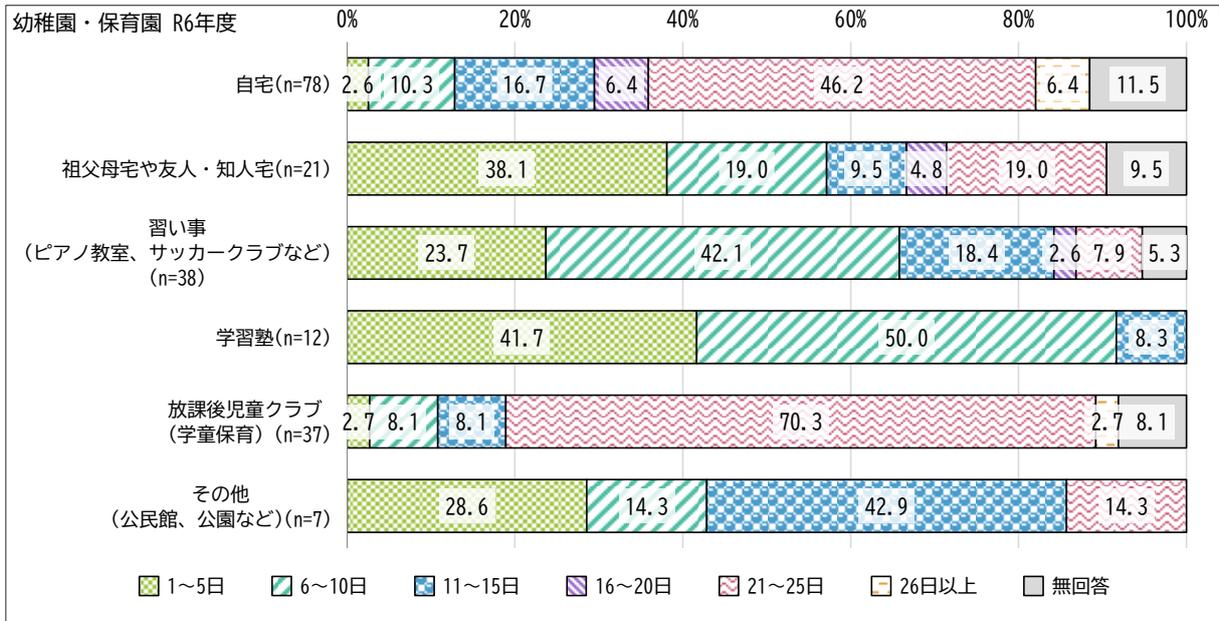
- 放課後過ごさせたい場所について尋ねたところ、小学校低学年(1~3年生)の間は「放課後児童クラブ(学童保育)」63.5%、小学校高学年(4~6年生)の間は「自宅」56.9%が最も高くなっています。
- 配偶関係でみると、「配偶者がいない」は「配偶者はいる」と比べて、低学年では「放課後児童クラブ(学童保育)」が高く、「自宅」が低く、高学年では「自宅」「祖父母宅や友人・知人宅」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 経済状況でみると、「経済的に困っている」は「経済的に困っていない」と比べて、低学年及び高学年ともに「自宅」「習い事(ピアノ教室、サッカークラブなど)」が低く、低学年では「放課後児童クラブ(学童保育)」が高くなっており、10ポイント以上差が生じています。



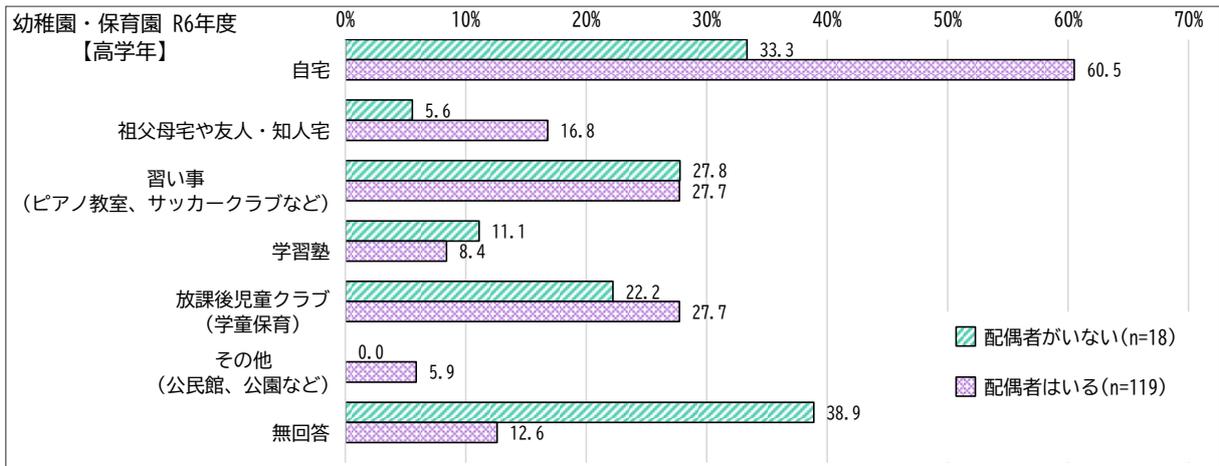
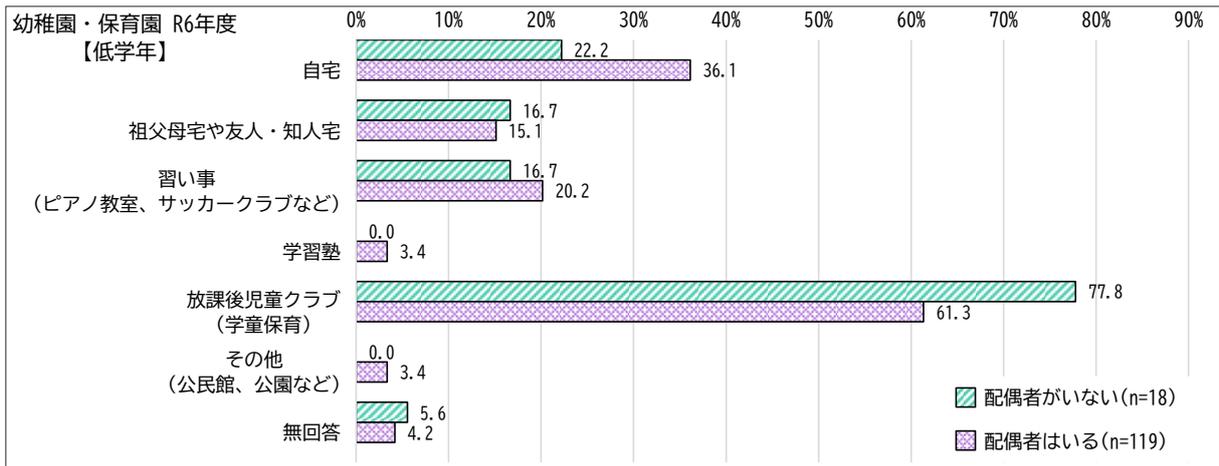
【週当たりの日数：低学年】



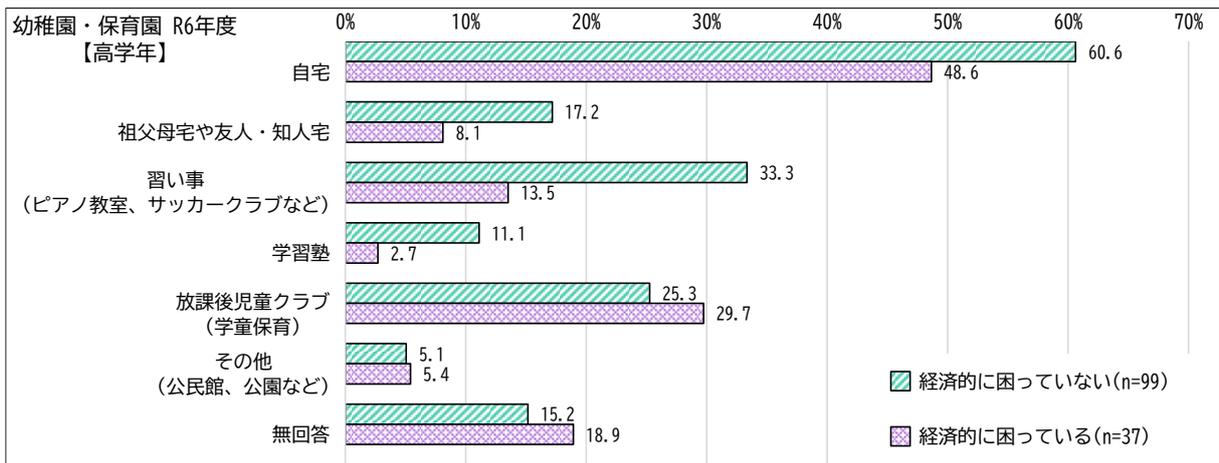
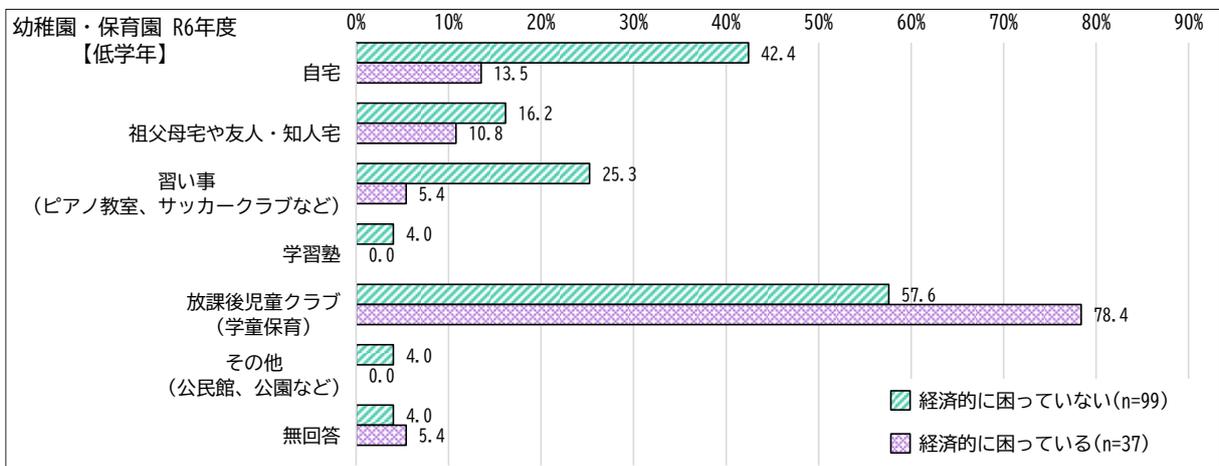
【週当たりの日数：高学年】



### 【放課後の時間を過ごさせたい場所×配偶関係】

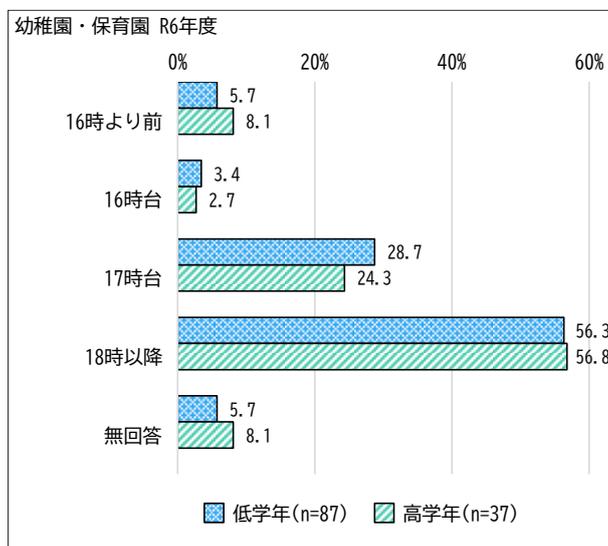


### 【放課後の時間を過ごさせたい場所×経済状況】



## ◆放課後児童クラブ(学童保育)の利用希望終了時刻

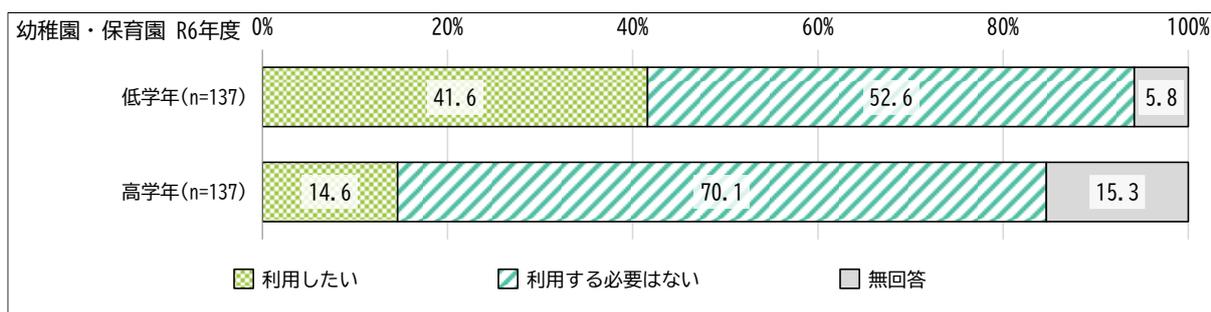
○放課後児童クラブ(学童保育)の利用希望終了時間については、いずれも「18時以降」が最も高く5割を超えており、「17時台」が2割台となっています。



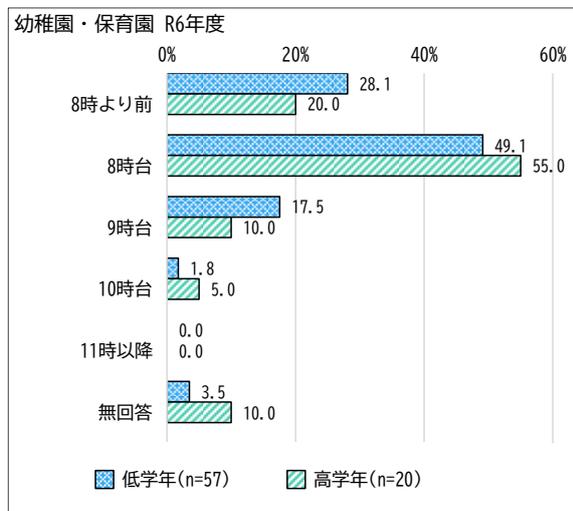
(2) 小学校低学年、高学年になったときに、土日・祝日及び夏休み・冬休みにおける放課後児童クラブ（学童保育）の利用についてお答えください。  
【家庭：問 32、幼保：問 37】

①土曜日

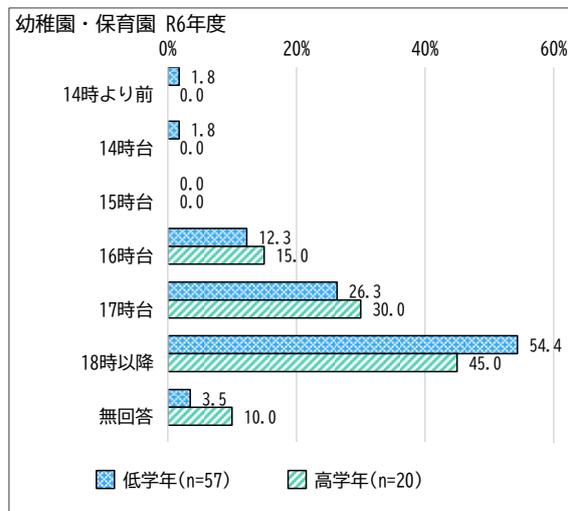
- 土曜日の利用希望について、いずれも「利用する必要はない」（低学年：52.6%、高学年：70.1%）が「利用したい」（低学年：41.6%、高学年：14.6%）を上回っていますが、低学年では4割が「利用したい」と回答しています。
- 土曜日の利用希望時刻について、いずれも開始時刻では「8時台」、終了時刻では「18時以降」が最も高くなっています。



【利用したい時間帯（開始時刻）】



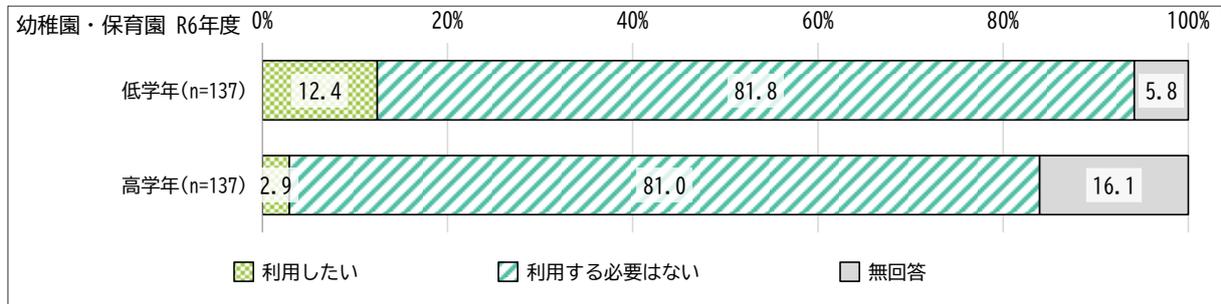
【利用したい時間帯（終了時刻）】



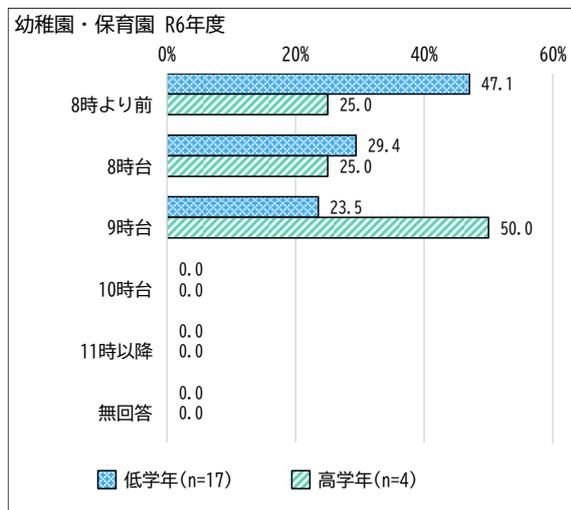
## ②日曜・祝日

○日曜・祝日の利用希望について、いずれも「利用する必要はない」（低学年：81.8%、高学年：81.0%）が8割を超えています。

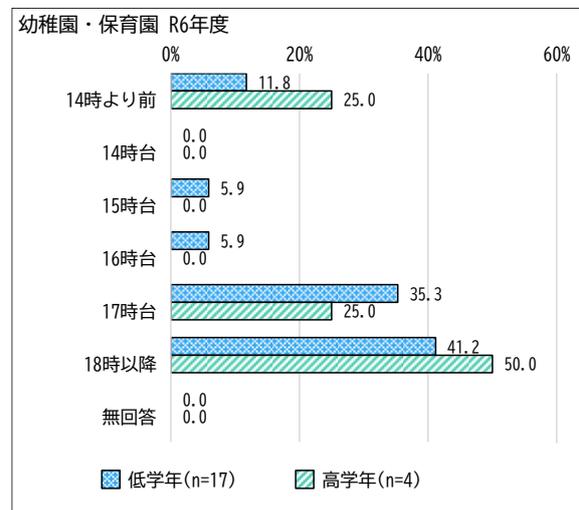
○日曜・祝日の利用希望時刻については、サンプル数が少ないため参考程度。



【利用したい時間帯（開始時刻）】



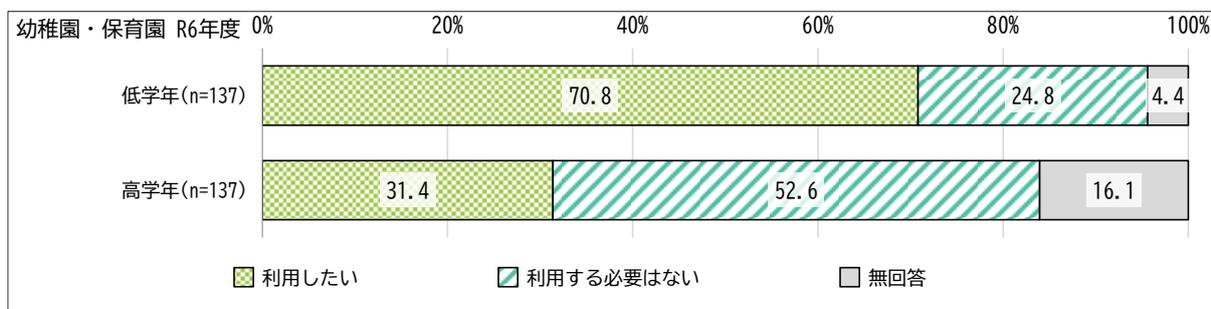
【利用したい時間帯（終了時刻）】



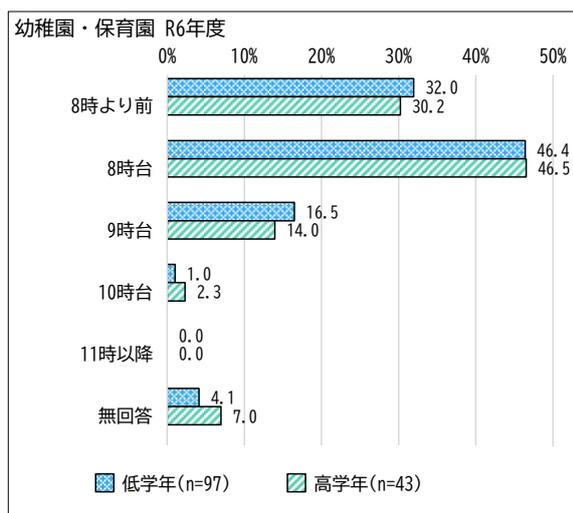
### ③夏休み・冬休み

○夏休み・冬休みの長期休暇期間中の利用希望について、低学年では「利用したい」70.8%、高学年では「利用する必要はない」52.6%が最も高くなっており、低学年では7割が長期休暇中の利用を希望しています。

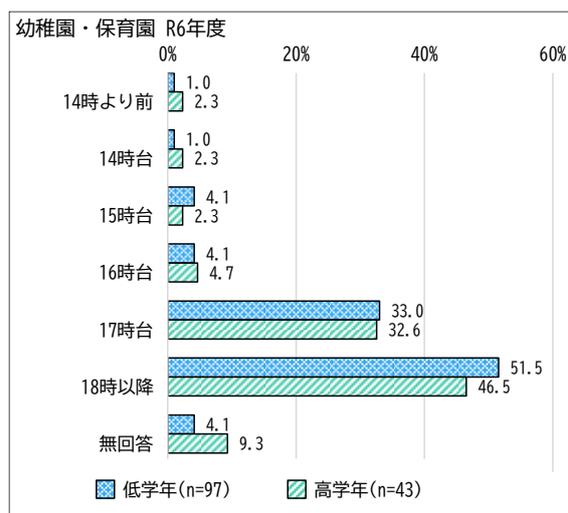
○夏休み・冬休みの利用希望時刻について、開始時刻では「8時台」、終了時刻では「18時以降」が最も高く、4割を超えています。



【利用したい時間帯（開始時刻）】



【利用したい時間帯（終了時刻）】

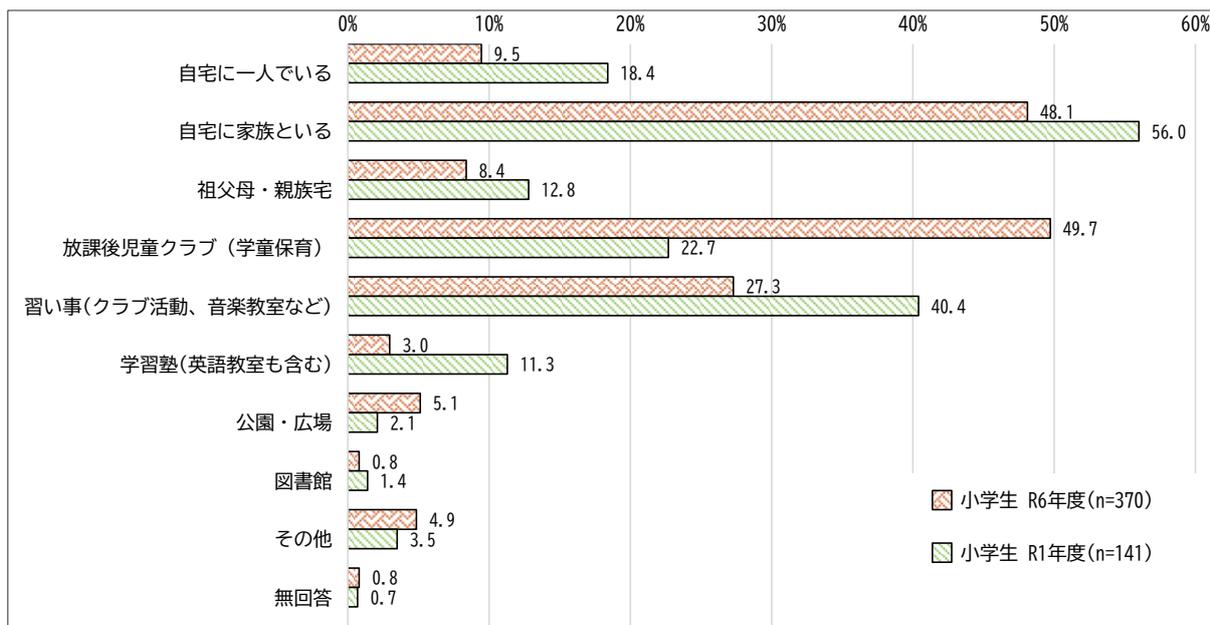


(お子さんが小学1～3年生の方のみ)

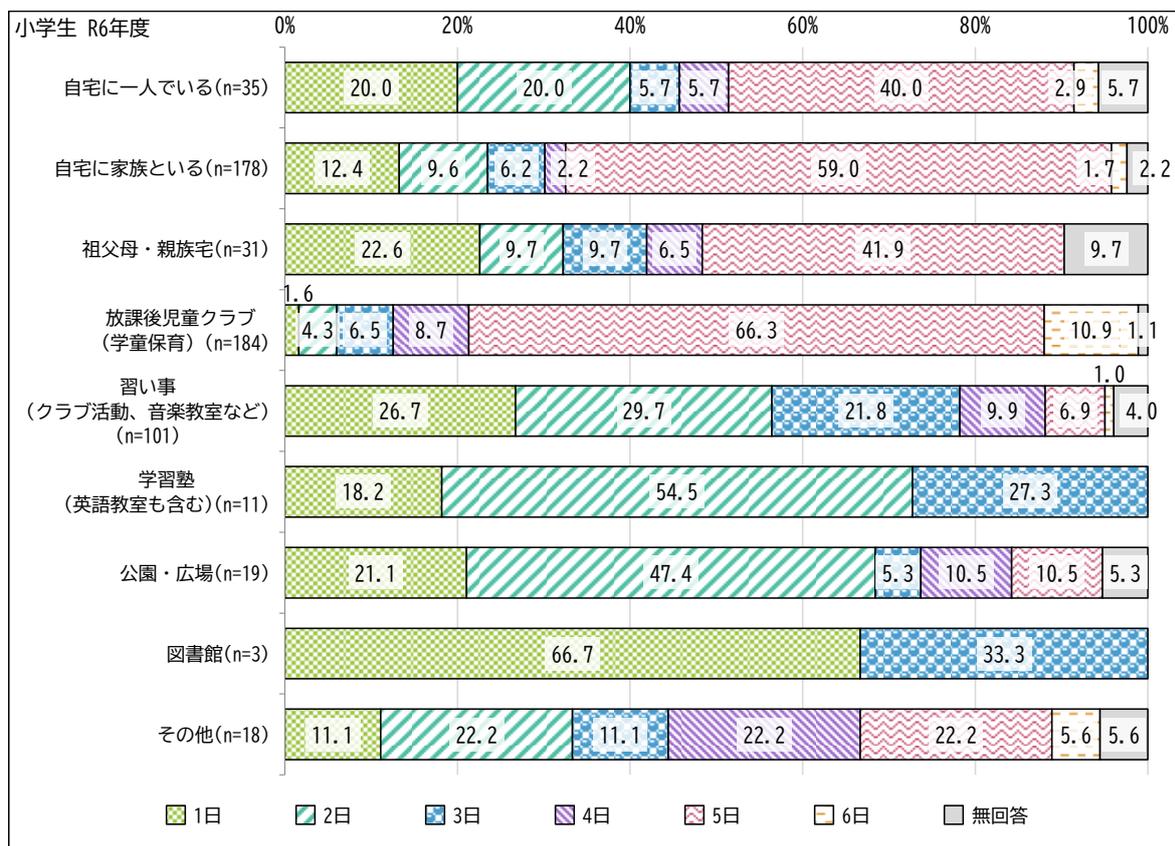
(3) 放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごしていますか。  
【小学生：問13】

○小学校低学年の放課後の過ごし場所については、「放課後児童クラブ(学童保育)」が49.7%と最も高く、次いで「自宅に家族といる」48.1%、「習い事(クラブ活動、音楽教室など)」27.3%となっています。

○前回調査との比較をみると、「放課後児童クラブ(学童保育)」が高く、「習い事(クラブ活動、音楽教室など)」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。



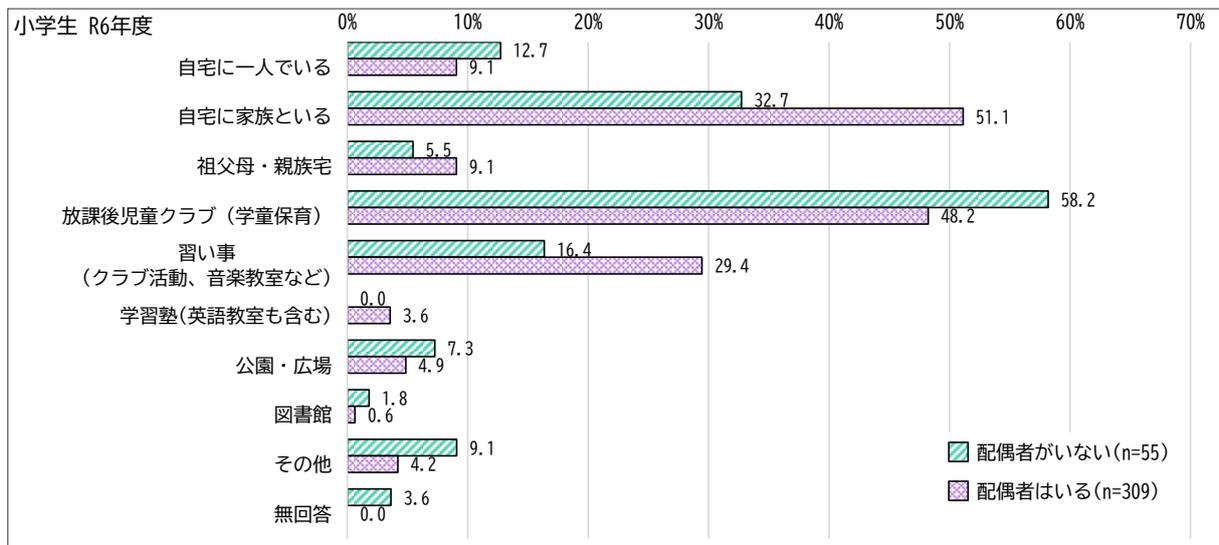
【週当たりの現在の利用日数】



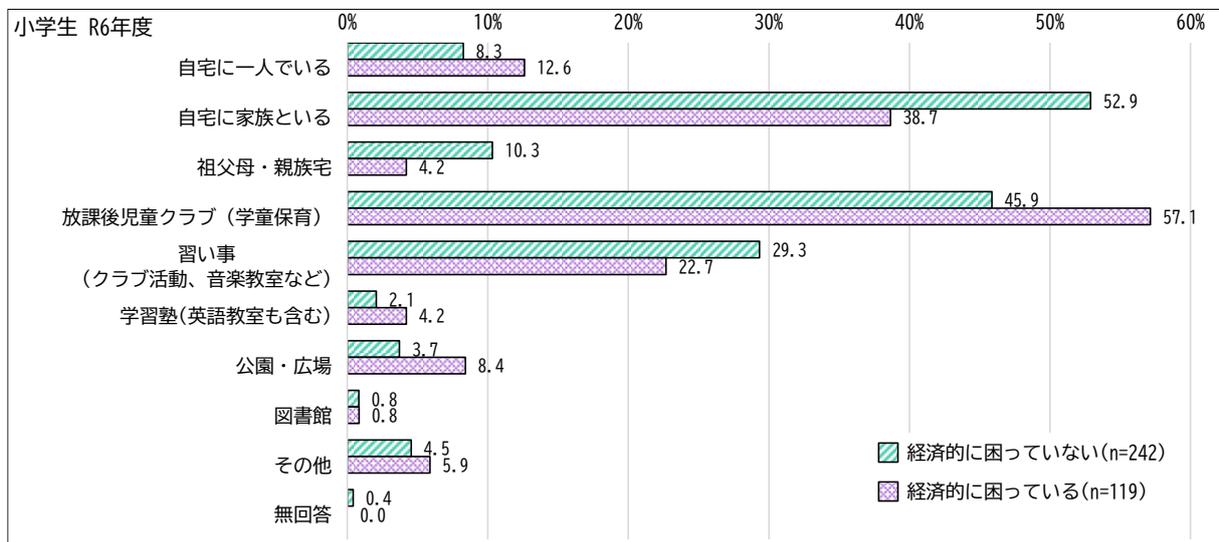
○配偶関係でみると、「配偶者がいない」は「配偶者はいる」と比べて「放課後児童クラブ（学童保育）」が高く、「自宅に家族という」「習い事(クラブ活動、音楽教室など)」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

○経済状況でみると、「経済的に困っている」は「経済的に困っていない」と比べて「放課後児童クラブ（学童保育）」が高く、「自宅に家族という」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

【放課後の時間を過ごす場所×配偶関係】



【放課後の時間を過ごす場所×経済状況】

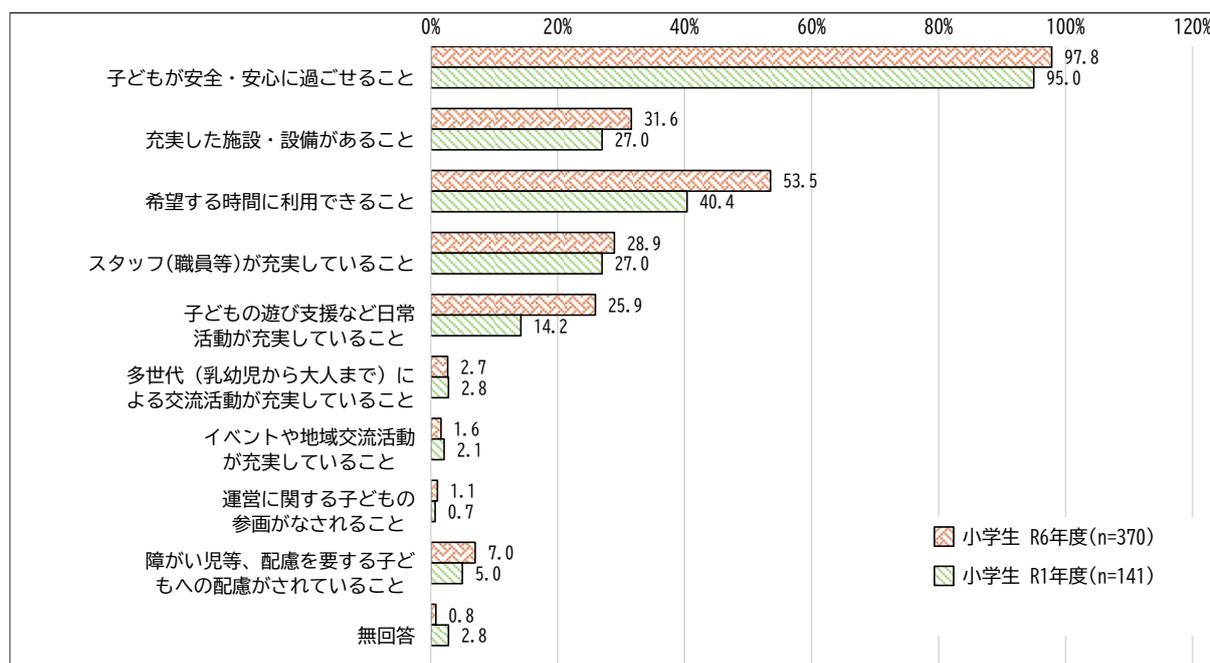


(お子さんが小学1～3年生の方のみ)

(4) 子どもが放課後を過ごす場所として、重視していることは何ですか。  
(複数回答)【小学生：問14】

○放課後過ごす場所として重視していることについては、「子どもが安全・安心に過ごせること」が97.8%と最も高く、次いで「希望する時間に利用できること」53.5%、「充実した施設・設備があること」31.6%となっています。

○前回調査との比較をみると、「希望する時間に利用できること」「子どもの遊び支援など日常活動が充実していること」が10ポイント以上高くなっています。

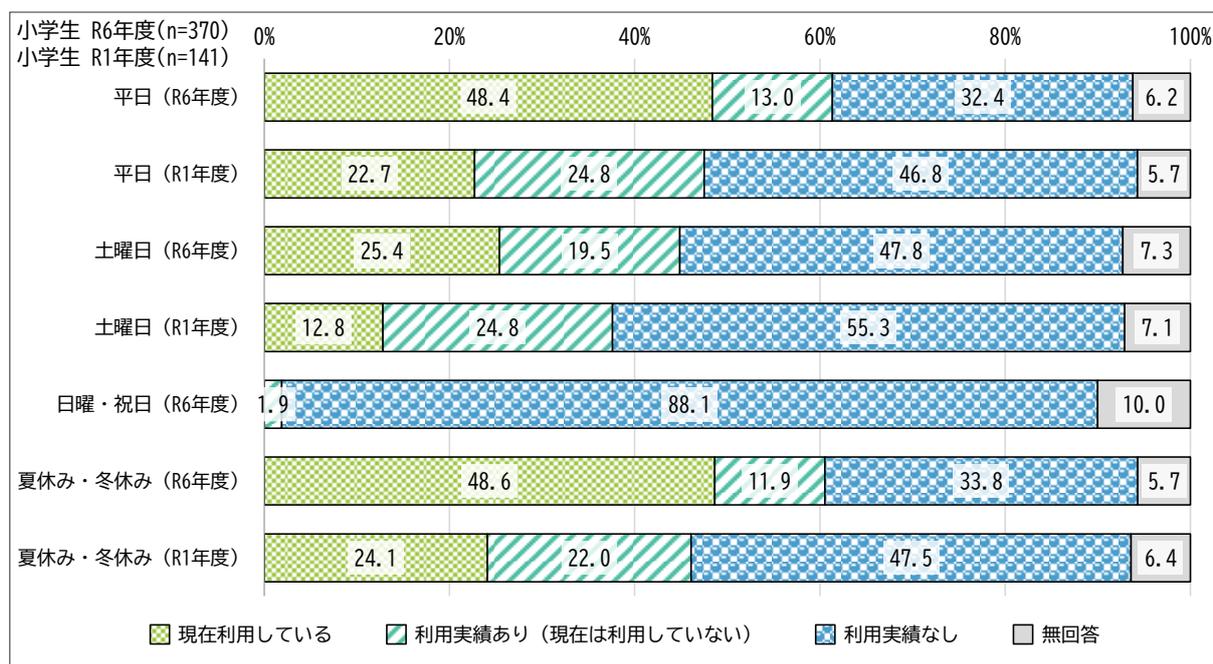


(お子さんが小学1～3年生の方のみ)

(5) 放課後児童クラブ(学童保育)の利用実績と今後の利用希望についてお答えください。【小学生：問15】

- 放課後児童クラブ(学童保育)の利用実績について、「土曜日」「日曜・祝日」は「利用実績なし」が最も高く、特に「日曜・祝日」では8割を超えています。また、「平日」及び「夏休み・冬休み」では約5割が「現在利用している」と回答しています。
- 前回調査との比較をみると、「平日」「土曜日」「夏休み・冬休み」では「現在利用している」が高く、「平日」「夏休み・冬休み」では「利用実績あり(現在は利用していない)」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

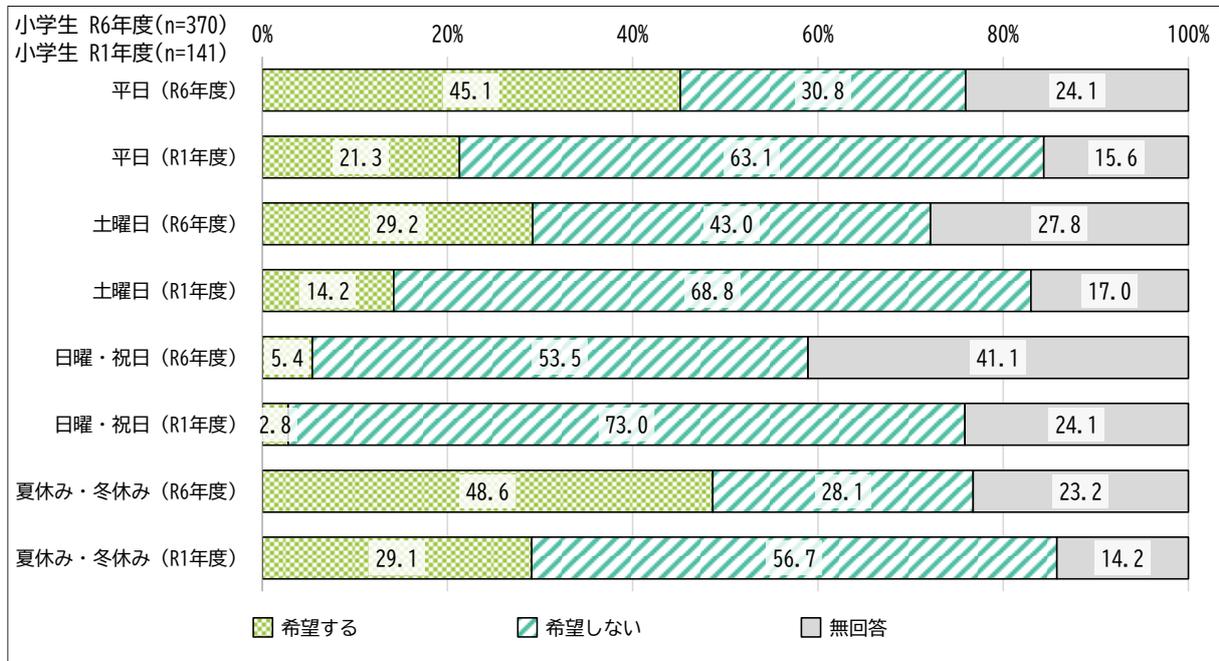
【利用実績】



○今後の利用希望について、「平日」及び「夏休み・冬休み」では約5割が「希望する」と回答していますが、「土曜日」「日曜・祝日」では4～5割が「希望しない」と回答しています。

○前回調査との比較をみると、「平日」「土曜日」「夏休み・冬休み」では「希望する」が高く、「平日」「土曜日」「日曜・祝日」「夏休み・冬休み」では「希望しない」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

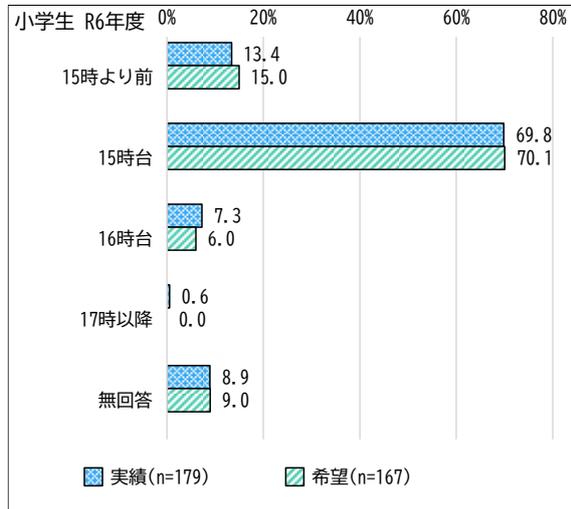
【今後の利用希望】



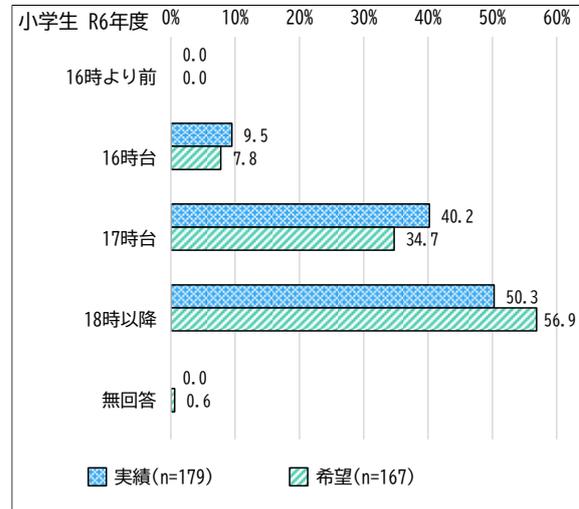
## ◆利用したい時間帯

○利用したい時間帯については、概ね実績と希望に差は生じていませんが、「土曜日：終了時刻」について、実績では「17時台」、希望では「18時以降」が最も高くなっており、土曜日の希望終了時刻は現状より遅い時間帯のニーズが高いことがうかがえます。

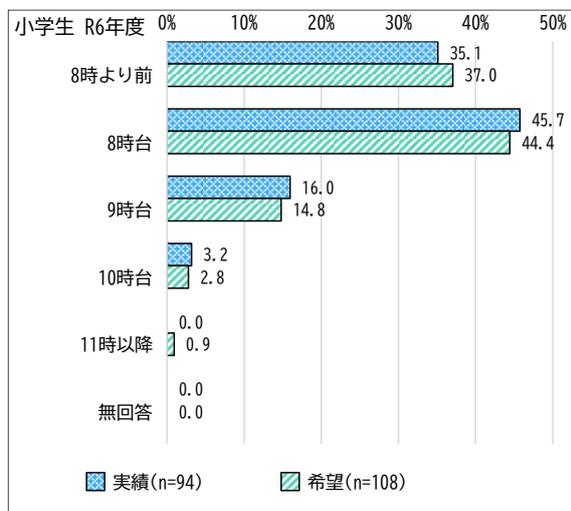
【平日：開始時刻】



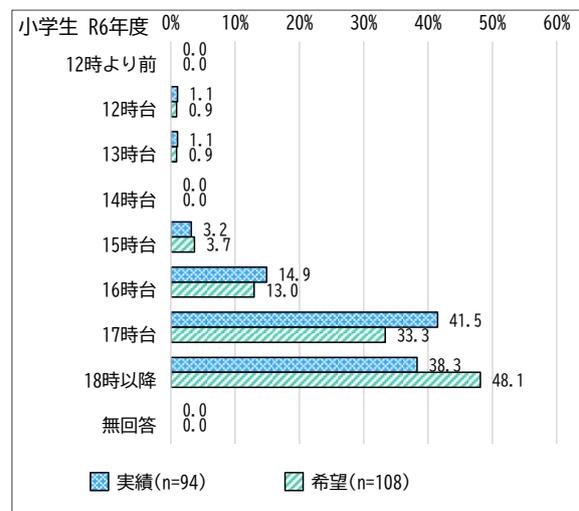
【平日：終了時刻】



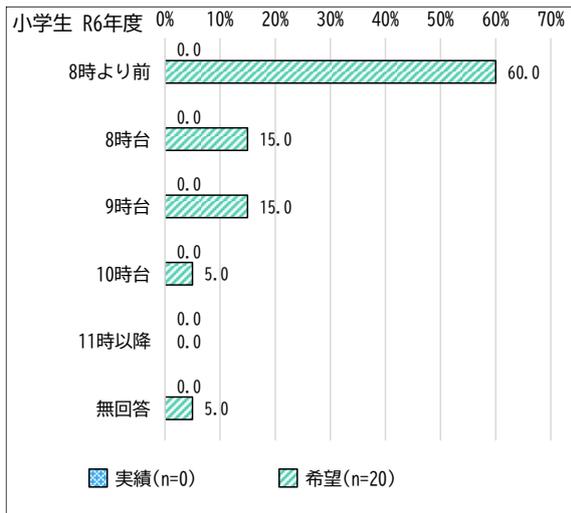
【土曜日：開始時刻】



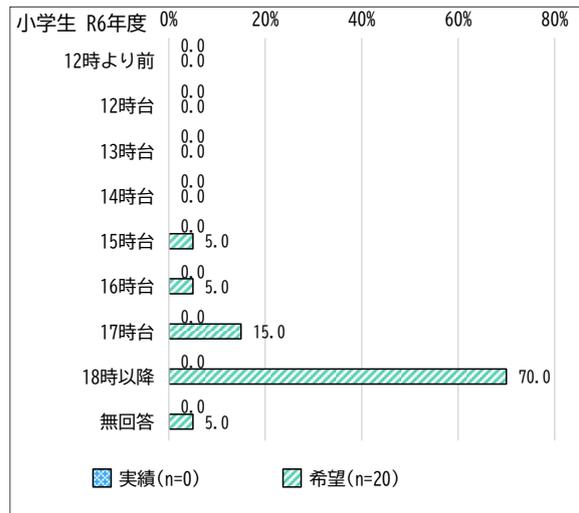
【土曜日：終了時刻】



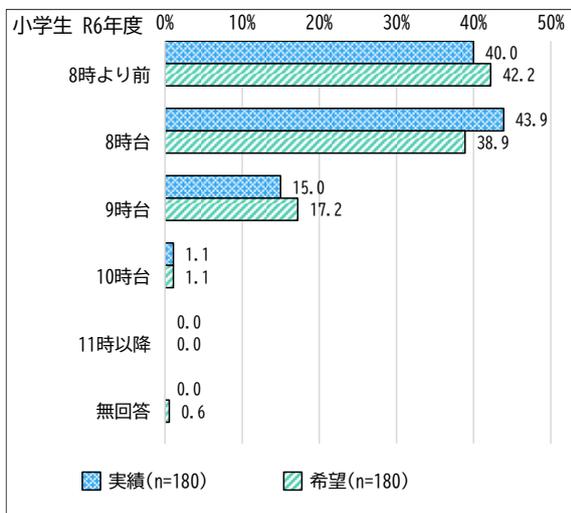
【日曜・祝日：開始時刻】



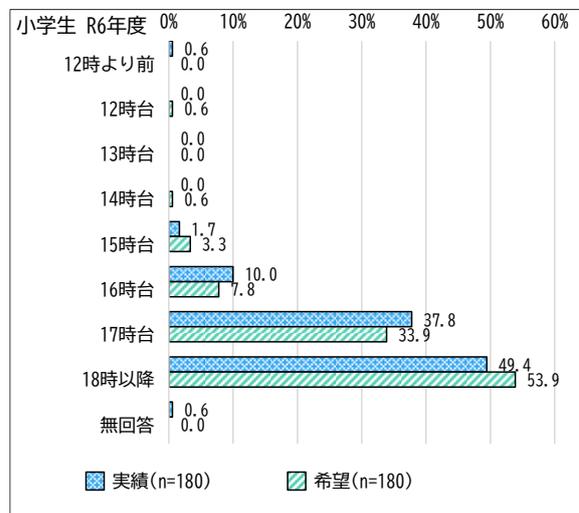
【日曜・祝日：終了時刻】



【夏休み・冬休み：開始時刻】



【夏休み・冬休み：終了時刻】



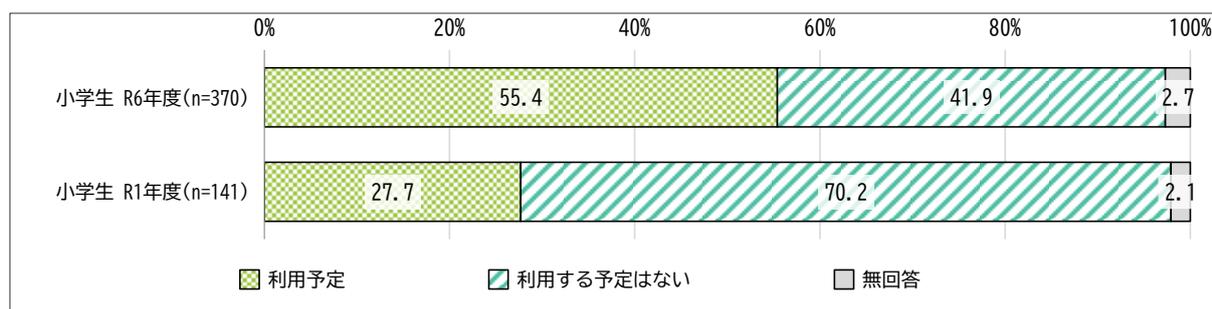
(お子さんが小学1～3年生の方のみ)

(6) 放課後児童クラブ(学童保育)の利用予定を教えてください。【小学生：問16】

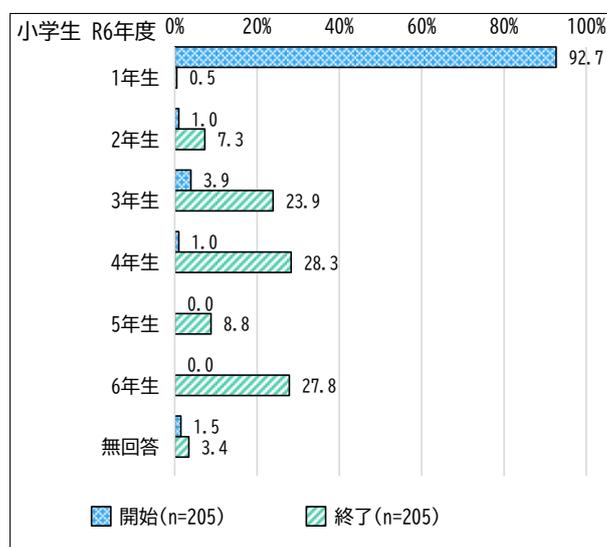
○放課後児童クラブ(学童保育)の利用予定については、「利用予定」が55.4%、「利用する予定はない」が41.9%となっており、「利用予定」が「利用する予定はない」をやや上回っています。

○前回調査との比較をみると、「利用予定」が高く、「利用する予定はない」が低くなっており、25ポイント以上差が生じています。

○利用予定期間について、開始時期では「1年生」92.7%が最も高く9割を超えています。終了時期では「3年生」「4年生」「6年生」がそれぞれ2割台と分散しています。



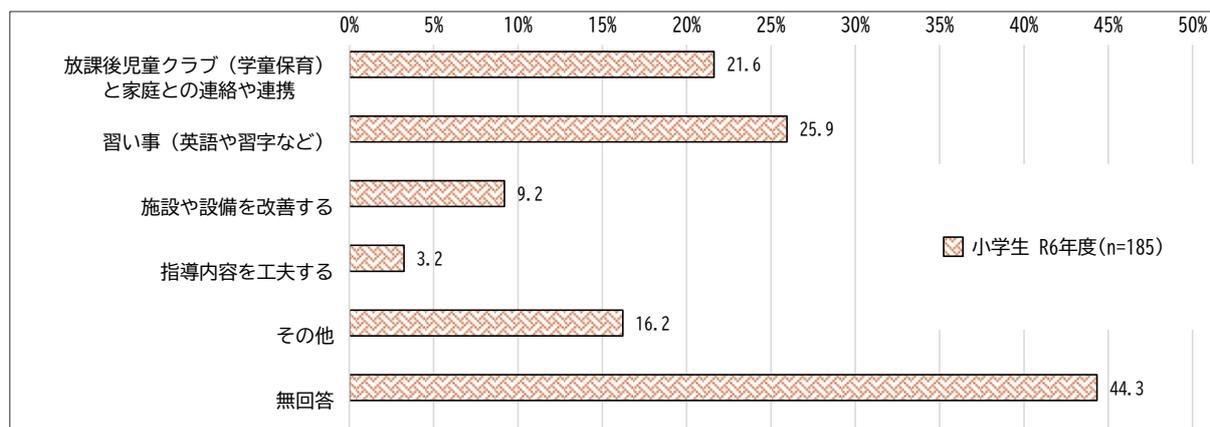
【利用予定期間】



(お子さんが小学1～3年生の方で、放課後児童クラブ利用者のみ)

(7) 今後放課後児童クラブ(学童保育)に望むサービスは何ですか。(複数回答)  
【小学生：問17】

○放課後児童クラブ(学童保育)に望むサービスについては、「習い事(英語や習字など)」が25.9%と最も高く、次いで「放課後児童クラブ(学童保育)と家庭との連絡や連携」21.6%、「その他」16.2%となっています。



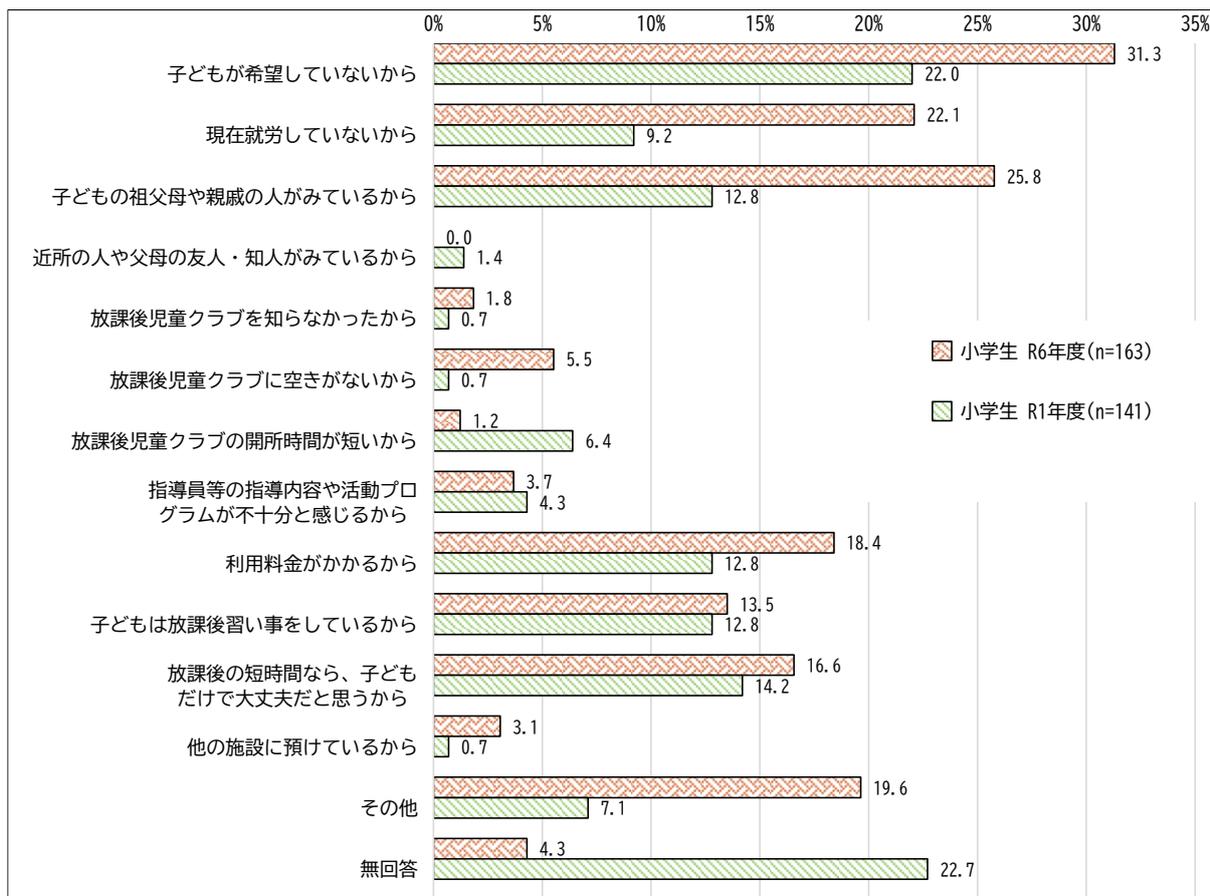
※放課後児童クラブ(学童保育)に望むサービスや改善点についての詳細は、別紙「佐々町 子ども・子育て及び子どもの生活状況アンケート調査 結果報告書(自由記述)」に掲載

(お子さんが小学1～3年生の方で、放課後児童クラブを利用していない方のみ)

(8) 放課後児童クラブ（学童保育）を利用しない理由は何ですか。（複数回答）  
【小学生：問18】

○放課後児童クラブ（学童保育）を利用しない理由については、「子どもが希望していないから」が31.3%と最も高く、次いで「子どもの祖父母や親戚の人がみているから」25.8%、「現在就労していないから」22.1%となっています。

○前回調査との比較をみると、「現在就労していないから」「子どもの祖父母や親戚の人がみているから」「その他」が10ポイント以上高くなっています。



## 11. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援について

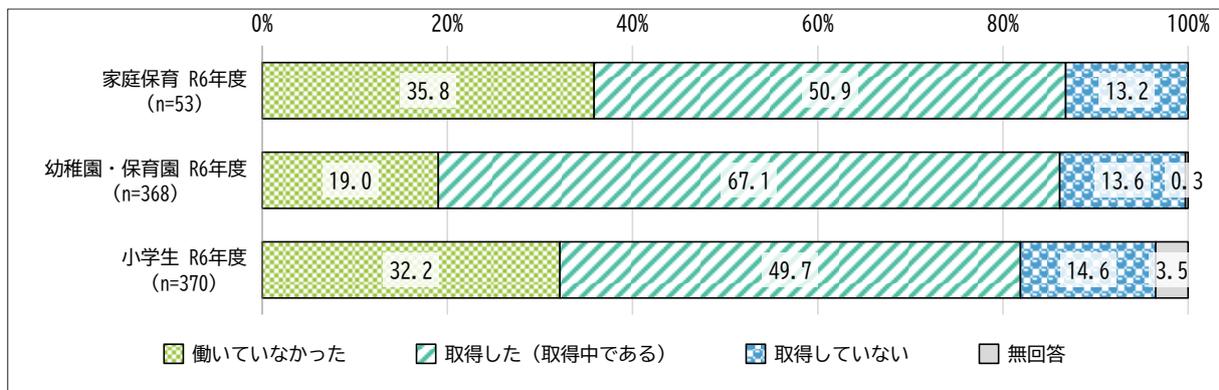
(1) お子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。また、「3. 取得していない」方はその理由もお答えください。

【家庭：問 33、幼保：問 38、小学生：問 22】

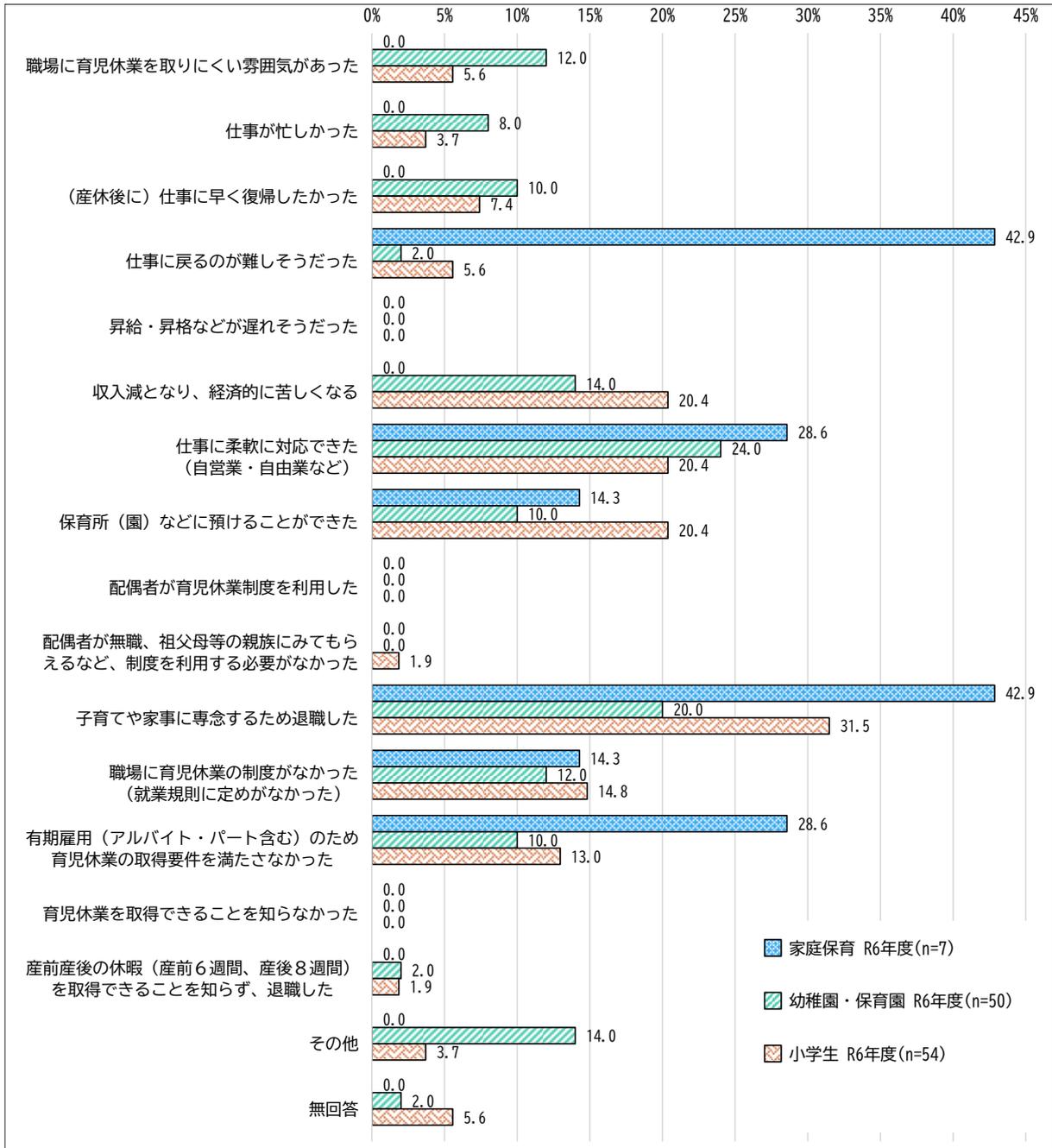
### ①母親

○母親の育児休業の取得について、いずれも「取得した（取得中である）」（家庭：50.9%、幼保：67.1%、小学生：49.7%）が最も高く、次いで「働いていなかった」（家庭：35.8%、幼保：19.0%、小学生：32.2%）、「取得していない」（家庭：13.2%、幼保：13.6%、小学生：14.6%）となっています。

○取得していない理由については、サンプル数が少ないため参考程度。



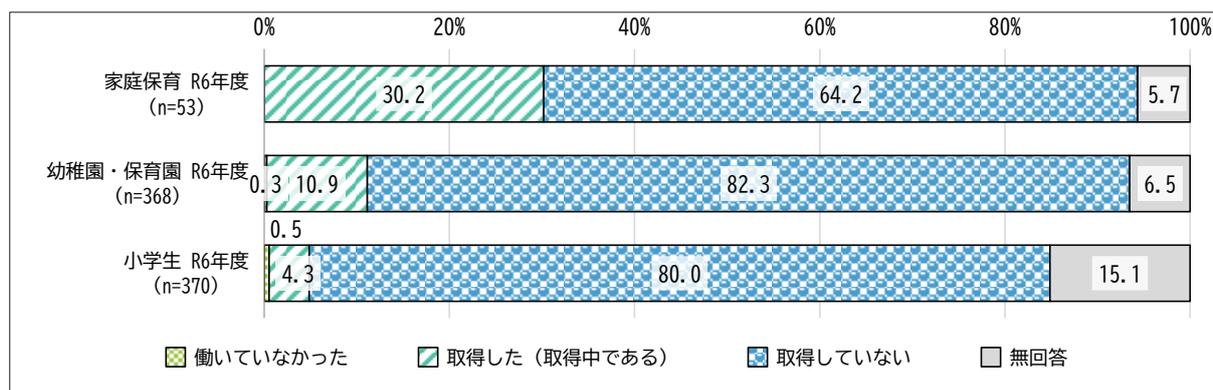
### 【取得していない理由】



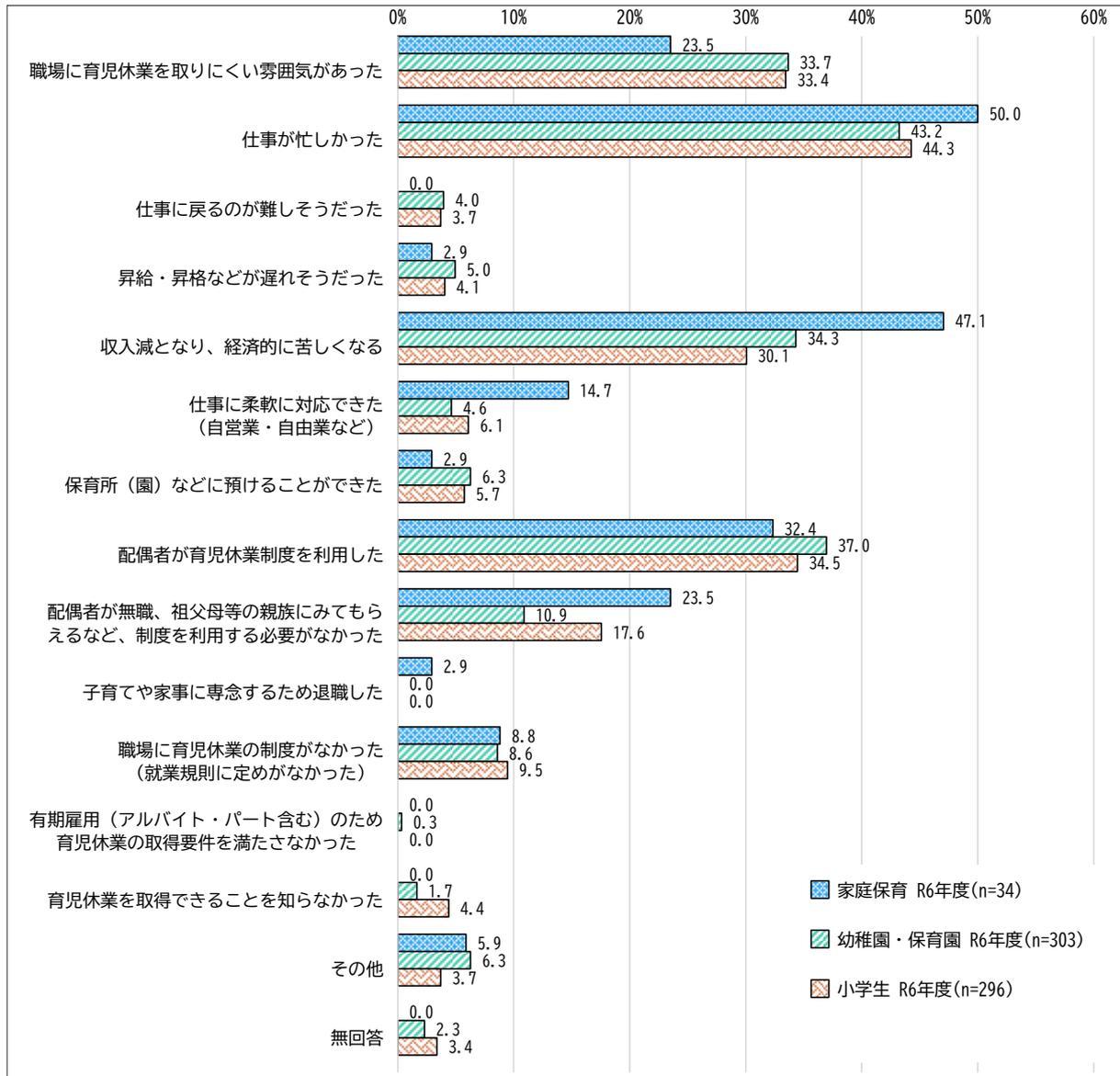
## ②父親

○父親の育児休業の取得について、いずれも「取得していない」（家庭：64.2%、幼保：82.3%、小学生：80.0%）が最も高く、特に幼稚園・保育園及び小学生では8割を超えています。家庭保育では3割が「取得した（取得中である）」と回答しています。

○取得していない理由については、「仕事が忙しかった」（家庭：50.0%、幼保：43.2%、小学生：44.3%）が最も高く、次いで家庭保育では「収入減となり、経済的に苦しくなる」47.1%、幼稚園・保育園及び小学生では「配偶者が育児休業制度を利用した」（幼保：37.0%、小学生：34.5%）となっています。



### 【取得していない理由】

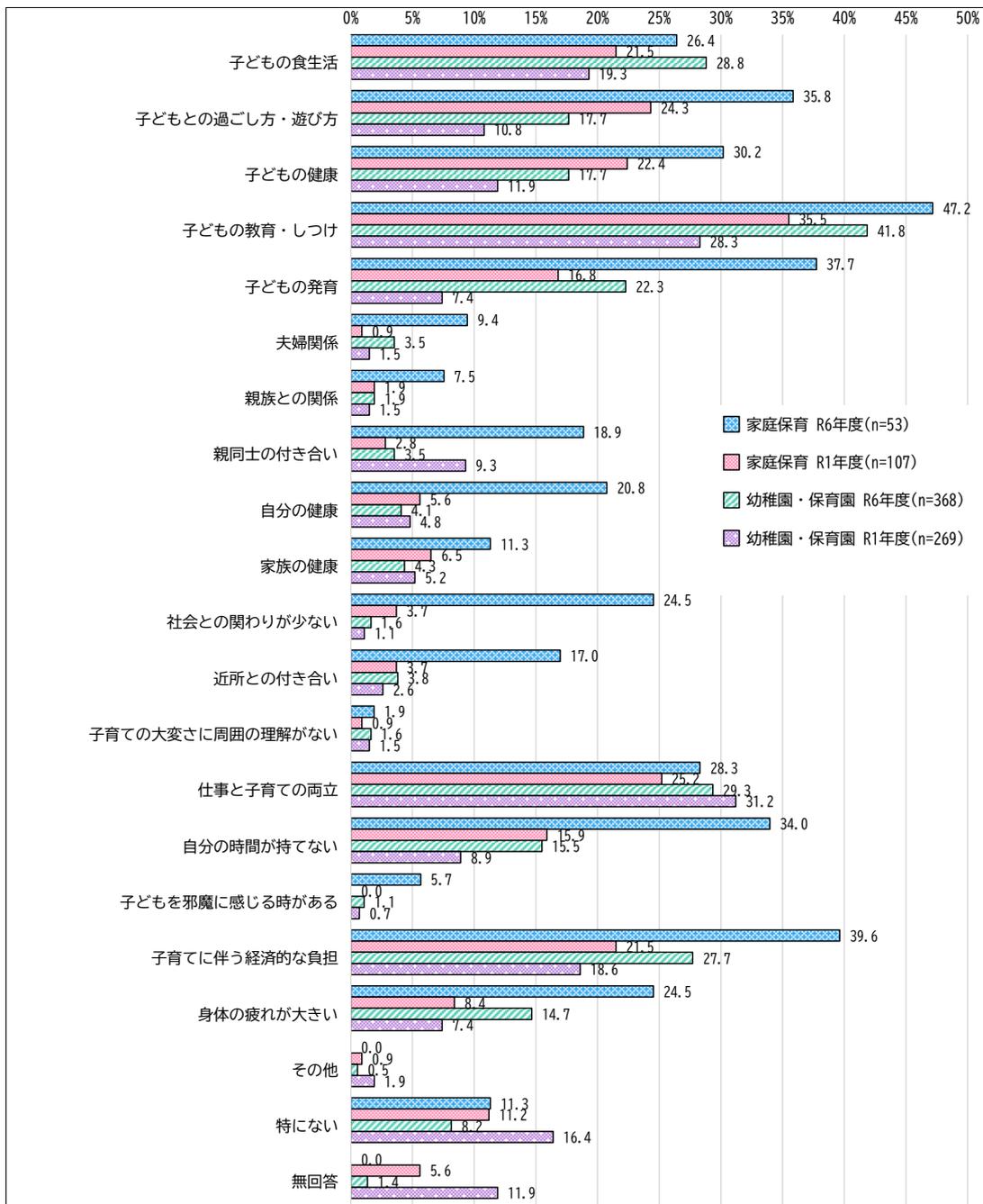


## 12. 佐々町での子育てについて

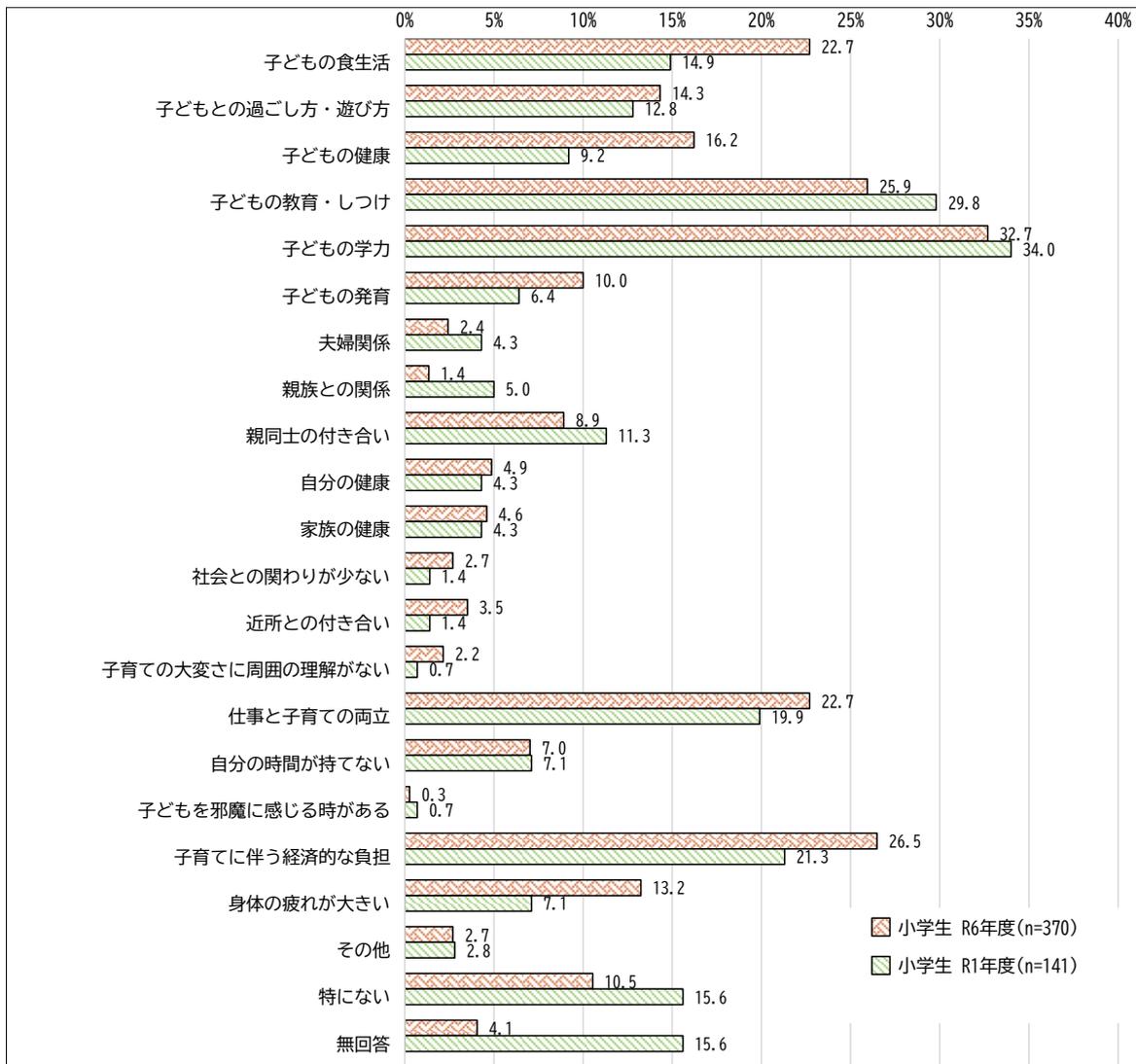
### (1) 現在、子育てをされていて感じる悩みは何ですか。(複数回答) 【家庭：問 34、幼保：問 39、小学生：問 23】

○家庭保育及び幼稚園・保育園では「子どもの教育・しつけ」(家庭：47.2%、幼保：41.8%)が最も高くなっています。また、家庭保育では「子どもとの過ごし方・遊び方」「子どもの健康」「自分の時間が持てない」「子育てに伴う経済的な負担」が3割を超えています。

○前回調査との比較をみると、家庭保育及び幼稚園・保育園では「子どもの教育・しつけ」「子どもの発達」、家庭保育では「子どもとの過ごし方・遊び方」「親同士の付き合い」「自分の健康」「社会との関わりが少ない」「近所との付き合い」「自分の時間が持てない」「子育てに伴う経済的な負担」「身体の疲れが大きい」が10ポイント以上高くなっています。



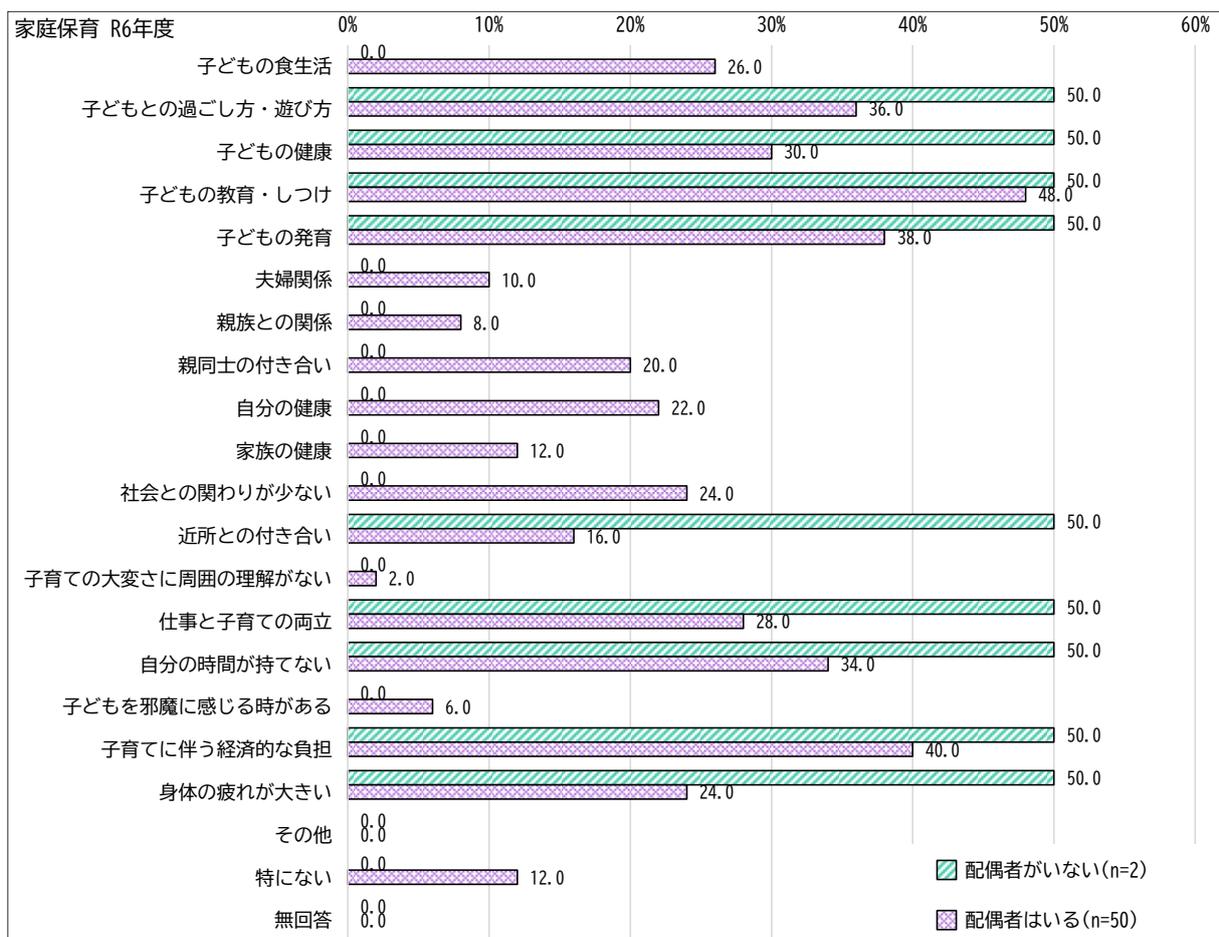
○小学生では「子どもの学力」32.7%が最も高く、次いで「子育てに伴う経済的な負担」26.5%、「子どもの教育・しつけ」25.9%となっています。

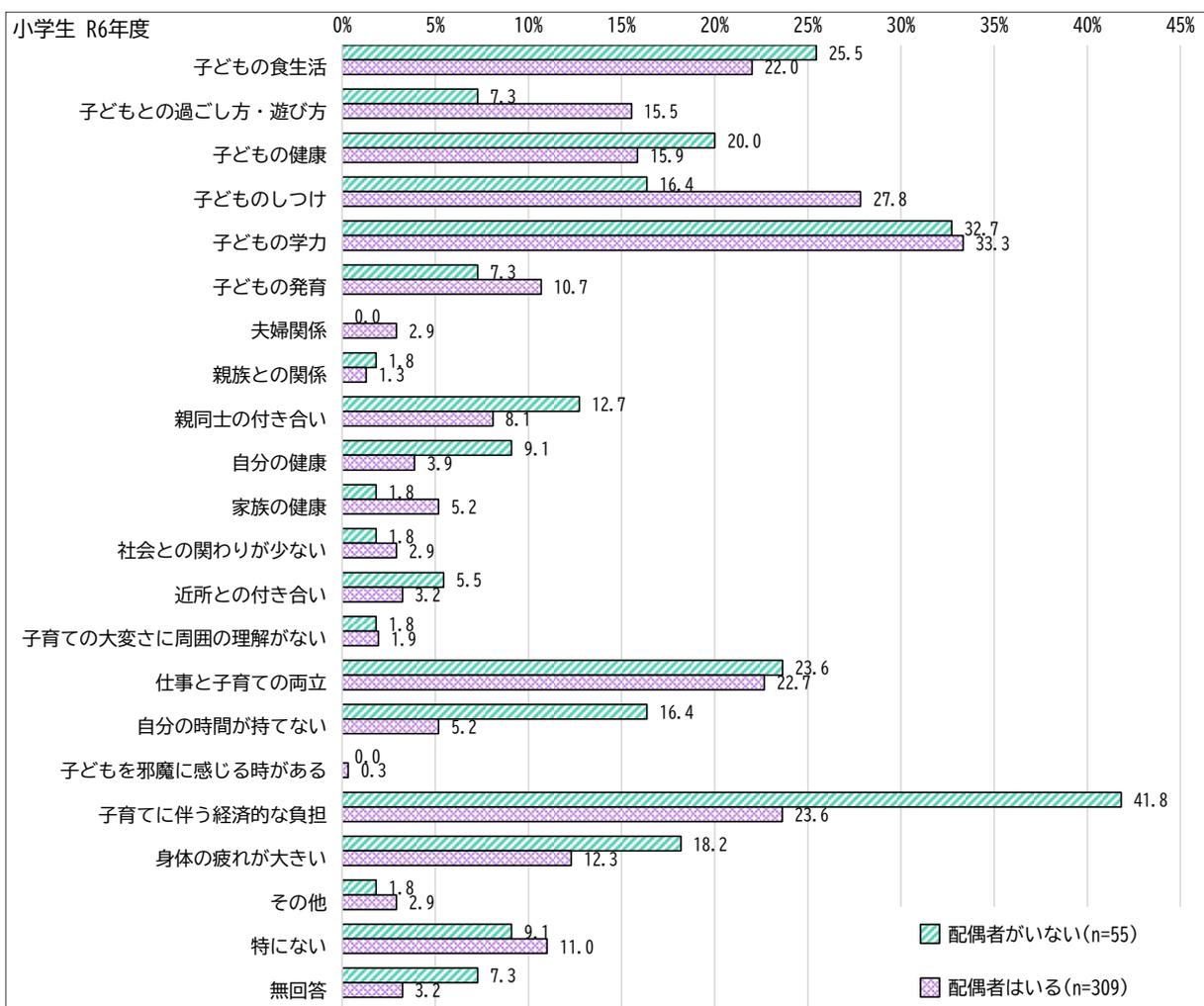
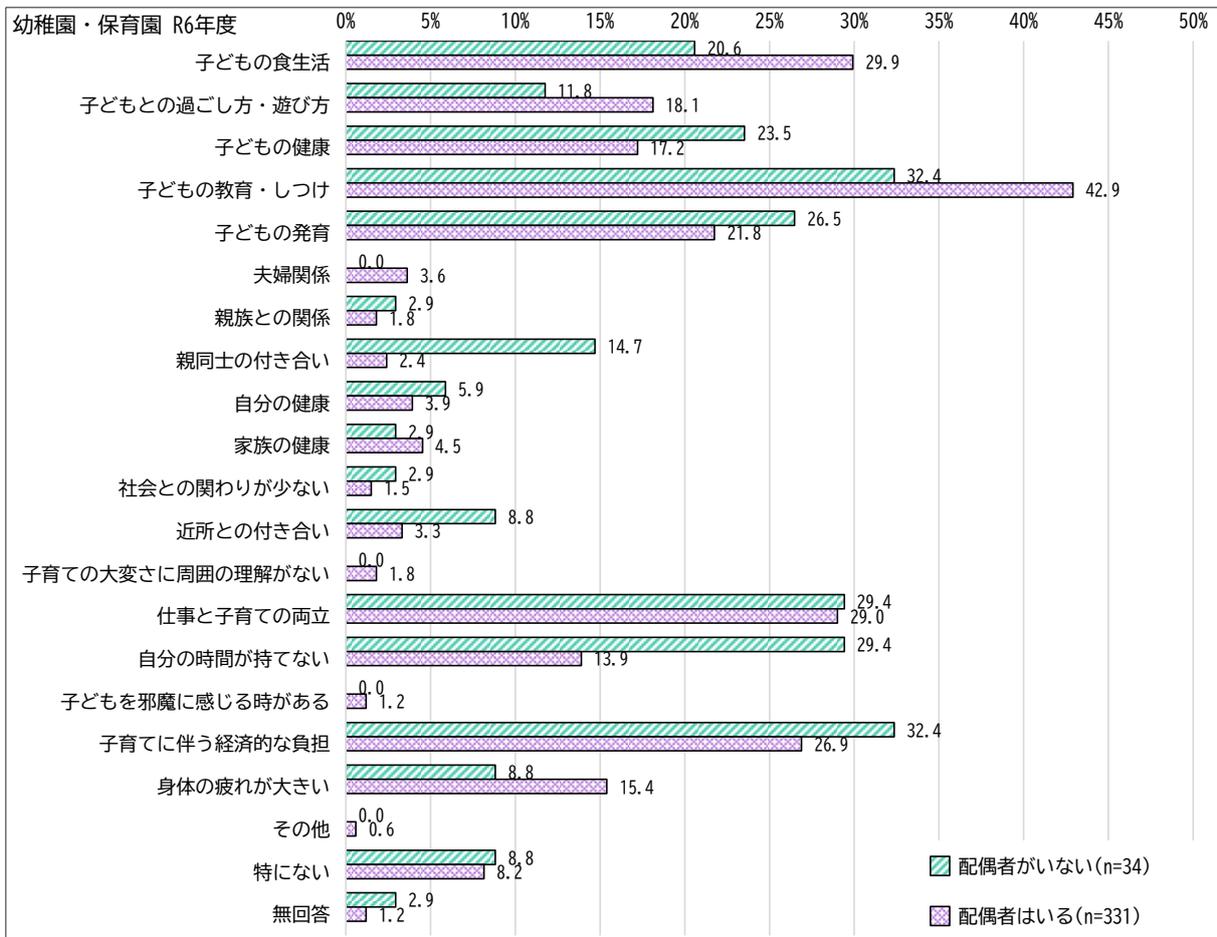


○配偶関係でみると、「配偶者がいない」は「配偶者はいる」と比べて、幼稚園・保育園では「親同士の付き合い」「自分の時間が持てない」が高く、「子どもの教育・しつけ」が低く、小学生では「自分の時間が持てない」「子育てに伴う経済的な負担」が高く、「子どものしつけ」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。

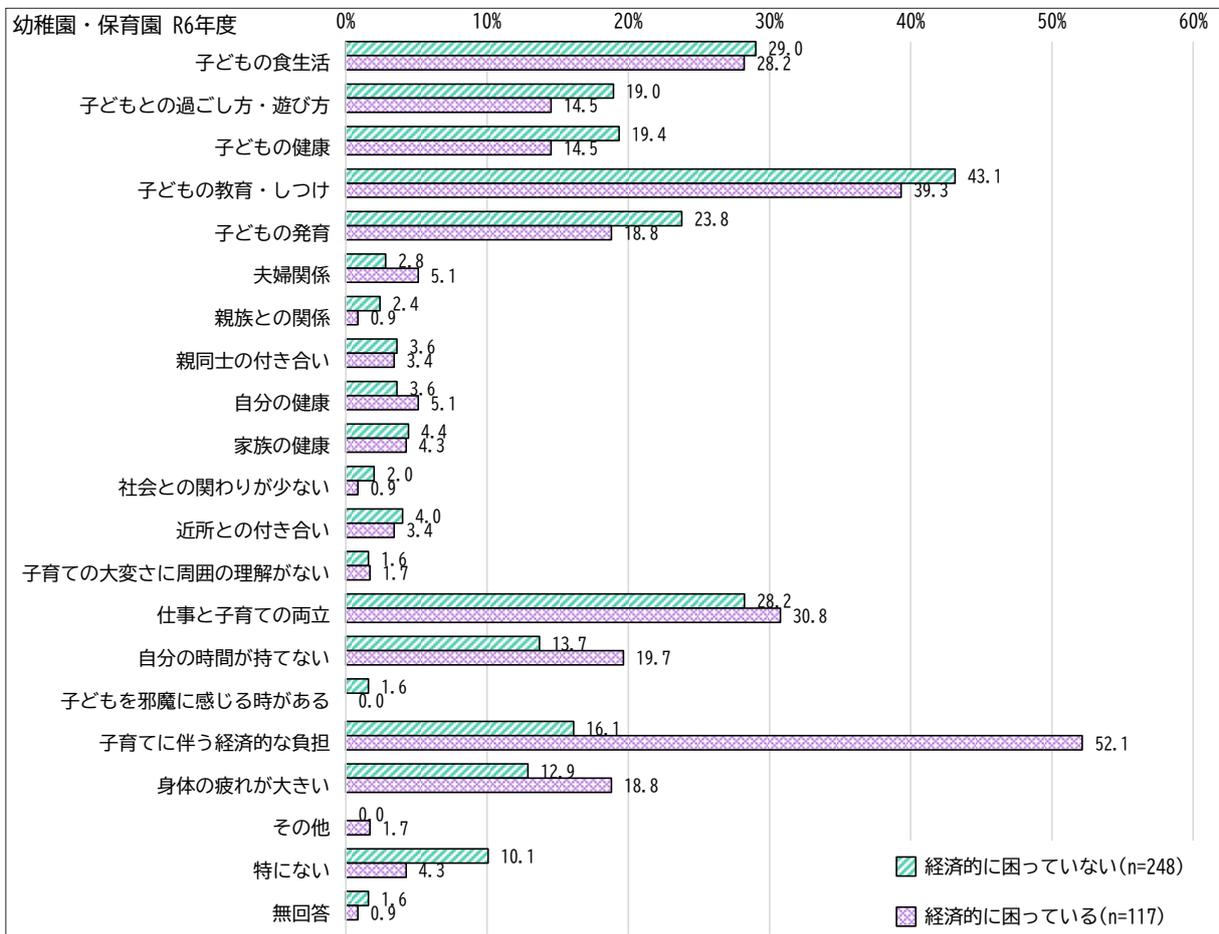
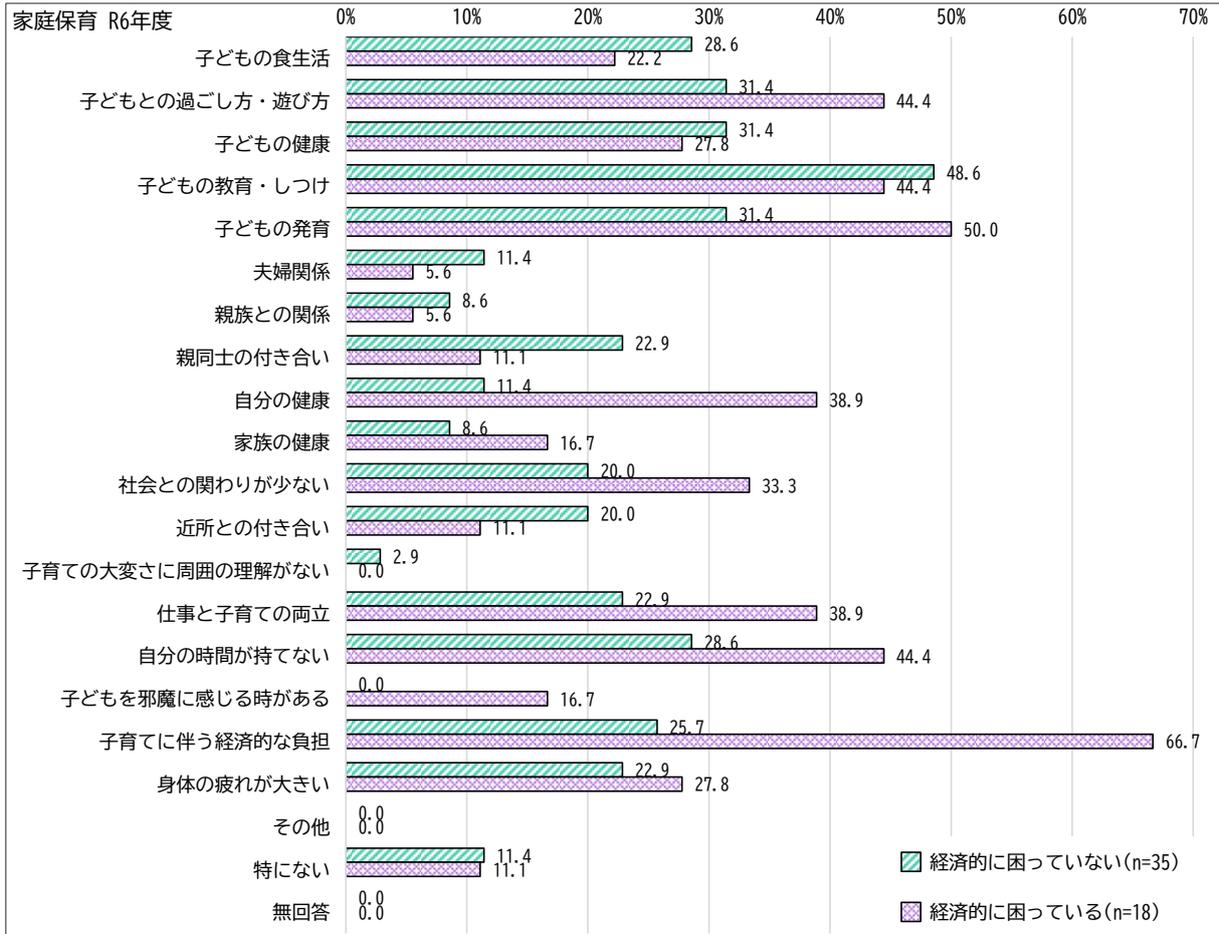
○経済状況でみると、「経済的に困っている」は「経済的に困っていない」と比べて、家庭保育では「子どもとの過ごし方・遊び方」「子どもの発育」「自分の健康」「社会との関わり」が少なく、「仕事と子育ての両立」「自分の時間が持てない」「子育てに伴う経済的な負担」が高く、「親同士の付き合い」が低く、幼稚園・保育園及び小学生では「子育てに伴う経済的な負担」が高くなっており、10ポイント以上差が生じています。

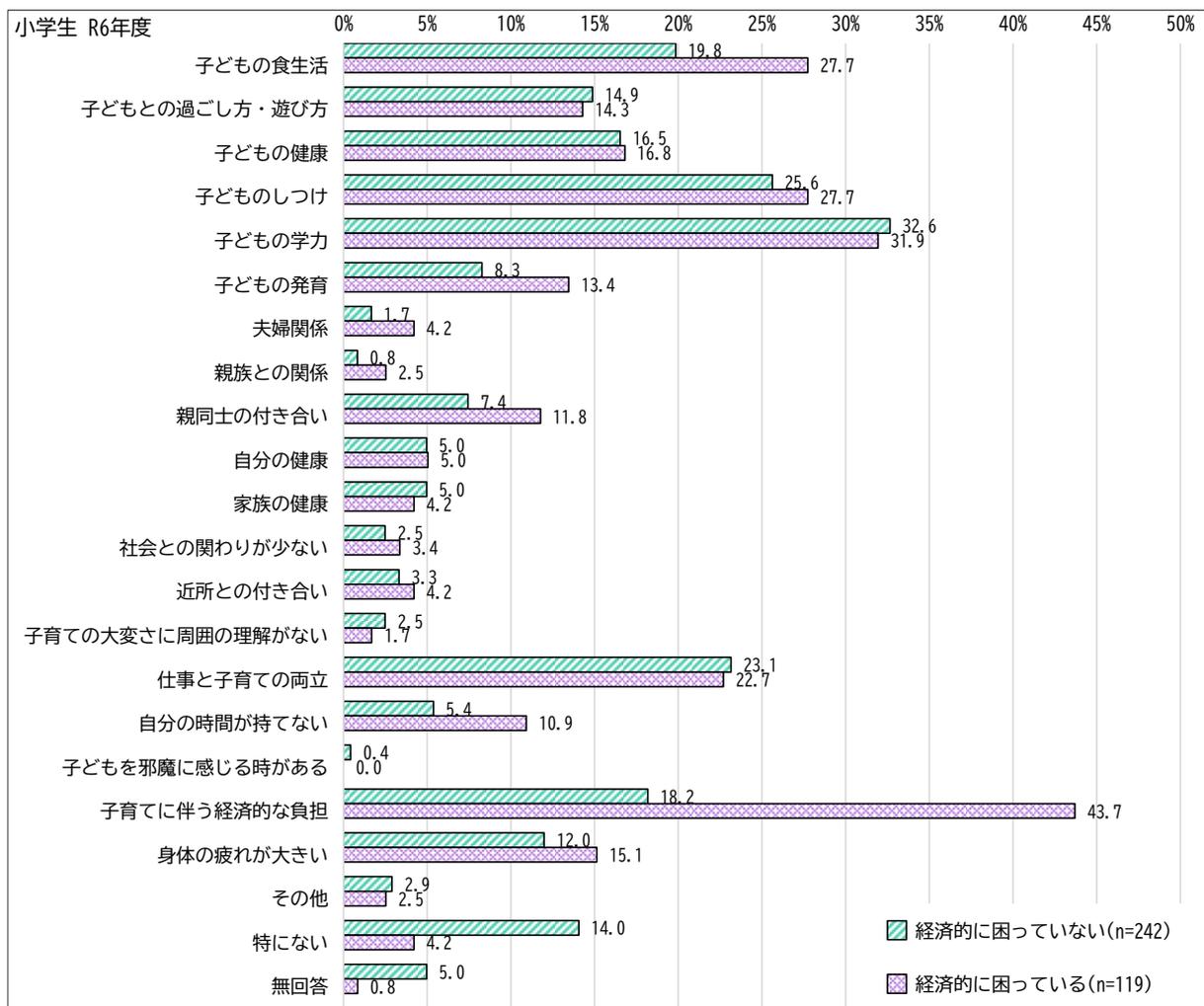
【子育ての悩み×配偶関係】





### 【子育ての悩み×経済状況】

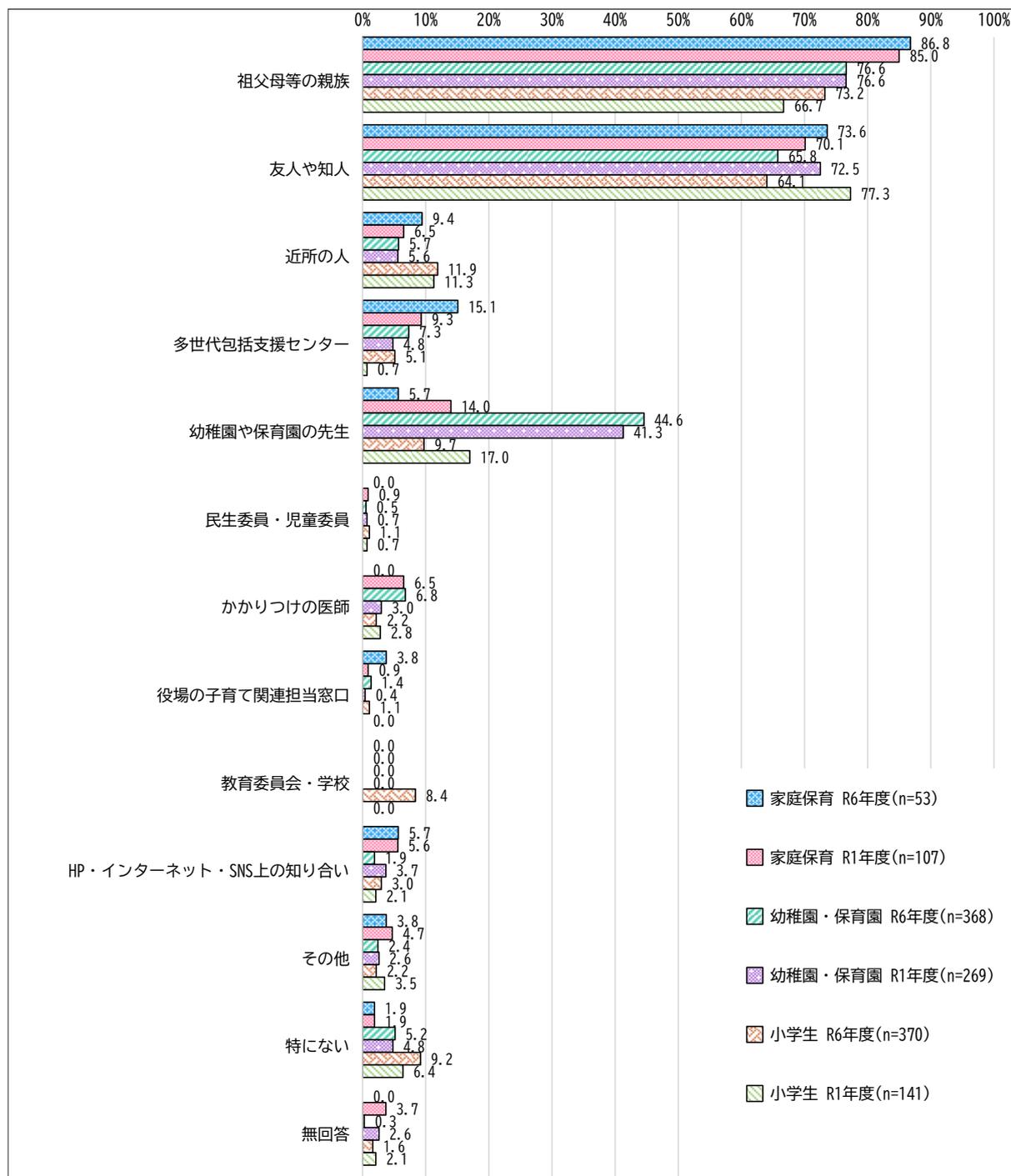




(2) お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は誰（どこ）ですか。（複数回答）【家庭：問 35、幼保：問 40、小学生：問 24】

○いずれも「祖父母等の親族」（家庭：86.8%、幼保：76.6%、小学生：73.2%）が最も高く、次いで「友人や知人」（家庭：73.6%、幼保：65.8%、小学生：64.1%）となっています。また、幼稚園・保育園では「幼稚園や保育園の先生」が4割を超えています。

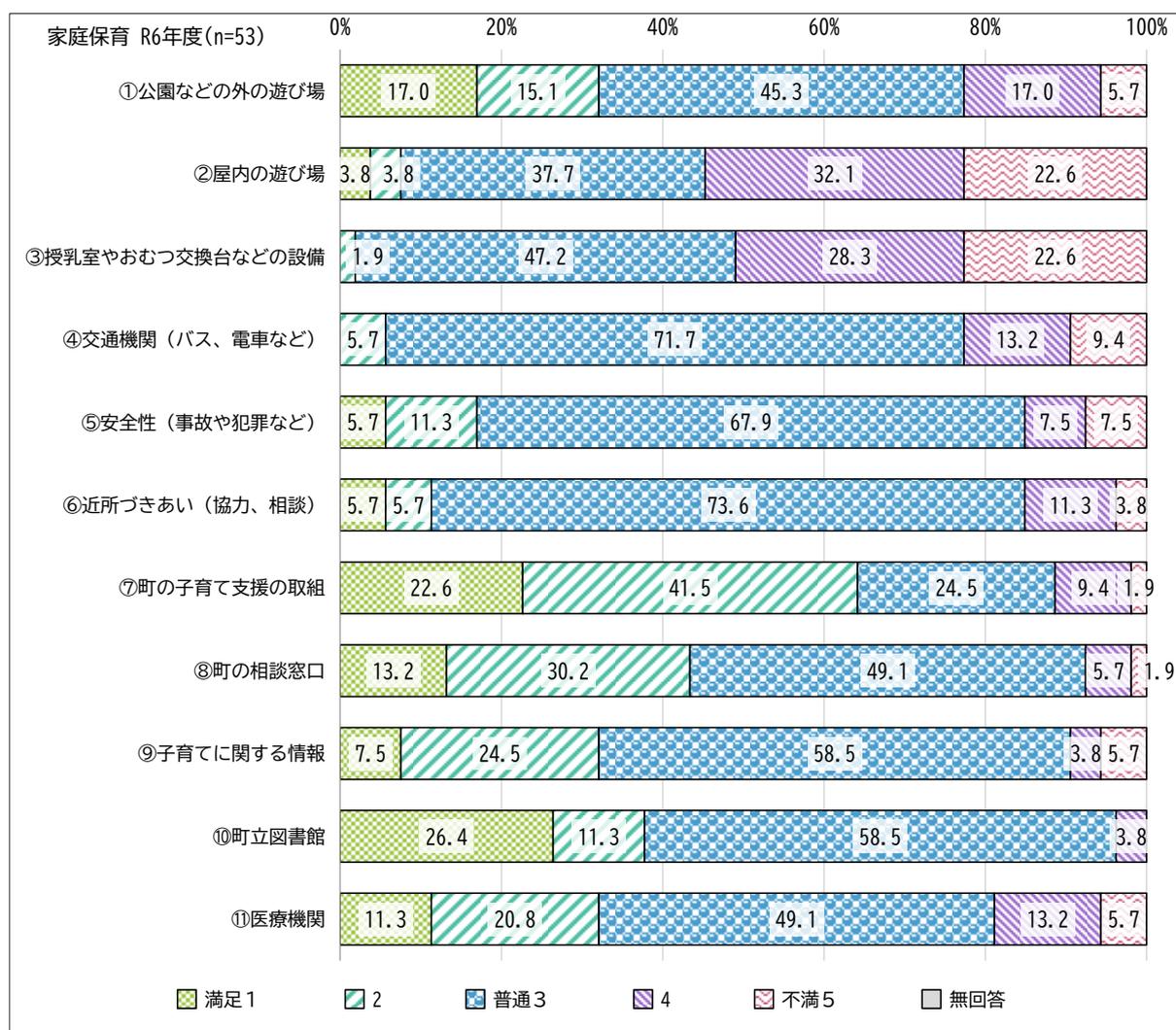
○前回調査との比較をみると、小学生では「友人や知人」が13.2ポイント低くなっています。



(3) 佐々町における子育ての環境や支援の満足度をそれぞれ5段階で評価してください。【家庭：問36、幼保：問41、小学生：問25】

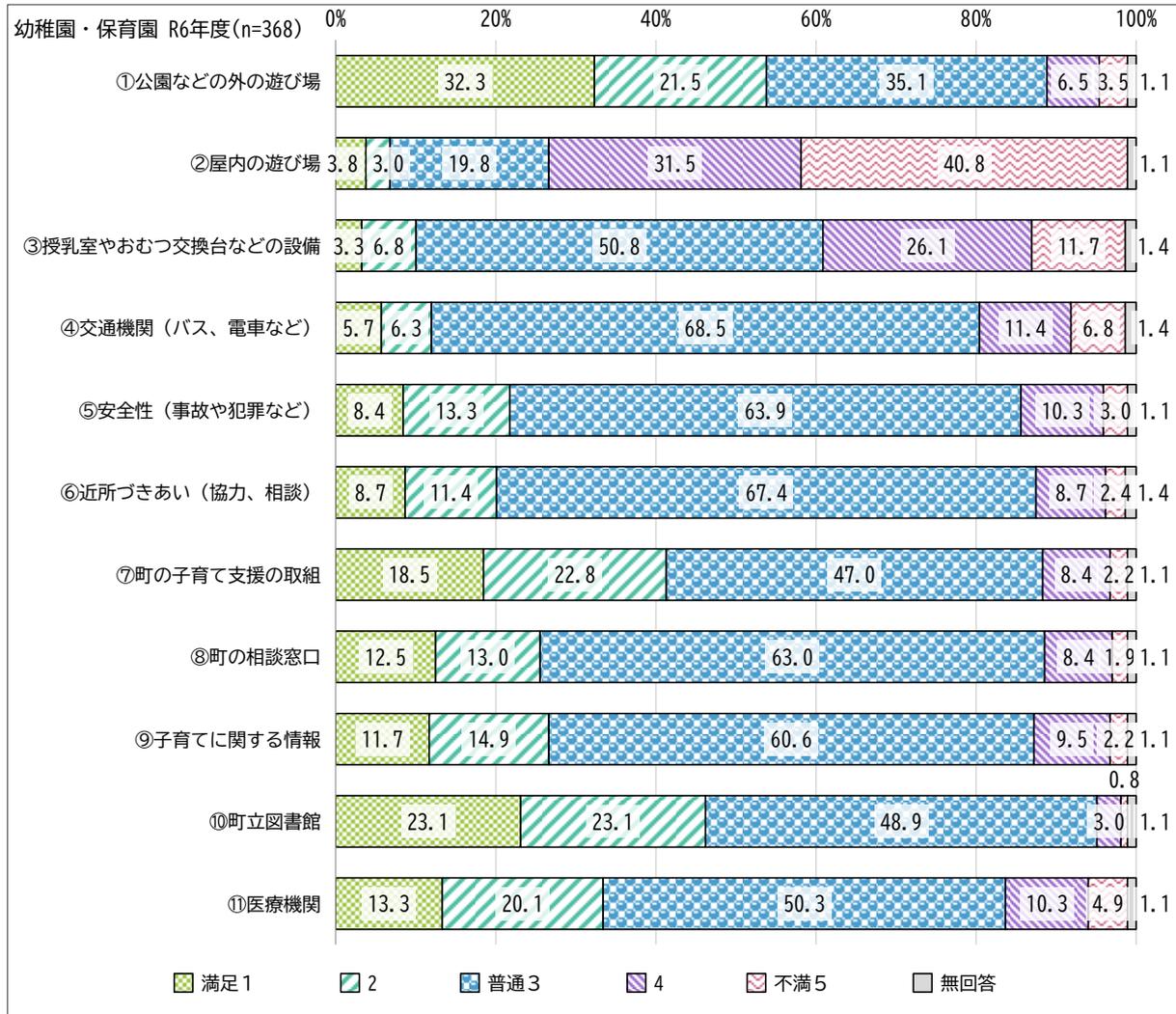
○佐々町における子育て環境や支援の満足度について、家庭保育において満足度が高い（満足1＋満足2）のは「町の子育て支援の取組」64.1%、次いで「町の相談窓口」43.4%、「町立図書館」37.7%となっています。反対に、不満足（不満4＋不満5）なものについては、「屋内の遊び場」54.7%、次いで「授乳室やおむつ交換台などの設備」50.9%、「公園などの外の遊び場」22.7%となっています。

【満足度：家庭保育】



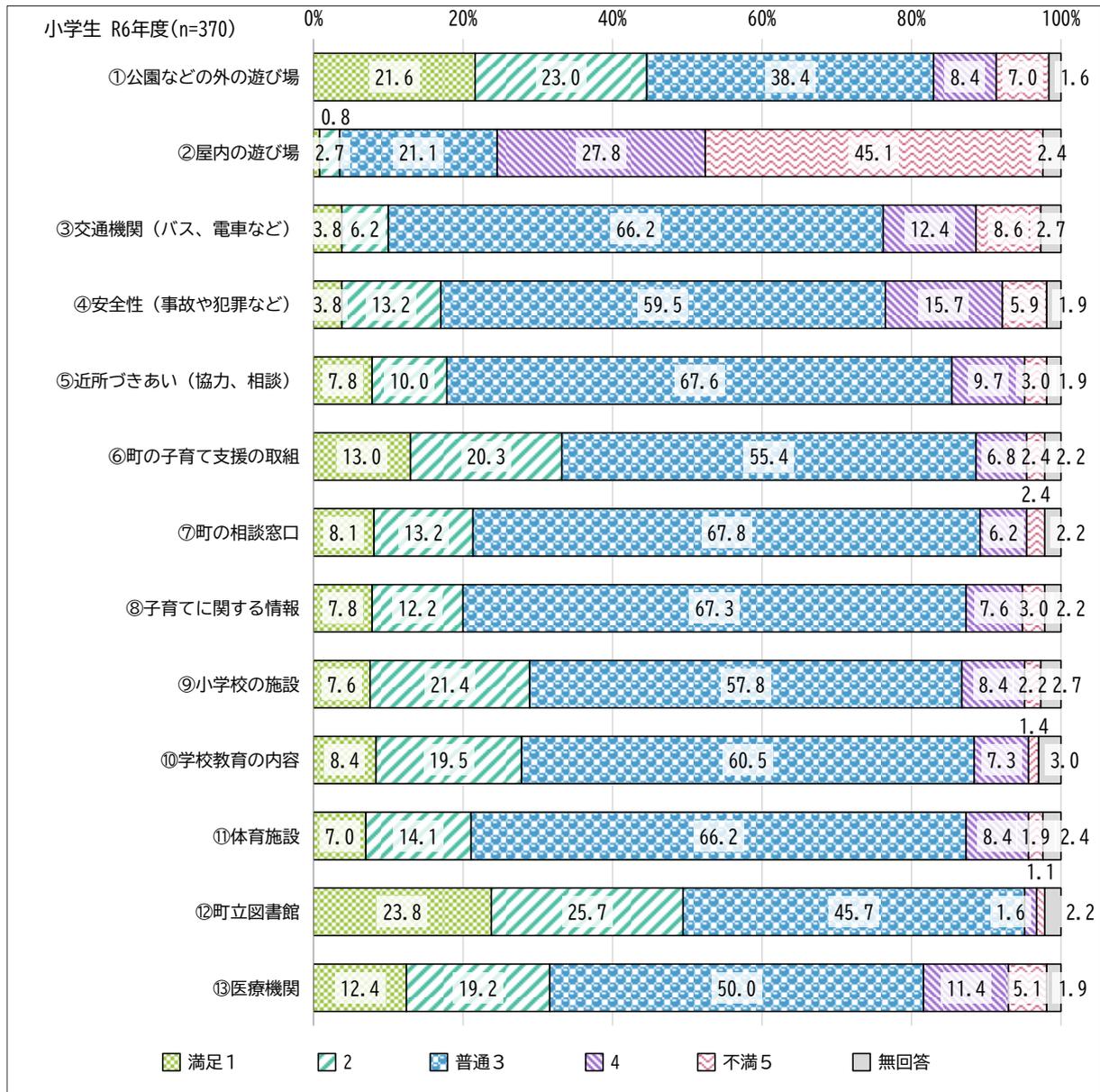
○幼稚園・保育園で満足度が高いのは「公園などの外の遊び場」53.8%、次いで「町立図書館」46.2%、「町の子育て支援の取組」41.3%となっています。反対に、不満足なものについては、「屋内の遊び場」72.3%、次いで「授乳室やおむつ交換台などの設備」37.8%、「交通機関（バス、電車など）」18.2%となっています。

【満足度：幼稚園・保育園】

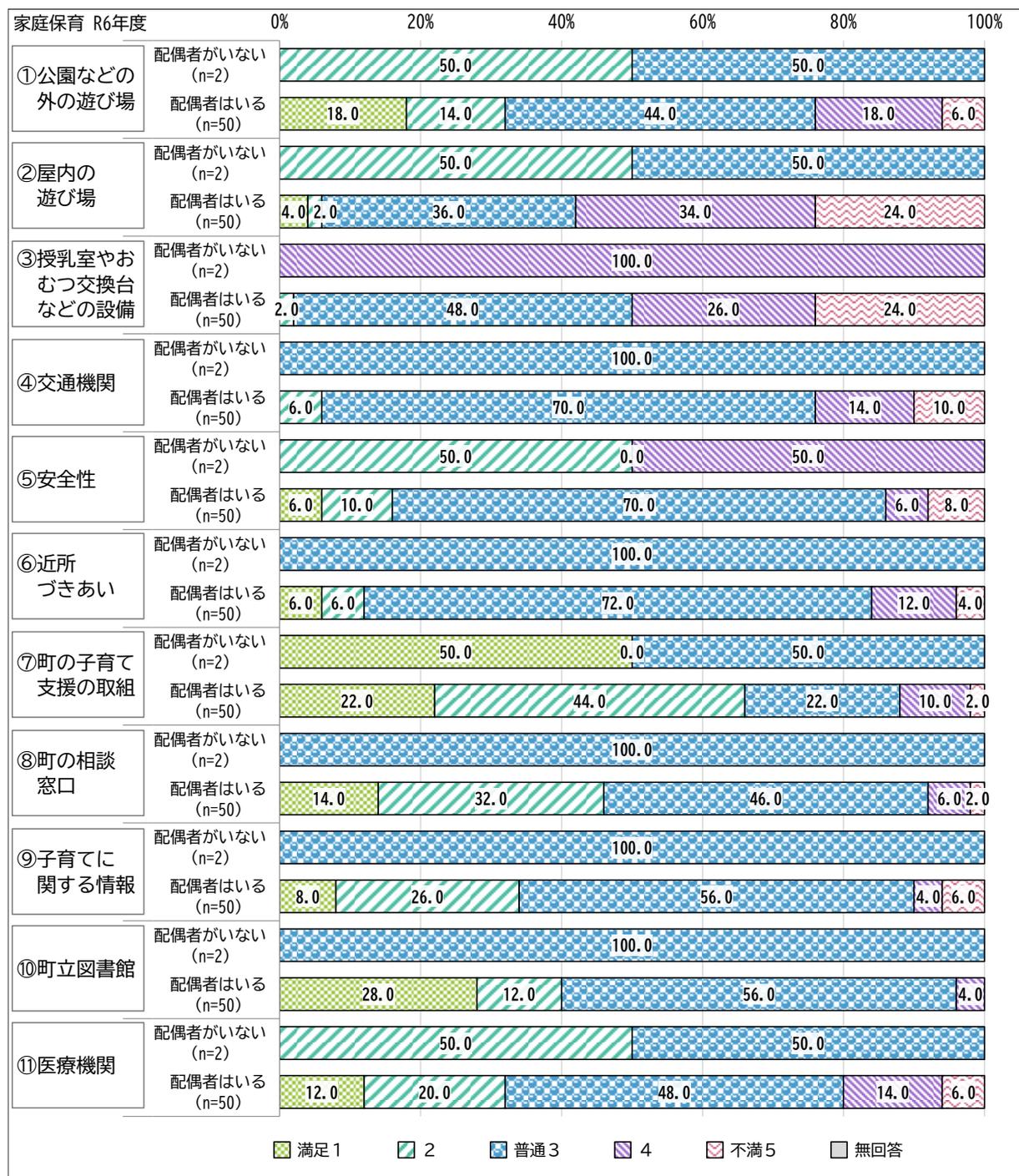


○小学生で満足度が高いのは「町立図書館」49.5%、次いで「公園などの外の遊び場」44.6%、「町の子育て支援の取組」33.3%となっています。反対に、不満足なものについては、「屋内の遊び場」72.9%、次いで「安全性（事故や犯罪など）」21.6%、「交通機関（バス、電車など）」21.0%となっています。

【満足度：小学生】

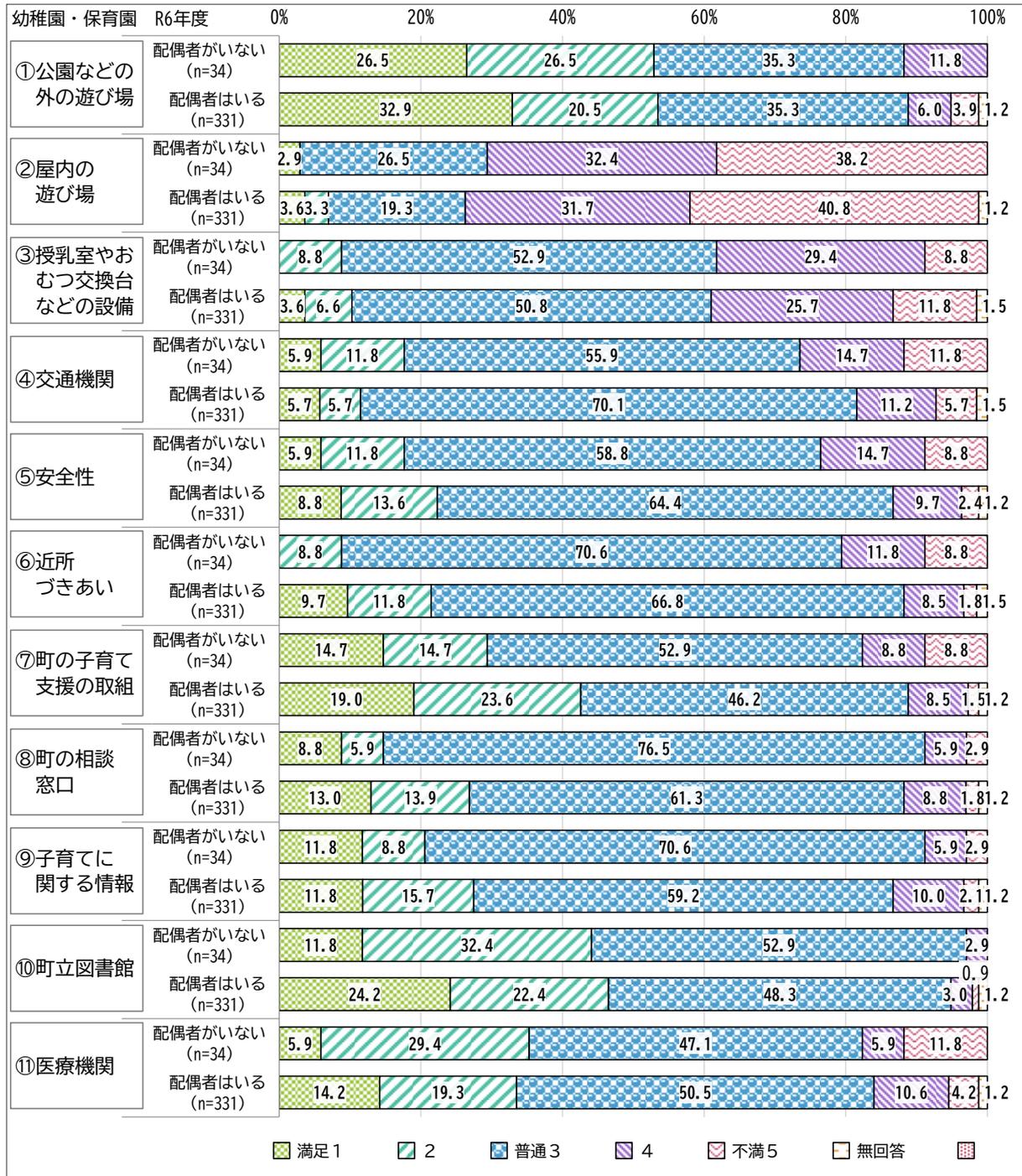


【満足度×配偶関係：家庭保育】



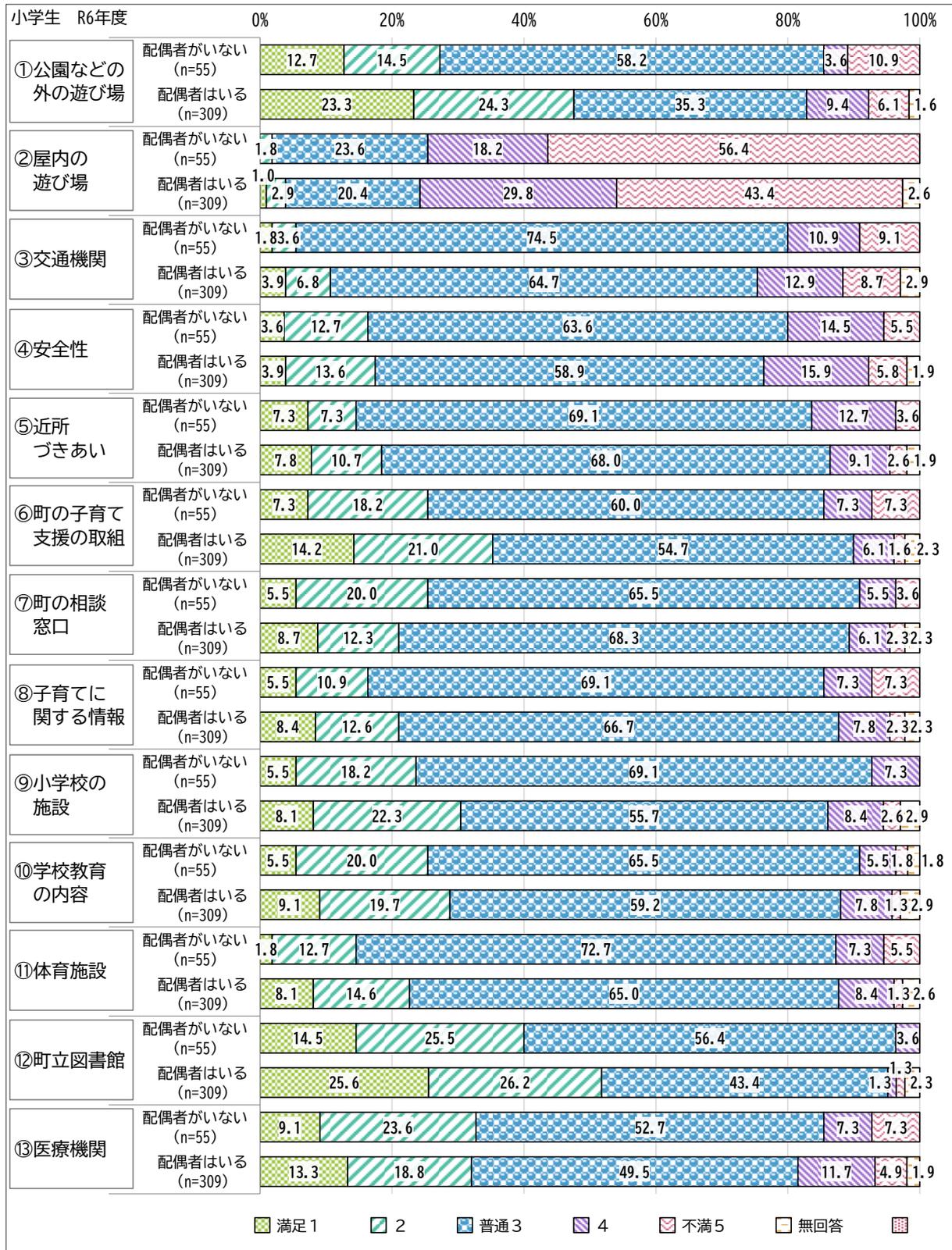
○配偶関係でみると、幼稚園・保育園では「配偶者がいない」は「配偶者はいる」と比べて、満足している割合が「交通機関（バス、電車など）」「医療機関」以外低くなっており、「安全性（事故や犯罪など）」「近所づきあい（協力、相談）」では不満足度が10ポイント以上高くなっています。

【満足度×配偶関係：幼稚園・保育園】



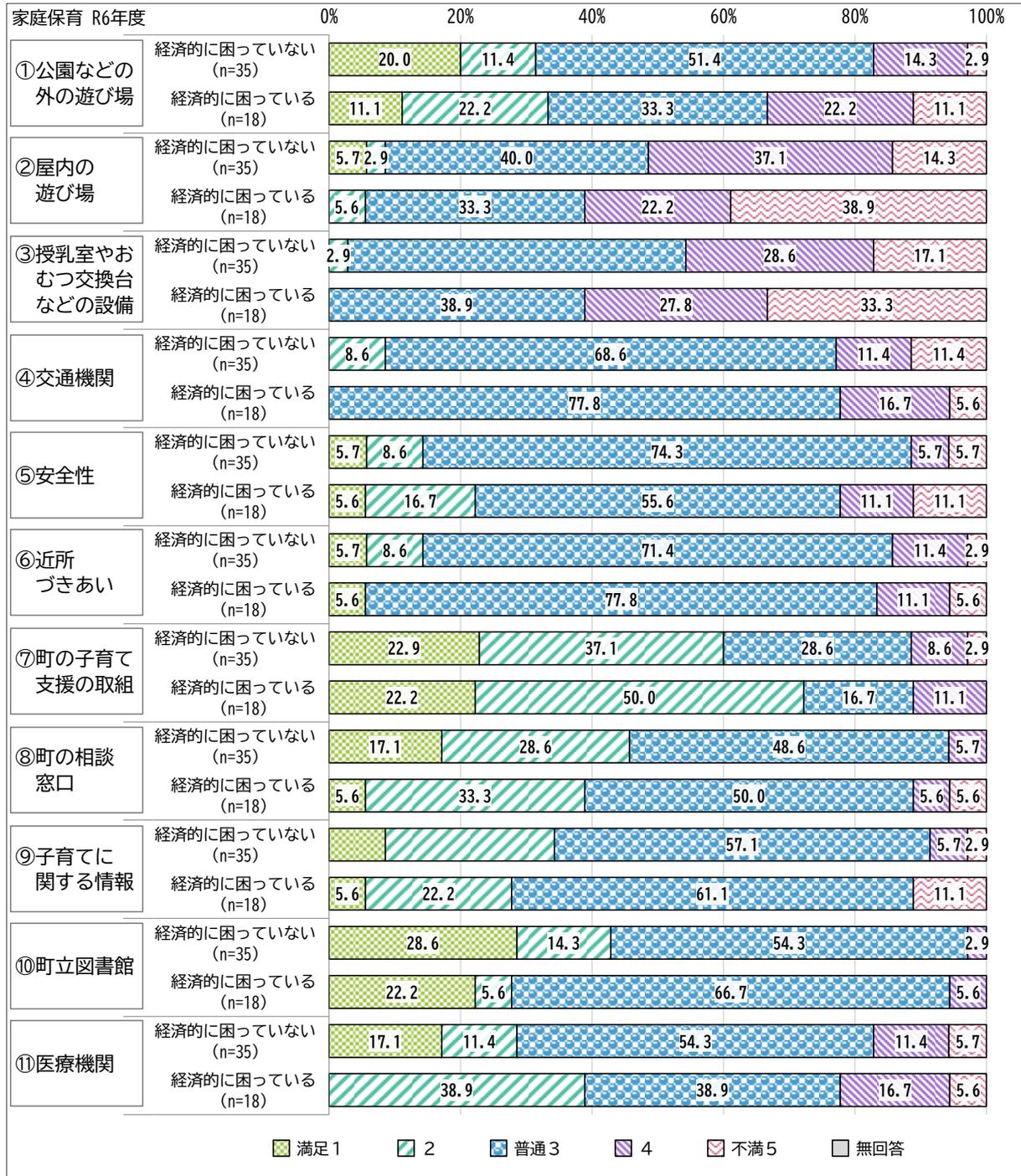
○配偶関係でみると、小学生では「配偶者がいない」は「配偶者はいる」と比べて「公園などの外の遊び場」「町立図書館」の満足度が10ポイント以上低くなっています。

【満足度×配偶関係：小学生】



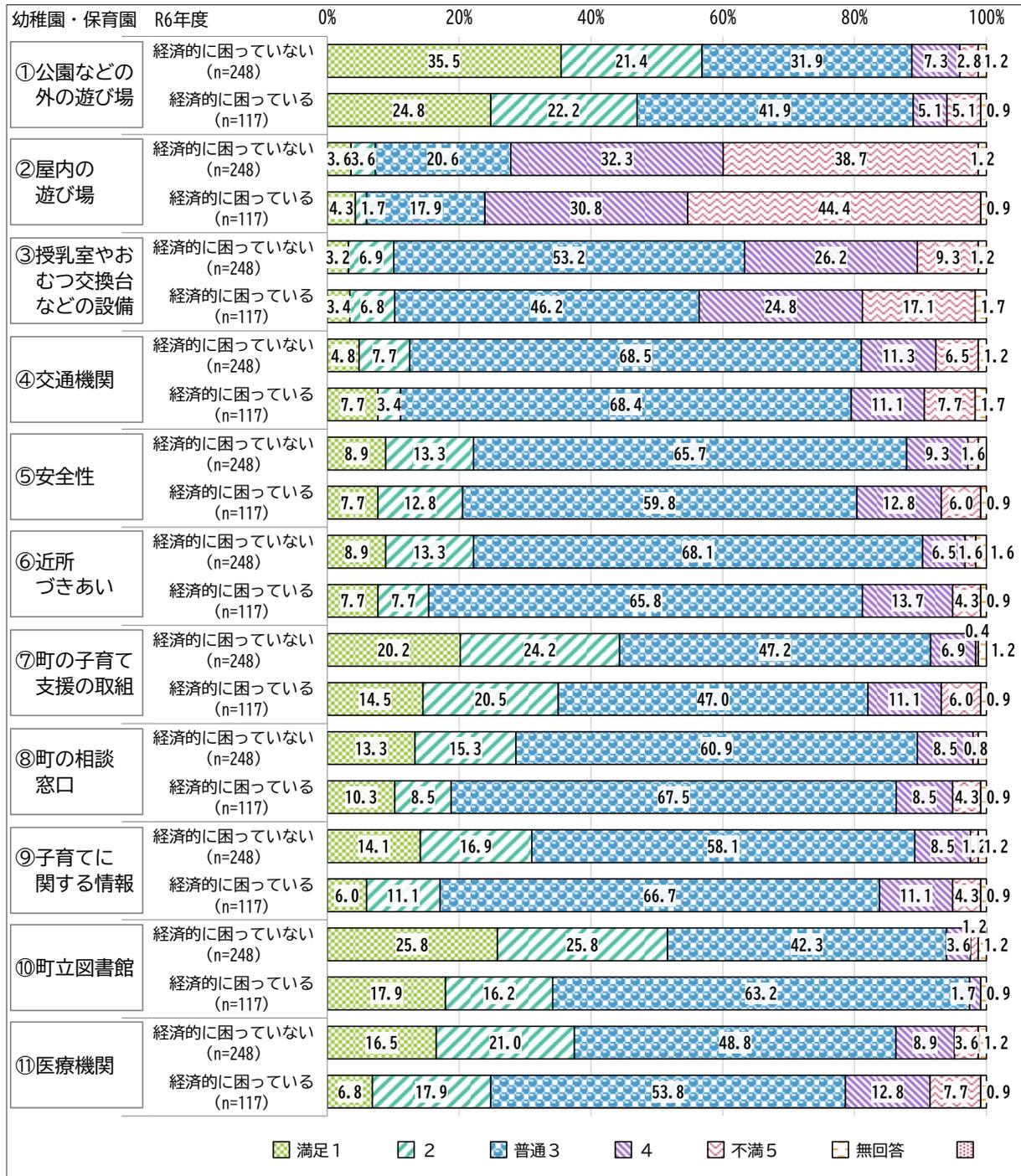
○経済状況でみると、家庭保育では「経済的に困っている」は「経済的に困っていない」と比べて、「町の子育て支援の取組」「医療機関」の満足度が高く、「公園などの外の遊び場」「授乳室やおむつ交換台などの設備」「安全性（事故や犯罪など）」の不満足度が高くなっており、10ポイント以上差が生じています。

【満足度×経済状況：家庭保育】



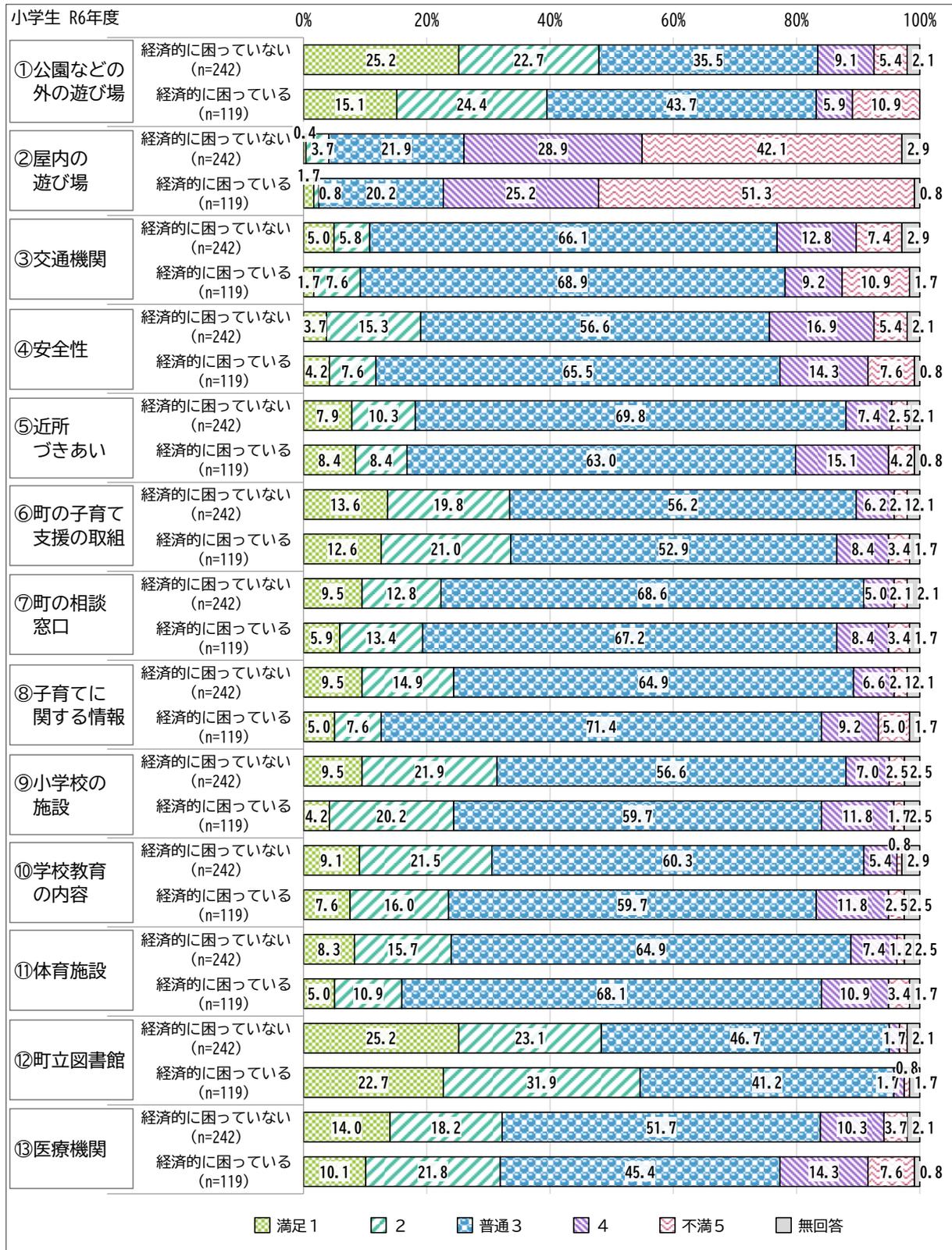
○経済状況でみると、幼稚園・保育園では「経済的に困っている」は「経済的に困っていない」と比べて、「子育てに関する情報」「町立図書館」「医療機関」の満足度が10ポイント以上低くなっています。

【満足度×経済状況：幼稚園・保育園】



○経済状況でみると、小学生では「経済的に困っている」は「経済的に困っていない」と比べて、「子育てに関する情報」の満足度が11.8ポイント低くなっています。

【満足度×経済状況：小学生】



(4) 問 42 で、特に高く評価した項目及び特に低く評価した項目があれば、その理由をお答えください。【家庭：問 37、幼保：問 42、小学生：問 26】

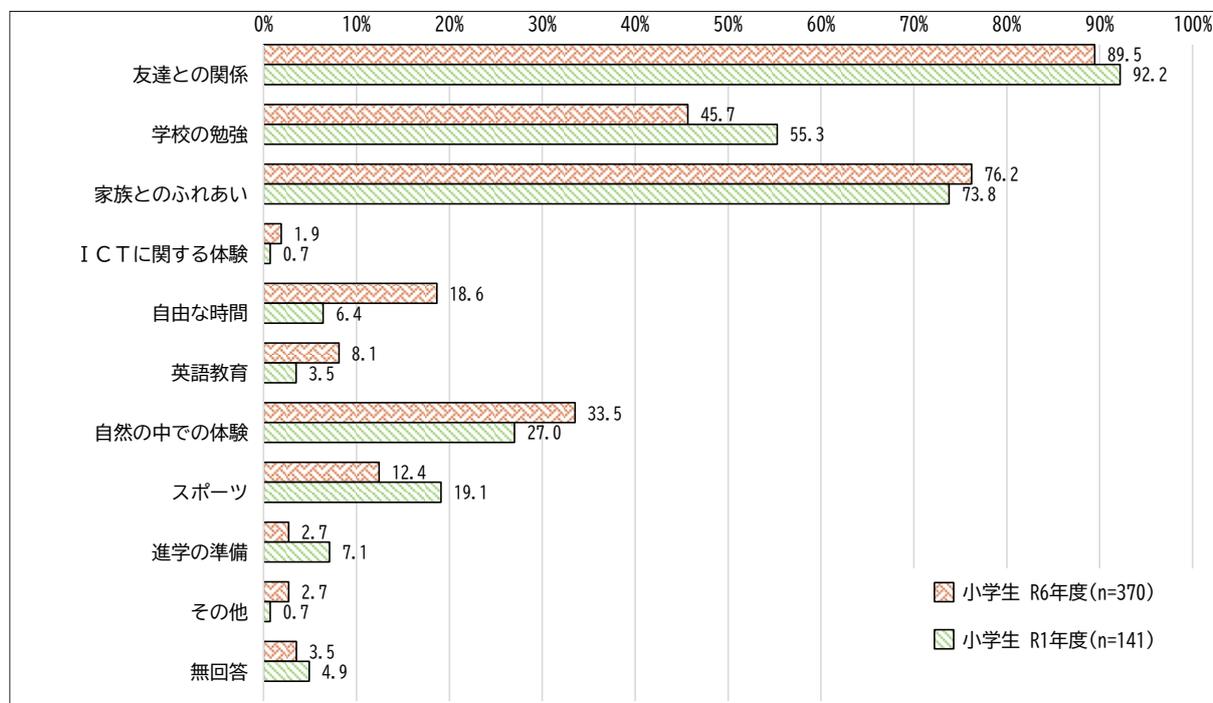
※詳細は、

別紙「佐々町 子ども・子育て及び子どもの生活状況アンケート調査 結果報告書(自由記述)」に掲載

(お子さんが小学1～3年生の方のみ)

(5) 子どもが成長する上で大切だと思っていることは何ですか。(複数回答)  
【小学生：問 27】

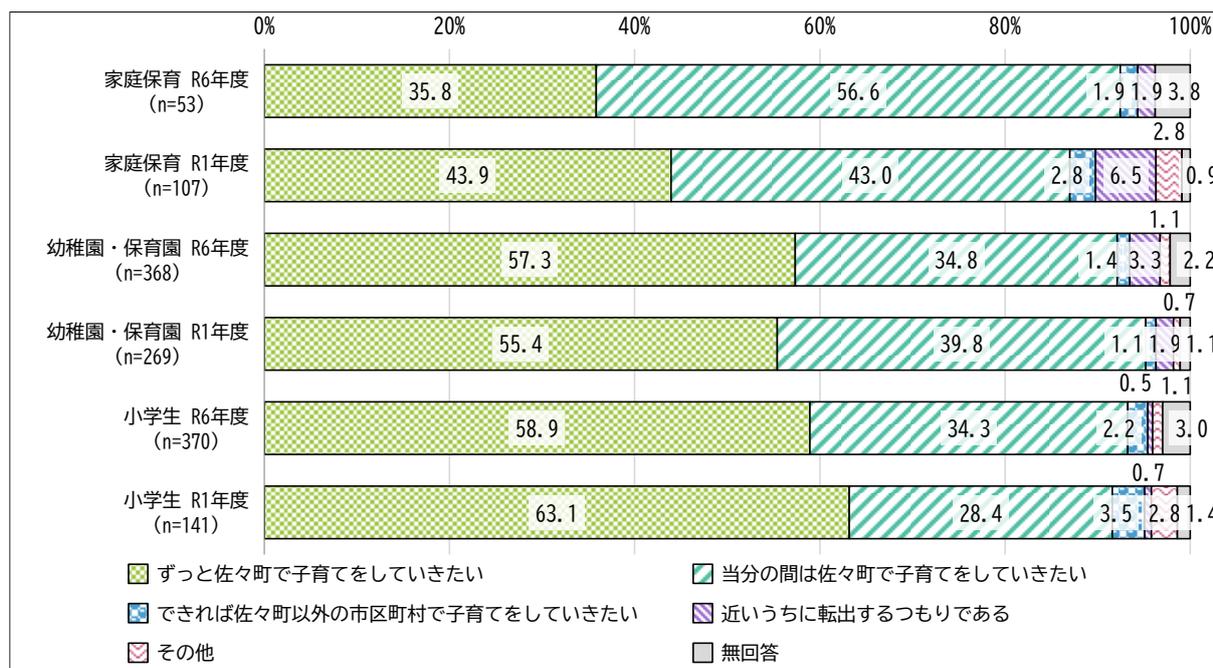
○「友達との関係」が 89.5%と最も高く、次いで「家族とのふれあい」76.2%、「学校の勉強」45.7%となっています。



(6) 今後も、佐々町で子育てをしていきたいと思いませんか。

【家庭：問 38、幼保：問 43、小学生：問 28】

- 家庭保育では「当分の間は佐々町で子育てをしていきたい」56.6%、幼稚園・保育園及び小学生では「ずっと佐々町で子育てをしていきたい」（幼保：57.3%、小学生：58.9%）が最も高くなっています。
- 前回調査との比較をみると、家庭保育では「当分の間は佐々町で子育てをしていきたい」が13.6ポイント高くなっています。



(7) 現在のお子さんの人数、今後の出産予定、理想とするお子さんの人数を教えてください。【家庭：問 39、幼保：問 44、小学生：問 29】

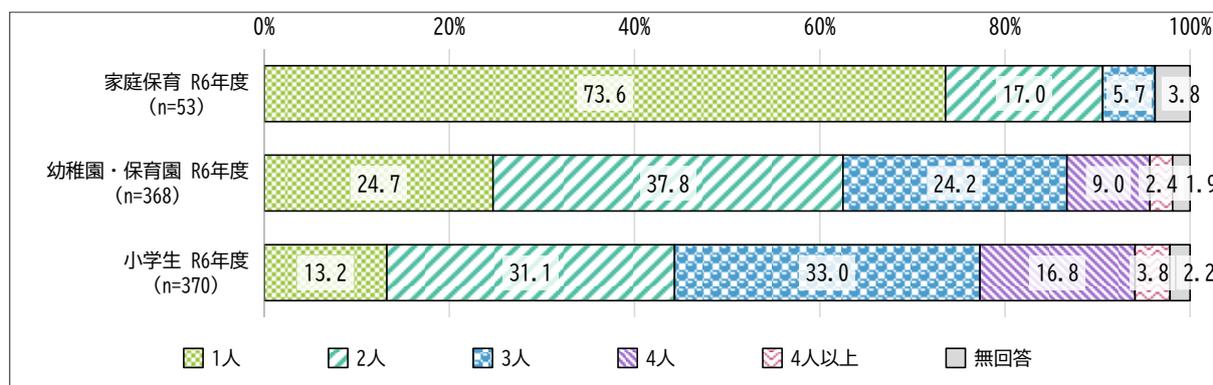
- 理想とする子どもの人数の平均は、家庭保育では「2.5人」、幼稚園・保育園では「2.8人」、小学生では「2.9人」となっており、いずれも「理想」と比べて「現在」の子ども的人数が低くなっています。
- 前回調査との比較をみると、家庭保育では「今後」は高いものの、「現在」「理想」の子ども的人数が低くなっています。

(人)

	家庭保育		幼稚園・保育園		小学生	
	R1年度調査	R6年度調査	R1年度調査	R6年度調査	R1年度調査	R6年度調査
現在	2.2	1.3	2.1	2.3	2.1	2.7
今後	0.3	0.9	0.4	0.3	0.1	0.1
理想	2.8	2.5	2.7	2.8	2.1	2.9

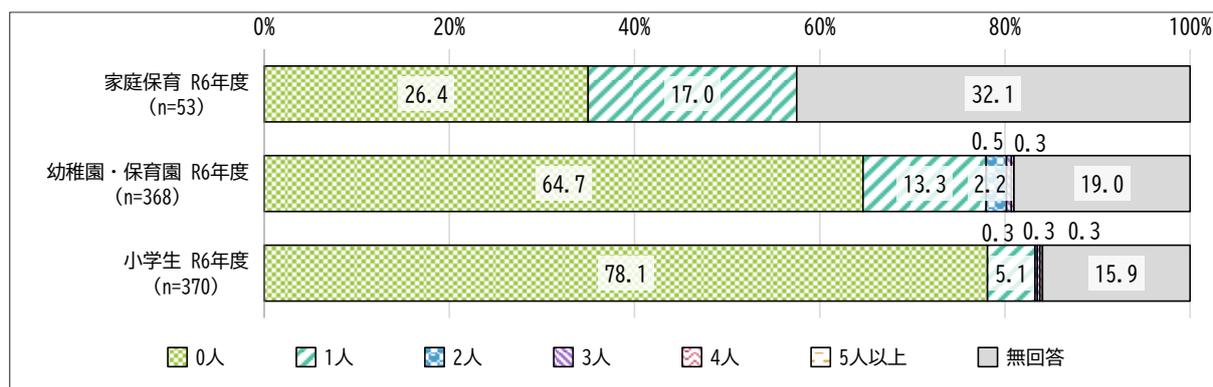
### ①現在の子ども的人数

○現在の子ども的人数について、家庭保育では「1人」73.6%、幼稚園・保育園では「2人」37.8%、小学生では「3人」33.0%が最も高くなっています。



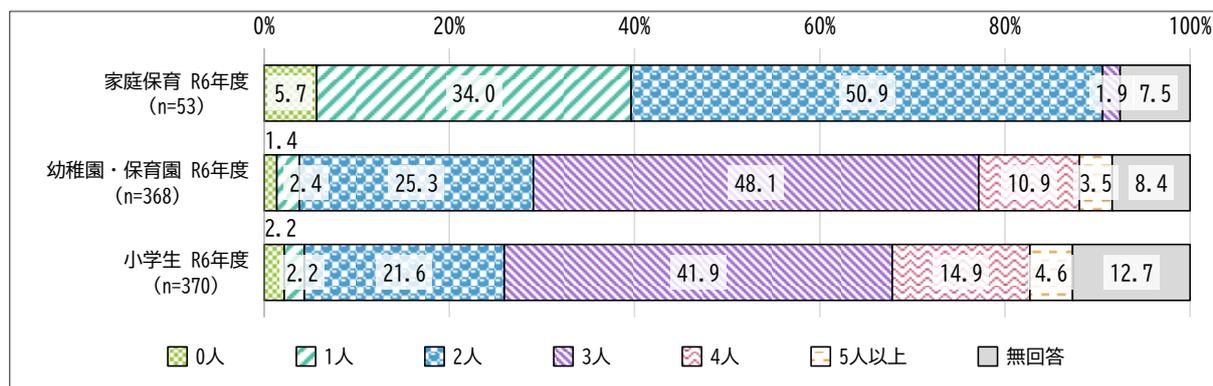
### ②今後の出産予定の子ども的人数

○今後の出産予定の子ども的人数については、いずれも「0人」（家庭：26.4%、幼保：64.7%、小学生：78.1%）が最も高くなっています。



### ③理想とする子ども的人数

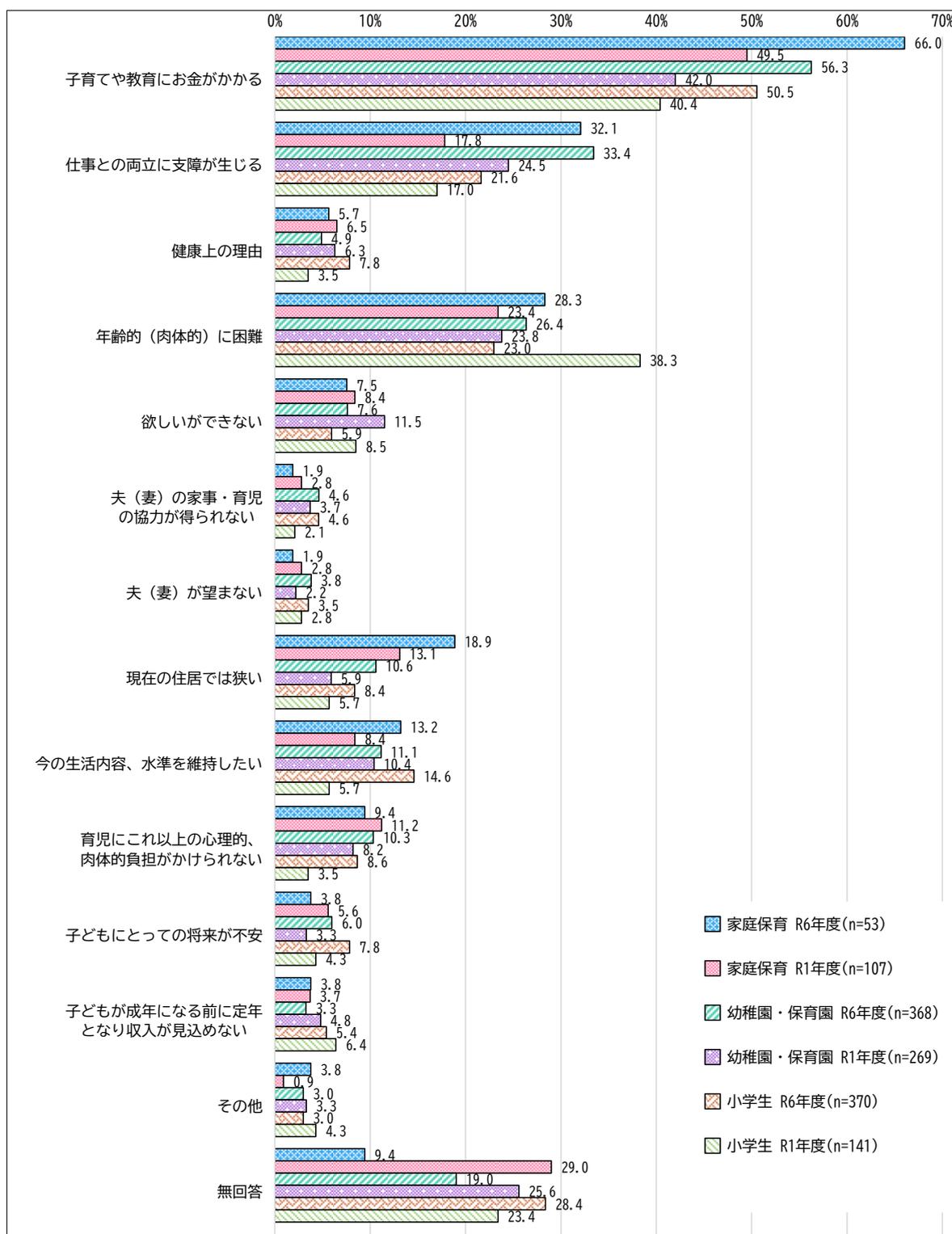
○理想とする子ども的人数について、家庭保育では「2人」50.9%、幼稚園・保育園及び小学生では「3人」（幼保：48.1%、小学生：41.9%）が最も高くなっています。



(8) 理想とするお子さんの人数を実現できないとすれば、その理由は何ですか。  
 (複数回答)【家庭：問40、幼保：問45、小学生：問30】

○理想とする子どもの人数を実現できない理由については、いずれも「子育てや教育にお金がかかる」(家庭：66.0%、幼保：56.3%、小学生：50.5%)が最も高く、次いで、家庭保育及び幼稚園・保育園では「仕事との両立に支障が生じる」(家庭：32.1%、幼保：33.4%)、小学生では「年齢的(肉体的)に困難」23.0%となっています。

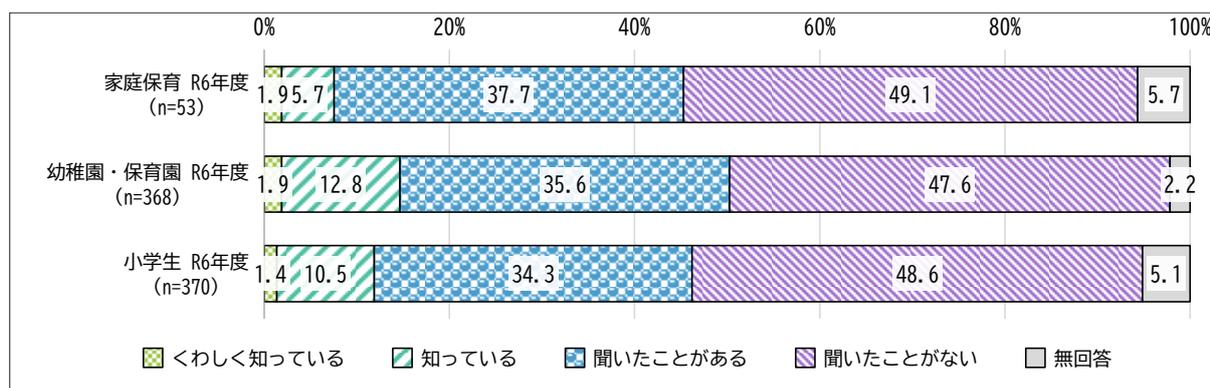
○前回調査との比較をみると、いずれも「子育てや教育にお金がかかる」が高く、家庭保育では「仕事との両立に支障が生じる」、小学生では「年齢的(肉体的)に困難」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。



(9) あなたは「子ども基本法」や「子どもの権利条約」について聞いたことがありますか。【家庭：問41、幼保：問46、小学生：問31】

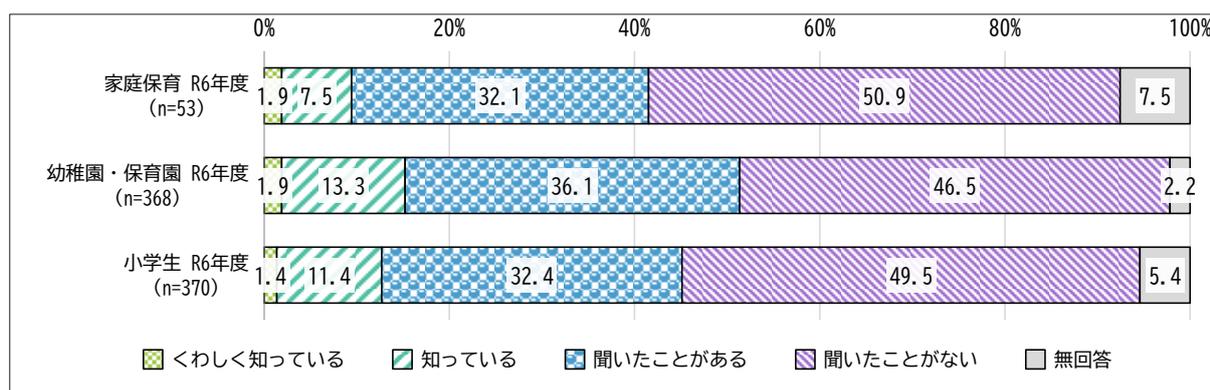
◆子ども基本法

○いずれも「聞いたことがない」（家庭：49.1%、幼保：47.6%、小学生：48.6%）が最も高く、次いで「聞いたことがある」（家庭：37.7%、幼保：35.6%、小学生：34.3%）となっており、「子ども基本法」の認知度は、家庭保育では1割未満、幼稚園・保育園及び小学生では1割台となっています。



◆子どもの権利条約

○いずれも「聞いたことがない」（家庭：50.9%、幼保：46.5%、小学生：49.5%）が最も高く、次いで「聞いたことがある」（家庭：32.1%、幼保：36.1%、小学生：32.4%）となっており、「子どもの権利条約」の認知度は、家庭保育では1割未満、幼稚園・保育園及び小学生では1割台となっています。



(10) 教育・保育事業の充実など子育て支援についての意見について。【家庭：問42、幼保：問47、小学生：問32】

※詳細は、

別紙「佐々町 子ども・子育て及び子どもの生活状況アンケート調査 結果報告書(自由記述)」に掲載